



昭和十八年一月二十五日發行

國際月報

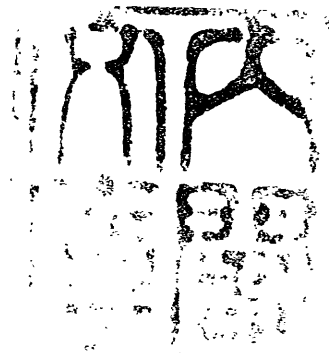
（自昭和十七年十二月一日
至昭和十七年十二月末日）

第二十五號

情報局編輯

319
323

内閣文庫
八九五〇四号 冊
和書



319
323

國際月報 第二十五號 目次

(卷頭言) 米英協力の脆弱點

大東亞戰爭一周年記念國民大會に於ける東條内閣總理大臣演説……………二頁

日獨伊間協定一周年に關する獨逸國ヒットラー總統、伊太利國ムツソリーニ首相宛東條内閣總理大臣祝電……………七

日獨伊間協定調印一周年に關する東條内閣總理大臣宛獨逸國ヒットラー總統祝電……………八

日獨伊間協定調印一周年に關する東條内閣總理大臣宛伊太利國ムツソリーニ首相祝電……………九

日獨伊間協定調印一周年に關する獨逸國リッペン外相、伊太利國チアノ外相宛谷外務大臣祝電……………九

日獨伊間協定調印一周年に關する谷外務大臣宛獨逸國リッペン外相祝電……………一〇

日獨伊間協定調印一周年に關する谷外務大臣宛伊太利國チアノ外相祝電……………一〇

日獨伊間協定調印一周年記念日外務大臣晩餐會に於ける谷外務大臣挨拶……………一一

日獨伊間協定調印一周年記念日に於ける谷外務大臣放送演説……………一三

獨伊記者共同會見に於ける東條内閣總理大臣メッセーヂ……………一五

獨伊記者共同會見に於ける東條内閣總理大臣の應答(要旨)……………一六

「米・英撃伏の決意」——谷外務大臣放送講演……………二〇

「最近の國際情勢」(北阿作戦と米英の確執)——堀情報局第三部長放送講演……………二五

大東亞戦争一周年記念日(日泰交隣放送に於ける東條内閣總理大臣放送講演)……………三二

大東亞戦争一周年記念日(日泰交隣放送に於ける泰國ビブン首相放送講演)……………三四

日泰同盟條約調印一周年に於ける泰國ビブン首相宛東條内閣總理大臣祝電……………三七

日泰同盟條約調印一周年祝賀大會に於ける東條内閣總理大臣祝辭……………三七

日泰文化協定批准交換に關する情報局發表……………四〇

汪中華民國國民政府主席兼行政院院長來訪に關する情報局發表……………四五

汪院長歡迎晩餐會に於ける東條内閣總理大臣挨拶——於内閣總理大臣官邸……………四六

汪院長歡迎晩餐會に於ける谷外務大臣挨拶——於外務大臣官邸……………四八

南方軍政狀況に關する陸軍當局談……………五〇

南方地名呼稱に關する情報局發表……………五五

第八十一議會に於ける東條陸軍大臣戰況報告……………五五

第八十一議會に於ける島田海軍大臣戰況報告……………六二

開戦以來帝國陸軍綜合戰果に關する大本營發表……………六八

開戦以來十二月七日迄の大本營發表に依る帝國海軍綜合戰果……………七一

米比敗殘兵剿滅綜合戰果に關する大本營發表……………七四

ルンガ沖夜戰戰果に關する大本營發表……………七五

陸軍航空部隊チックゴン攻撃戰果に關する大本營發表……………七六

ニューギニヤ島方面帝國海軍航空部隊戰果に關する大本營發表……………七六

チックゴン及びフェンニイ空襲戰果に關する大本營發表……………七七

大島島來襲敵機撃墜戰果に關する大本營發表……………七七

緬甸方面帝國陸軍航空部隊東部印度敵基地攻撃戰果に關する大本營發表……………七八

帝國海軍戰閉隊ムンダ上空戰果に關する大本營發表……………七九

國 際 時 報

ダルラン暗殺事件を繞る政治的波瀾……………八〇

西亞諸國の食糧不足とイランの食糧暴動……………八四

米英共同諸委員會の機能とその運営狀況……………八七

ゴム不足に基く米英の窮境……………九一

一九四二年度米國商船建造及擊沈數一覽表……………九七

米國に於ける非鐵金屬需給狀況……………九八

米國戰時行政機關の概観……………一〇五

米國戰時情報局の活動狀況……………一〇九

各 國 動 向

【米 國】

大東亞戰爭一周年記念日……………一二三

——海軍省眞珠灣損害發表……………一二三

開戦一周年に際し……………一二四

大統領等將士を激勵……………一二四

大東亞戰爭一箇年間の米軍損害及び現有兵力……………一二五

潜水艦戦果發表……………一二五

ハワイ駐屯軍司令官華府到着……………一二五

クーリツジ號ソロモン水域で觸雷……………一二五

海外派遣米軍駐屯地五十餘箇所……………一二六

チュニジア戰況停滯……………一二七

新空軍司令官北阿着……………一二七

チュニジア空中戦の意義……………一二七

北阿作戦の三大目的……………一二八

——スチムソン陸軍長官言明……………一二八

北阿方面米空軍損失……………一二八

三十八歳以上の軍籍編入停止……………一二八

大學専門學校施設の軍事徵用……………一二八

青年十五萬人に軍事特別訓練實施……………一二九

滿十八歳壯丁登録開始……………一二九

戦費一日二億四千萬弗……………一二九

武器貸與實績第七次報告……………一二九

——大統領議會に提出……………一二〇

——外 交——

對重慶外交宣傳工作強化……………一二〇

對重慶技術家派遣發表……………一二一

重慶との國際貿易與會開始……………一二一

對印外交工作積極化……………一二七

——フィリッブス對印特派發表……………一二三

對西亞外交宣傳工作活潑化……………一二三

駐土大使歸任……………一二三

米加經濟協定成立……………一二三

米亞通商協定發効……………一二三

米伯ゴム協定調印……………一二三

米葡新通商協定締結……………一二三

米濠へ銀塊供與……………一二四

駐蘇大使館附公使任命……………一二四

對蘇ゴム使節團任命……………一二四

駐芬公使歸國……………一二四

在米芬公使館の情報發行停止……………一二四

北阿經濟調査開始……………一二四

ダラン暗殺事件に關する當局言動……………一二五

大統領ジョー將軍代表を引見……………一二五

ド・ゴール訪米公表	一二五	渡收特許權全面的利用	一三二
米・リ兩國協定内容	一二五	人的資源委員會の權限擴大	一三一
エチオピアに武器貸與法適用	一二六	一九四三年末軍需關係人員六千五百萬	一三一
外國領土局新設	一二六	産業都市への人口移動顯著	一三一
—— 般 ——		二大労働團體和協成立	一三二
議會情勢概観	一二六	労働爭議減少	一三三
共和黨動向	一二七	十一月中の商船建造高	一三三
民主黨動向	一二七	航空機製作狀況	一三三
戰時情報局開戦第一年の成果報告	一二八	鋼鐵生産狀況	一三三
戰時生産局一九四二年度報告書要旨	一二八	人絹生産増加	一三三
ガソリン統制を全國に適用	一二九	新棉繰上高一、一七四萬俵	一三三
民需制限擴大	一三〇	一九四二年度米國農産物生産高	一三四
萬年筆鉛筆類の製造節減	一三〇	經濟諸指數	一三四
運輸不足對策	一三〇	新海保料率	一三五
食糧品統制強化	一三〇	對外貿易額	一三六
銅貨回収	一三〇	通貨流通高激増	一三六

戰時公債一般賣出成績	一三七	少年航空兵増強	一四二
一九四二年度米國民所得	一三七	空軍首腦部異動	一四二
一九四二年度物價騰貴率	一三七	各自治領兵力量發表	一四二
買物熱旺盛	一三八	戰費一日平均二千萬磅	一四二
流言蜚語四千五百件	一三八	—— 外 交 ——	
年少者の心理兇暴化	一三八	イーデン外相の世界再組織論	一四二

【英國】

—— 軍 事 ——		リットルトン對米交渉成果報告	一四二
大東亞戰爭一周年	一三九	佛領北阿外交機關擴充	一四三
—— チャーチル首相英領各地激動 ——		マ島行政をド・ゴール派に委讓	一四三
北阿戰況に一喜一憂	一三九	ダラン暗殺事件に對する當局態度	一四三
佛領ソマリランド進駐發表	一三九	西亞方面情勢檢討	一四三
北阿上陸作戰喪失艦艇十隻	一三九	對重慶派遣議員團歸國	一四三
潜水艦對策委員會設置公表	一四〇	—— 般 ——	
滑空部隊及び落下傘部隊司令官新任	一四〇	クリスマスに際し英帝激動放送	一四三
		クリスマス買物熱旺盛	一四四
		兌換券發行限度擴大	一四四

靴製造に新制限令……………一四五
花柳病並に結核患者激増……………一四五
社會保險制度調査委員會報告書公表……………一四五
食糧輸入船腹削減……………一四六
老ロイド・ジョージ石炭問題に出馬……………一四六
軍需婦人労働者不足……………一四六
労働黨に共產黨が加盟申入……………一四六
空襲による英國民死傷統計……………一四六

【獨逸】

大東亞戰爭一周年
——ドイツ各紙記念號を發行——……………一四七
「前線戦後共に戦ひつゝあり」
——ゲツベルス降誕祭メッセーじ——……………一四八
獨・勃通商協定調印……………一四九
獨・伊通商協定調印……………一四九

【伊太利】

獨・西通商協定調印……………一五〇
獨伊佛三國互頭會談發表……………一五〇
獨伊佛三國會談の意義
——外務省當局見解發表——……………一五〇
大東亞戰爭一周年
——伊國各紙日本の戦果稱揚——……………一五一
「任務は只戦ふことあるのみ」
——ムツソリーニ首相獅子吼——……………一五二
全國民産業總動員發令……………一五七
十一月中伊軍損害……………一五七
無任所相任命……………一五七
伊・諸通商協定調印……………一五七
樞輔國間通商關係緊密……………一五七
全國學童の爲にラジオ學校開設……………一五八

【蘇聯邦】

蘇聯最高會議改選延期……………一五九
新將官一四二名……………一五九
赤軍新軍旗制定……………一五九
工場食糧自給策……………一六〇
武器獻納金繰出十二億餘留……………一六〇
ウラル軍需工業地帯化進捗……………一六〇

【佛蘭西】

ベタン元帥獨軍代表と會見……………一六一
叛逆者の國籍剝奪……………一六一
ダルラン暗殺さる……………一六二
ソマリランド侵入公報……………一六二
佛政府憤激……………一六三
「獨佛關係改善に一路邁進」
——ラヴァル政府主席聲明書發表——……………一六三

【滿洲國】

思想犯罪特別裁判所開設……………一六四
ユダヤ人取締令公布……………一六四
稅收入増加……………一六四
國民訓制定……………一六四
滿洲國基本國策大綱發表……………一六五
基本國策大綱發表に關する張總理談……………一六六
康德十年度豫算……………一六六
物價停止令一年延長……………一六七
鄭駐タイ公使信任狀捧呈……………一六七

【中華民國】

「再び全國國民に告ぐ」
——大東亞戰爭一周年汪主席聲明——……………一六七
汪主席一行來訪……………一七四

汪主席東條首相等と懇談	一七四	雲南ビルマ鐵道建設計畫	一八一
汪主席宮中参入	一七五	馬步青ツアイダム入り	一八二
大東亞戦争完遂に提携邁進	一七五		
——汪主席協力決意披瀝——	一七五		
汪主席滯京日程	一七七	【佛 印】	
汪主席一行歸國	一七七	印度支那總督府會議	一八二
		日佛印經濟交渉進捗	一八二
【重慶政權】		【泰 國】	
大東亞戦争一周年の重慶現狀	一七八	大東亞戦争一周年	一八三
米國の申譯的授蔣に不滿深刻	一七八	議員任期延長公布	一八三
對日空襲を米に泣訴	一七九	憲法發布十周年	一八四
物價統制實施	一八〇	泰國中央銀行開業	一八四
經濟動員策進會組織	一八〇	ビソン首相日泰同盟一周年を慶祝	一八四
明年度豫算	一八〇	日泰同盟成立一周年記念行事	一八五
人事異動	一八一	日泰文化協定批准書交換	一八五
宋子文中國銀行董事長辭任	一八一	女子士官學校開校	一八六
故世澤重慶着任	一八一		

駐日大使歸國	一八六	ビルマ庶民銀行開業	一九三
【比 島】		タキン・ミヤ内務長官新任	一九四
大東亞戦争一周年			
——ヴァルガス長官布告——	一八七	【印 度】	
長官級人事異動	一八七	印度總督任期延長決定	一九五
政黨の實質的解消	一八七	ボンベイ州知事任命	一九五
國祭リサール記念式典	一八八	セイロン空軍司令官任命	一九五
カリバビ第一回大會宣誓式	一八八	スチルウエル着印	一九五
——ヴァルガス、アキノ兩氏演説——	一八八	ビルマ國境警戒布告	一九五
鐵道收入回復	一九〇	カルカッタ空襲に當局狼狽	一九五
		政局停滯は印度各派不一致に起因	一九六
		——リンリスゴ―總督護辯を弄す——	一九六
【ビルマ】		總督演説に回教徒激昂	一九六
大東亞戦争一周年			
——バ・モ長官演説——	一九一	【濠 洲】	
印度民衆の決意を要望	一九一	大東亞戦争一周年	
——バ・モ長官印度向放送——	一九二	——カーチン首相全國放送——	一九七

首相等重慶の抗戦を激励	一九七	新設飛行場二百有餘	一九九
ニューギニア方面濠軍死傷者數	一九七	二十五歳以下全男子軍籍編入	一九九
作戦方針再考論擡頭	一九七	軍需労働者八百萬	二〇〇
戦後再建省及び農商務省新設	一九八	全生産力の五割五分は軍需關係	二〇〇
共産黨禁壓令解除	一九八	バター配給實施	二〇〇
一九四二年度小麦收穫高	一九八	小麦收穫豫想	二〇〇
砂糖割當制實施	一九八		
【ニュージールランド】		【アルゼンチン】	
物價貨銀安定策發表	一九八	國外通信制限實施	二〇一
		戒嚴令延長布告	二〇一
【南阿聯邦】		小麦、亞麻仁事情	二〇一
ケープタウン燈火管制實施	一九九	對エ石油供給を中止	二〇二
英本國よりの借入資本返済	一九九	十一ヶ月間の亞國貿易	二〇二
【カナダ】		【チリ】	
キング首相歸國	一九九	モラーレス内相訪米	二〇三
		上院秘密會外交政策を検討	二〇四

米大使リオス大統領と會見	二〇四	【メキシコ】	
智・ソ通商協定	二〇四	ド・ゴール政權承認	二〇六
		初代駐蘇公使任命	二〇六
【ポリウイア】		キューバと軍事協定締結	二〇六
戒嚴令布告	二〇四		
左翼領袖を逮捕	二〇四	【スペイン】	
		自由主義的思考を清算せよ	
【エクアドル】		——フランコ統領演説——	二〇七
大統領歸國	二〇五	ホルダナ外相訪葡	二〇八
		造船界活況	二〇八
【バラグアイ】		スペイン銀行總會	二〇八
樞軸資金移動禁止令	二〇五		
		【ポルトガル】	
【ウルグアイ】		緊急閣議	二〇九
次期大統領にアマサガ當選	二〇五	イベリア・ブロックの結成	二一〇
外相留任	二〇五	葡紙戦争不介入方針確立を強調	二一一
大統領華府訪問	二〇六		

米博ルトガルに不時着……………	二二二	内閣更迭……………	二二四
首相英大使と會見……………	二二二	【スイス】	
【スエーデン】		大統領改選……………	二二五
瑞獨貿易取極成立……………	二二一	領空侵犯對英抗議……………	二二五
對諾貿易狀況……………	二二三	【トルコ】	
經濟使節團歸還……………	二二三	米蘇兩大使暗躍……………	二二六
瑞船損失數量……………	二二三	在外使臣相次いで歸國……………	二二六
國防強化方策決定……………	二二四	獨大使暗殺未遂事件公判終了……………	二二六
【フィンランド】		アナトリア地震死傷四千名……………	二二六
大統領戰爭完遂決意披瀝……………	二二四	【イラン】	
【アルガリア】		テヘランその他に食糧暴動勃發……………	二二七
共產分子一齊檢舉……………	二二四	臨時議會召集……………	二二七
【ギリシヤ】		首相慰撫放送……………	二二七
		戒嚴令全國に擴大……………	二二八

【卷頭言】

米英協力の脆弱點

世界制覇の野望を逞しくする米國は、世界各地苟くも英軍の駐屯するところ、影の形に添ふ如くその魔手を附きまとはせるのみならず、英國の自治領、屬領は愚か英本國にまで多數の軍隊を送り込んで英帝國の勢力圏を片端から侵蝕してゐるが、更に去る十一月の佛領北阿進駐に際しては、歐洲派遣米軍司令官アイゼンハワーをして、同方面英國陸海空軍の最高指揮權を掌握せしめ、宛然英國をして軍事上の從者たらしめるの觀を示した。然も傲岸自尊他に譲らない英國朝野が敢てこれを黙過してゐる所以は、畢竟、米國よりの物資援助がない限り、戰爭を繼續することすら覺束ない窮狀にあるからに外ならない。

現に英國側は、軍事的指導を米國側に許す一方、去る十一月、リットルトン生産相を米國に特派して、約一ヶ月間に亘り、ルーズヴェルト大統領以下の米國政府首脳部に食ひ下らせ、遂に、武器、軍需品、船舶等のあらゆる緊急部に就て「英國戰爭能力の約三分の一を増大すべき」確約を獲得した。即ち當面の屈辱に眼をつぶることによつて名をすてゝも、米國の物資並に生産力を最高限度まで利用吸収するの實をとつたのである。

米國は援助しつつ、英國の勢力圏を蠶食し、英國は屈從しつつ、米國の資源を貪食してゐる。然も、ロンドンタイムズ紙が新春初頭の社説に於て「米國の好意も勢力も歐洲再建に關し英帝國が要求し得べき指導的特權を減じるものではない」と明記してゐることは、戰時中の米國の恩惠並に侵蝕を單に戰時中だけのものと見做し、それを永久化することは斷じて許さないとする英國朝野内心の決意を問はず語りに表現したものと云ひ得るであらう。

かくして、我々は、表面あらゆる美辭麗句を以て飾られてゐる米英協力の裏面に、豺狼相親ふが如き心理的暗闘の秘められてゐるのを知るのである。

蓋し、利害の合致によつて相結ぶものは、利害背反するとき、忽ち牙を剝いて相争ふであらう。こゝに米英協力の實相とその憐れむべき脆弱點がある。

大東亞戰爭一周年記念國民大會(中央大會)に 於ける東條内閣總理大臣演説

—於靖國神社前—

昭和十七年十二月八日

國民諸君！畏くも米英に對する宣戰の大詔を拜しましたのは昨年の本月本日であります。只管、世界平和の維持と人類の慘禍の防止とを顧念して、隱忍と自重との最大限を重ねましたる帝國が、驟然起つたのは正に一年前の本日であります。帝國の隆替、東亞の興廢正に此の一戦に在りと一億國民が必勝の信念の下、一切を捧げて國に報ひ、國に殉ぜんことを誓つたのは實に本日であつたのであります。此の意義深き本日、護國の英靈の鎮まります、靖國神社の大前に於て、大東亞戰爭一周年記念國民大會の開催せらるゝに當り、茲に所懐を申述ぶる機会を得ましたることは誠に感慨無量なるものがあるものであります。顧みますれば、此の一年間我々一億同胞は只管、聖旨を奉戴して、戦つて参つたのであります。皇軍は開戦劈頭、ハワイにマライに所在の米英艦隊の主力を屠ると共に、海陸軍共同作戦の妙を遺憾なく發揮して、香港の攻略を始めとし、フィリッピンに蘭領印度に將又ビルマに、疾風枯葉を捲くの猛進撃を續け、大東亞の全域に互つて皇軍の威力を發揮して参つたのであります。

銃後國民亦、克く戦時生活の苦難に打ち克ち協力一致、各其の職域を通して義勇奉公の實を擧げて参つたのであ

ります。

而して大東亞共榮圈建設の巨歩も亦、作戦の進展に策應して活潑に進められたのであります。香港、マライは固よりビルマ、舊蘭領印度、フィリッピンに於きましては、現に米、英、蘭の桎梏下より開放せられたる住民は皇恩に浴しつゝ喜々として建設に協力し、著々として其の成果を擧げて居るのであります。

今や帝國は過去一年間に於て戰略的にも、將又經濟的にも必勝の基礎を確立し、更に之を擴充強化しつゝ米英屈服の最後の目途飽く迄も、戦ひ拔ち勝ち抜かんとして居るのであります。世界の歴史に於て、未だ嘗て其の比を見ざる此の大戦果は偏へに、御稜威の下忠誠勇武なる皇軍將兵が善謀勇戦の賜物であります。又皇軍將兵をして、後顧の憂なく常に縦横の作戦を行はしめたる一億國民諸君の涙ぐまじき努力の結果に外ならないのであります。私は此の機会に於て、皇軍將兵に對し且又國民諸君に對し、厚く感謝の意を表するものであります。而して此の間、護國の礎となられましたる英靈に對しましては、謹んで敬弔の誠を捧ぐると共に、傷病將兵諸君の再起御奉公の日の一日も速かならんことを祈るものであります。

嗣つて、獨伊等歐洲盟邦諸國は大東亞戰爭勃發以來、益々帝國と緊密なる提携の下に各方面に於て敢闘着々として戦果を擧げ、殊に海上交通破壊戦に於て、敵に莫大なる損害を與へ、以て帝國と相呼應して、米英勢力の屈服に一路邁進して居るのであります。

一方、大東亞に於ては、滿洲國は其の國力を擧げて帝國の戦争遂行に協力し、中華民國國民政府亦、帝國と同甘共苦の決意を以て此の難局に對處して居るのであります。而して泰國は開戦に際し其の舉措を誤らず、爾來帝國との攻

守の盟ひ愈々固く、今や遺憾なく、其の力を發揮しつゝあるのであります。

斯くして、今や東西相策應し、大東亞の各國家各住民相結束して、共同の敵米英を撃滅すべき曠古の世界的大戦争は、其の本格的段階に入つたのであります。

茲に於て乎、帝國は、御稜威の下戦争第一年に於て獲得せる大戦果を基礎とし、盟邦諸國と力を戮せ、愈々必勝の信念を以て、飽く迄も米英撃滅の攻勢を續けんとするものであります。況んや米英が其の物質力を恃んで執拗なる反攻に出づるに於ては、是れ正に我の乘ずべき所、隨時隨所に敵を捕捉して、徹底的に之を殲滅せんとして居るのであります。既に其の端緒はソロモン方面の現状に於て、之を見出すことが出来るのであります。而して帝國は、此の雄渾なる作戦の要求に即應し得る如く、内に在つては、あらゆる力を總動員して戦力の飛躍的増強を圖らんとして居るのであります。

此の秋に方り、戦前米英等の寶庫たりし、南方諸地域の重要資源は、開戦後僅かに半減を出でずして、其の擄取り解放せられたのであります。茲に此等の地域は其の本来の姿に還り、大東亞防衛の爲、偉大なる戦力の基礎たらんとして居るのであります。敵は南方に其の戦用物資を失ひ、我は日滿華の物資に新たに之を加へたのであります。

而して此の最も恵まれたる條件を活用し、之を現實の戦力として、發揮せしめ以て前線將兵をして縦横に活躍せしむるや否やは一に懸つて我々國民の双肩に在るのであります。

斯く觀じ來ります秋、我々一億國民の責務は決して生易しいものではないのであります。最早戰場を前線にのみ限る時代ではなくつたのであります。

今や國民の一人一人が各、其の持場に於て揮ふ一つの槌も、一つの鉄も、直に前線の戦力に影響しつゝあるのであります。諸君が、毎日々々の生活に於ける、一舉一動が、明日といはず今日たゞ今、前線の戦闘力を左右して居ると稱するも過言ではないのであります。

斯くして諸君の工場は勝たんが爲の第一線の補給廠であり、諸君の農場は勝たんが爲の一億國民の兵站部であり、すべて諸君の職域は勝たんが爲の戦場なのであります。此の時に及んで尙平時の考へが幾分でも残存して居るが如きことあらん乎、此の國內の戦場に於ける責任を果たすことは到底出来ないのであります。

國民諸君！凡そ非常の秋には非常の處置が必要であります。それには、先づ平時の考へ方から脱脚して、戦時の頭になり切らなければならぬのであります。此の頭の轉換こそ戦時下の一億國民に求めらるゝ根本的條件であり、之に依つて始めて此の戦を勝ち抜く創意も生れ、工夫も生じ、不可能を可能とすることが出来ると信ずるものであります。而して此の大戦争の眞只中に於て我々の忘れてならないことは、我の苦しむ所は同じく又敵の苦しむ所であると云ふことでもあります。由來戦争は意志と意志との戦ひであります。最後の五分間迄、よく頑張り通す者にして始めて、勝利の榮冠を贏ち得るのであります。今や帝國も幾多の困難に逢着して居るのであります。先に南方重要資源に就いて述べました如く、戦前我に對し米英等の頼みとせる經濟封鎖の武器は、今や却て我に依て、逆用せらるる所となつたのであります。此の一事を以てするも、敵の直面せる艱難の如何に大なるかは察するに餘りあるのであります。即ち、我も敵も甚大なる困難と戦ひつゝありますが、異なる所は敵は絶望の淵に喘へぐ苦しみであり、我は前途に光明を持つ、産みの苦しみを經驗して居るのであります。

次に私の屢々強調致しまする通り今次の戦争は巨大なる消耗を伴ふ相次ぐ決戦の連鎖であります。勢ひ、之に勝ち抜く第一要件は先づ當面の決戦を勝ち抜くこととあります。

茲に於て乎、戦力増強の第一目標は差し迫つた決戦に即應せしむるに在るのであります。正に一刻は千金にも換へ難いのであります。どうか國民諸君、明日の作戦否今日の作戦の要求に即應し得るやう、戦力を増強して頂き度いのであります。

惟ふに此の戦争は是が非でも勝たなければならぬのであります。勝利を得るにあらずんば、十億の大東亞の住民が、百年待ちに待つたる、新しき大東亞の建設は、空しく一片の夢となるのであります。此所靖國に神と鎮まる英靈の烈々たる志、又、遂に報いらるゝ所がなくなるのであります。さればこそ、我々は、如何なる困難も、如何なる障碍も断々乎として之を突破し、以て此の一戦を徹底的に勝ち抜かんとして居るのであります。今や徒らなる議論や批判を事とすべき秋でないことは勿論であります。又口先きや懸け聲ばかりでは、此の戦争に勝ち抜くことは断じて出来ないのであります。

全國民が一人残らず、其の有する全智全能を傾け盡くし、各自の持場持場を、しつかりと守り、黙々として努力に努力を重ねなければならぬのであります。不肖私も身を獻げて更に固き決意と、更に強き實行とを以て國民諸君の陣頭に立つて奉公の誠を效たし、唯々 宸襟を安んじ奉らんことを企願致すものであります。

此所には既に第一線に於て生命を的に敢闘せられましたる、歸還の勇士諸君も多數見えて居るのであります。此等の諸君こそ、先づ前線に於て體驗せられたる攻撃精神を以て、宜しく率先國民の核心となつて國難突破に挺身せらる

べき人であります。

今や新しき世界は正に創造されんとし、帝國は、大東亞地域に於ける、指導の中核たる責任の下に、大飛躍を爲しつつあるのであります。希くは國民諸君、諸君は大きく變轉しつつある此の宇内の趨勢を達觀せられ、而も其の重大なる時機に於て生を帝國臣民として享けたる欣びに感激し、更に旺盛なる戦争意識の下に今日只今、直ちに諸君の其の身體、其の精神の總てを擧げて、皇軍戦力充實強化の爲、生産力の擴充へ、戦時生活の徹底へ、火の玉となつて邁進せられんことを切に切に希望して已まざる次第であります。

本日茲に、宣戦一周年を迎へ、重ねて盟邦諸國の帝國に寄せられたる絶大なる御協力に對し、感謝の意を表すると共に、今後更に緊密なる提携の下に相倚り相扶け、飽く迄も共同の目的達成の爲戦ひ抜かんとを期するものであります。而して又私は今日迄の國民諸君の御努力と御協力とに感謝致しますると同時に、此の意義深き記念日に當り國民諸君と共に、當時の感激を更に新たに以て、大東亞戦争第二年の逞しき發足を誓ふ次第であります。之を以て私の挨拶を終ります。

日獨伊間協定調印一周年に關する獨逸國ヒットラー總統、
伊太利國ムツソリーニ首相宛東條内閣總理大臣祝電

日獨伊三國の共同戦争遂行第一年を送るに際し三國が過去一ケ年間に獲得せる赫々たる戦果と之に即應する新秩序



建設の巨歩とを回顧しつゝ予は茲に閣下に對し衷心より祝意を表明す

日獨伊三國の勝利こそ公正なる世界新秩序の招來を保障すべしとの確信が漸次全人類に浸透しつゝある秋、予は重ねて世界に向ひ三國は益々緊密なる協力關係を積極的に實踐しつゝ此の戰爭を戦ひ且つ勝ち抜き決意と實力とを有するものなることを言明し得るを欣快とす、茲に共同戰爭遂行の第二年目を迎ふるに當り予は遙かに閣下の御健康と閣下の逞ましき統率下に在る團結堅き獨逸(伊太利)の國民の健闘を祈念す

日獨伊間協定調印一周年に關する東條内閣總理大臣宛
獨逸國ヒットラー總統祝電

昭和十七年十二月十一日

公正なる世界新秩序建設の爲の闘争に於て三國條約締結諸國が最も緊密なる戦友として迎ふる本日(の)記念日に當り、余は閣下に對し衷心より慶祝の意を表す

過去一箇年間に於て我々同盟諸國の軍隊が共同の敵に對して獲得したる赫々たる戦果は、歐洲及び東亞に於けるアングロサクソンの挑戰に對する今次戰爭が三國條約締結諸國の最後の勝利に歸す可き事を最も確實に保證するものなり

斯くの如き不動の確信の下に余は本日閣下に對し、日本軍が今後益々戦果を擧げられんことを衷心より祈念して已まざるものなり

日獨伊間協定調印一周年に關する東條内閣總理大臣宛
伊太利國ムツソリーニ首相祝電

大日本帝國が米英デモクラシー兩國に對し宣戦せられてより茲に一年を経たるが、この間大日本帝國が三國共同の敵に與へたる大打撃は確實なる勝利に對する重要な一步なり、伊國は日獨兩國とその理想と目的とを一にするものにして來るべき勝利に對する十分なる確信を持つて戦ふものなり、茲に閣下を通じ英雄的なる日本國民に對し余の最も深厚なる祝意を表す

日獨伊間協定調印一周年に關する獨逸國リツベントロップ外相、
伊太利國チアノ外相宛谷外務大臣祝電

本日日獨伊三國が共同戰爭完遂の盟約を結びたる一周年記念日を迎ふるに當り余は三國の緊密なる協力關係が洋の東西に於ける三國の戰爭遂行と新秩序の建設に徹底的に寄與せるを確信し茲に閣下に向つて滿腔の祝意を述ぶるものなり

共同戰爭の第一年に於ける三國の光輝ある戦果は三國の終局勝利を保障するものと云ふべく余は三國が既に確立せる牢固たる地位は何人も之を覆し得ざるの喜びを閣下と共に分ち且三國協定の目的完遂の爲益々邁進せんとする決意

を表明すると同時に茲に閣下の御健康と御健康を祈念す

日獨伊間協定調印一周年に關する谷外務大臣宛
獨逸國リツベントロツプ外相祝電

本日をして獨日伊三國が一體となり共同戦争を遂行せんと固き盟約に結ばれたる三國協定締結一周年を經過したるが予は歴史的なる當日の光景を想起し盟邦國軍が其の間獲得せる輝々たる戦果を偲びつつ茲に閣下に對し共同解放戦争を更に効果的に指導せられ日本軍が更に名聲を揚げられむ事を衷心祈念するものなり

日獨伊間協定調印一周年に關する谷外務大臣宛
伊太利國チアノ外相祝電

昭和十七年十二月十一日

本日日本帝國が大戦第二年を迎へられたるに際し余は三國同盟を以て堅く結ばれたる貴國民の武運を祈りて茲に閣下に對し最も深厚なる祝意を表明するものなり、過去十二箇月間の戦闘に於て日本軍の收められたる偉大なる戦果は正に將來に對する確固たる保障を爲すものなり

日獨伊間協定調印一周年記念日外務大臣晚餐會に
於ける谷外務大臣挨拶

昭和十七年十二月十一日

閣下並に各位

本日は日獨伊三國協定締結一周年記念日に當りますので御一同と共に慶祝致度いと存じ御招き申上げましたる處、獨逸伊太利兩國大使閣下ハンガリー國ルーマニア國及ブルガリア國の各公使閣下を初め閣下各位の御出席を得ましたることは私の衷心より光榮且欣快とする所であります。

抑日獨伊三國間協定は昨年十二月八日帝國が驟然起つて米英に宣戦しまするや盟邦獨伊兩國が直に帝國と相呼應し米國に對して宣戦せられたる歴史的記念日即ち昨年の今日柏林に於て三國の代表に依り嚴肅に調印せられたるものでありまして、日獨伊三國が米英に對する共同戦争の完遂せらるゝ迄干戈を收めざるの決意を表明し且之を誓約せる協定であることは御承知の通であります。

協定締結一周年を迎ふる今日、過去一ヶ年を回顧致しまするに、其間日獨伊三國並に其の盟邦が大東亞及び歐洲否全世界に互り獲得致しましたる戦果は歴史上其の例を見ざるものでありまして、大東亞及歐洲大陸に於ける米英兩國の勢力が悉く驅逐され世界新秩序建設の基礎既に成りたることは感激の外無いのであります。乍併敵側殊に米英兩國



は其の豊富なる物質の力を恃みとして百方反撃の準備を整へて居る模様でありますから、我々が共同の目的を完遂するに至る迄には尙幾多の困難障害を排除するの要あるは申す迄もありません。只我々の世界觀と米英の世界觀とは根本的に相違して居るのでありまして、彼等が廣大なる領土と豊富なる資源とを恃みとするに反し、我々は強健なる精神と崇高なる理想とを旨指して居るのであります。之れ我々三國の彼等に對する連戦連勝の原因でありまして、一言にして申せば精神力が物質力に勝つと云ふことであります。

日獨伊三國並に其の歐洲に於ける盟邦諸國民は自分の捧ぐる生命こそ世界恒久の平和を確保すべき新秩序の礎石なることを確信して居り、眞に人類相愛の大道に立脚し天與の分を守り有無相通するの共存共榮の世界を建設することが諸國の國是であることを確信して居るのであります。日獨伊三國は新秩序建設に當り自國本位を超越して隣邦の繁榮を冀念し、相互の尊敬を其國交の基礎とするものであります。此點自由又はデモクラシーの標語の下に現實には人道に悖る搾取政策を行つて居る米英兩國とは根本的に其の立場を異にするのであります。今や人類歴史の劃期的變革期に當りまして米英の自國本位的欺瞞政策が其の當然の破綻に入りたることを疑を容れざる所でありまして、私は左の如く崇高なる理想の顯現を目標とする日獨伊三國及其盟邦が此の際彌々其の協力關係を緊密にし敵側に乘ずる隙を與へなかつたならば、三國協定の目的とする光輝ある勝利を贏ち得ること明なりと信ずるものであります。今日三國協定締結一周年の記念日に當り、茲に三國必勝の確信を披瀝致しますと共に今後三國間結束の益々強固ならむことを祝つて已まざるものであります。

茲に杯を舉げて閣下各位の御健康を祝し、併せて盟邦諸國の光輝ある前途を祝し度いと思ひます。

日獨伊間協定調印一周年記念日に於ける谷外務大臣 放送演説

昭和十七年十二月十一日

去年の今日日獨伊三國は對米英共同戰爭を勝利に至る迄戦ひ抜くと共に戦後の世界新秩序建設に當りても緊密に提携協力すべきことを嚴に誓つたのであります。此の記念すべき日に當りまして一言所懐を述べ、盟邦國民に贈るを得ますことは私の最も欣快とする所であります。

三國協定締結以來過去一ケ年の世界戦局の推移を顧みまするに、三國が東亞及歐洲否世界全般に互り獲得致したる戦果は實に目覚ましいものがあり、之に依り日獨伊三國の目標と致しまする世界新秩序建設の礎は既に築き上げられたと申し得るのでありまして、三國の爲將又世界人類の爲衷心より祝福に堪えぬ次第であります。乍然他面今日の事態に達しまする迄既に世界人類の拂ひましたる犠牲も亦決して少くは無いのでありまして、此の意味に於て三國協定の條文にも明なる通り戰爭の挑發者たる米英兩國の指導者達の責任は飽迄糾弾せらるべきものと信ずるものであります。

抑々帝國が多年冀念して居りましたことは東亞の安定を確保して世界平和に貢獻せんとすることでありまして、例へば滿洲國の健全なる發達を援助し日支兩國の調整を計り、又泰國佛印との協力を促進するのみならず蘭印との經濟

關係打開にも努力致しましたのも此の崇高なる目的に出でたものでありますが、帝國の努力を飽迄阻害して支那事變の處理を妨害し或は蘭印を使曠して帝國に反抗せしめ、或は所謂對日包圍陣を形成する等種々策動し經濟斷交をも敢てし戰爭を挑發したのは全く米英兩國の指導者達であります。彼等には帝國の眞意を了解せんとする誠意更に無く殊更に萬邦共榮の要義を排除し東亞を永久に隸屬的地位に置かんと努めたのでありまして、歐洲に於て獨伊兩國に對し彼等の取つたる態度も之と其の軌を一にして居つたことは申す迄も無いのであります。

元來日滿日支の協力を致しなくても帝國と東亞に於ける他の諸民族との協力を致しなくても將又歐洲大陸に於ける獨伊兩國と他の諸民族との協力を致しなくても歸する所は總て其歴史文化地理經濟等の諸條件に最もよく適合せる自然の要求であり謂はゞ天の配劑でありまして、米英の利己心に基く如何なる壓迫も之を阻害することは不可能且つ不合理なものであるにも拘らず、米英兩國は全く自己本位の世界支配欲に基き、或は思想攪亂に依り或は經濟的壓迫等の方法に依り凡ゆる干渉を試み自然の流れに逆行し天の攝理に背かんとしたのであります。物質的世界觀への執着強き彼等は今や世界が道義を中心とする世界觀の下に新なる誕生を爲さんとしつゝある事實を正視する事が出来ないのであります。從て過去一ヶ年の間に彼等の受けたる衝擊と失望とは我々の想像に餘るものがありますが、之れ全く自業自得と云ふの外はありません。

思ふに二年前、日獨伊三國が大東亞及歐洲の地域に於ける新秩序の建設に協力邁進せんが爲め盟約を締結致しました時には、三國は之に依り世界平和の確立に多大の貢獻を期し米英兩國の識者も亦新時代の趨勢を正しく把握し、自己本位の世界支配欲を捨て我々と共に各民族固有の使命に對する相互の理解と尊敬とに基く公正なる世界平和の確立

に協力せんことを密に期待したのでありますが、彼等の濟度し難き自負心と反省の缺如との結果、遂に今日の世界的破局を招來するに至つたのであります。

今や日獨伊三國は相携へ世界革新の先達として眞に人類相愛の精神の下に正義に立脚したる新秩序建設に邁進して居りますが、斯る高邁なる理想の下、堅く手を組み進軍する三國國民の前途には如何なる障害も粉碎せらるべく、又其の力強き援護の下に、東亞及歐洲の諸民族が米英兩國の重壓より解放せられ共存共榮の樂を共にする日の遠からざるべきを確信するものであります。

乍然由來米英は物質萬能の信奉者であります。從て向後必ずや其の廣大なる領土と豊富なる資源とを恃み執拗なる抵抗を試むべきこと、想像に難くはありません。又既に礎を築かれたる世界新秩序建設の大業も其の完成には尙幾多の困難を伴ふべきこと當然であります。然れば勇氣と確信に基く絶對的相互信頼の下に三國民は此の記念すべき日に當り三國協定の文字と精神とを更に充分に味得し戰爭を勝ち抜くの決意を新にして共同の目的達成に邁進せねばならぬと考ふるのであります。

獨伊記者共同會見に於ける東條内閣總理大臣

メツセーヂ

昨年の本月十一日は帝國と獨伊兩國との間に對米英戰の共同遂行、單獨不媾和及世界新秩序建設に對する協力を嚴肅に誓へる協定が調印せられたる日であります。

此の日より、大東亞戦争と歐洲戦争とは一體不離の關係となり日獨伊三國は其の政治的、經濟的及び軍事的總力を擧げて新しき世界秩序の創造に邁進することと相成つたのであります。

開戦以來一ケ年、米英の東亞に於ける據點は悉く覆滅せられ東亞の全地域は概ね其の本然の姿に還り帝國は今や對米英撃滅の如何なる長期戦をも戦ひ抜く必勝の基礎的態勢を樹立し得たのであります。

抑々今次の大戦は單なる資源の争奪戦に非ずして道義に基く新秩序の建設に依り萬邦をして各其の所を得しめ以て世界恒久の平和を確立せんとする聖戦であります。日獨伊三國の連繫も、此の崇高なる理念に基く、精神的靚帯に外ならず、我々は、此處に我々に課せられたる重大且深刻なる責務を自覺すると共に新しき世界歴史の創造を敢行しつづめることに無限の誇りを感じるのであります。

大東亞戦争第二年を迎ふるに當り獨伊兩國の赫々たる戦果と、其の勝利への巨歩に對し敬意を表し且帝國に寄せられたる御協力を深謝すると共に、今後帝國との提携が物心兩面に於て愈々強固ならんことを期待し、相共に更に積極的に共同目的貫徹の爲めに突進せんことを誓ふものであります。

獨伊記者共同會見に於ける東條内閣總理大臣の應答 (要旨)

總理 今日、我が同盟國獨伊兩國の新聞通信記者團とお話する機會を得て眞に嬉しい、どうぞ忌憚ない質問をして戴きたら、唯、戦争中であるので作戦の機微にふれることはお答へ出来ぬかも知れない、また私は軍人であるから、

齒に衣を着せたようなことはいへない、思つたことをその通りに云ふからその積りで。

質問 敵國米英側ではチャーチルがモスコに行つたりウキルキーが飛廻つたりする等往來が頻繁であるのに對して、日獨伊三國側では昨年十二月三國軍事同盟條約が成立して以來具體的な連絡が表面にあらはれてゐない。これは勿論日獨伊三國間の關係が非常に緊密である爲と思ふが。

總理 そのことは、先程のメツセーヂの中に明瞭に言つてゐる。それは、昨年の十二月十一日に日獨伊三國軍事同盟條約が結ばれて固き血盟が成立し、米英に對する日獨伊三國共同戦争の遂行、三國の單獨不媾和、世界新秩序建設の共同目的の完遂と云ふ三つの大原則が確立したのである。かくの如く三國間には米英に對し開戦の當初、軍事上、政治上、精神上に、戦争遂行に關する確乎たる盟約が出来たのであり、この基礎の下に爾來三國間の連繫は益益緊密となり未曾有の戦果を獲得しつゝ戦争を遂行してゐるのである。これに對して米英側は開戦後半戦も経てから慌てふためいて右往左往し頽勢を挽回しようとしてゐるのであり、これをみても我々三國が、如何に軍事上、政治上、外交上、敵國に對し優越せる地位を占めてゐるか明らかではないか。

更に私は附言したいが、今回の戦争の本質から云へば、三國の戦争目的は道義に立脚してゐる。三國は舊秩序を破潰し、新秩序を建設せんとする固き決意に燃えた國家の集團であり、これが三國縮盟の實體である。これに對し米英は舊秩序を維持し、自己保存に狂奔する利己的國家の集團である、凡そ人間の集團は道義に基づく精神的集團であらねばならず、米英等の如き利己的集團が破潰されるのは當然ではないか。

質問 日本は開戦劈頭より非常に迅速に東亞に於ける敵國の全據點を覆滅してしまつた。開戦第二年を迎へて今後の



！戦争は如何に行はれてゆくか。

總理 凡そ、國家が敢然戦争に突入した時は戦争目的を明確に有するのであつて、目的なき戦争の開始はあり得ない。大東亞戦争勃發以來最初の一年で大東亞に於ける米英の戰略據點は悉く奪取してしまつた。今後の競争目的も、獨伊と相拂へて「速に戦勝を獲得する」と云ふことに盡きてゐる。しからば、如何なる方法により速に戦勝を獲得するか、と云ふことは、作戰の機密に屬してをり申上げられない。

質問 日本が獲得した南方の占領地の資源は既に日本の戦争遂行上活用されてゐるか。

總理 日本が獲得した南方資源は着々戦力化されてをり、既に相當な成績を収めて居る。日本がこれ等の南方資源を獲得したことは米英等敵國の競争遂行上致命的な影響を與へたが、一方我が同盟國に對してもこの資源が大に寄與し得ることは、私の誠に欣快とする所である。

質問 南方占領地に於ける日本語の普及状態及び今後の政府の方針をお伺ひしたい。

總理 日本語の普及は占領地の統治上非常に大切と考へてゐる。日本語を通じて現住民の頭から米英思想を驅逐せんとしてゐる。現在は「カタカナ」の普及に努力してゐるが普及状態は非常に迅速に効果をあげてをり、今後、普く日本語の普及されることを期待してゐる。

質問 南方占領地に於ける宗教問題に付てお伺ひしたい。

總理 宗教問題は非常に重要である、どう云ふ點について質問してゐるのか。

質問 一般的な宗教政策、殊に占領地の在來宗教をどうするか、と云ふこと。また香港に於て日本の神社が建てられ

たと云ふ報道を讀んだことがあるが。

總理 宗教問題は非常に重要視して取扱つてゐる。殊に南方占領地域の諸民族は文化的に未だ程度が低いので宗教政策も自から異なる。一言にしてつくすと、原住民の宗教を尊重し善導して行き、日本宗教を無理解に強ひることは避けたい。但し、敵性を帯びた宗教、又は宗教を通じて敵性を發揮するが如きものは斷乎として取締らねばならぬ。占領地に日本の神社が建てられたと云ふのは、先づお社を建て、拜みたいからである。

質問 大政翼賛會の使命、政府との關係について伺ひたい。

總理 翼賛會は政府と表裏一體であり、下情上通の機關として政府の施策に寄與する國民運動の徹底を期するものである。政府機關ではなく政府の補助を受ける團體である。但しその總裁は私である。

質問 資源の問題に歸るが、南方の石油は最初に期待してゐたよりもつと多量であつたと聞いてゐるが。

總理 数字的には申上げられないが、その通りである。しかし、最初は戦争により油田が根本的に破壊され新たに井戸を掘らねばならぬ覺悟でゐたのに、油田地帯が割に手際よく占領され、破壊が或る程度防止された結果、最初に豫定した量よりも多く出てゐる。結論的に言へば石油に關しては日本が獨伊と協力し東亞に於て戦争を遂行する上に何等の不安もない。

質問 大東亞に於ける財政問題特に「回」の役割についてお伺ひしたい。

總理 それは、私から云ふと誤解を生ずるから大藏大臣に聞かれない。

總理 最後に私から質問したい。こゝには、獨伊の新聞通信記者並に日本記者もをり日獨伊三國の新聞通信記者が集

まつたわけだが新聞、通信機能を如何に發揮したならば戦争遂行上最も寄與することが出来ると考へられるか、その方法を具體化することが諸君の責任であると私は考へる。

答 我々の眼で大東亞圈内の建設の現状を視察したい希望を持つてゐる。それにより大東亞戦争に關し最も印象深い記事を獨伊の讀者に提供することが出来ると考へる。これにより戦争遂行についての我々の協力が達成されよう。また、今日は閣下より非常に打明けられたお話を伺ふことが出来たが、今日のやうな機会を今後に於ても更に繰返し與へられるならば幸である。

「米・英撃伏の決意」

外務大臣 谷 正 之

昭和十七年十二月五日

顧みますれば、昨年十二月八日、米國竝に英國に對する宣戰の大詔が渙發せられましてから、早くも一年に垂々として、本日茲に大東亞戦争一周年記念週間を迎ふるに至り、かの忘れんとして忘るゝ能はざる感激の日を間近に控へ、誠に感慨無量なるものがあります。

大東亞戦争の意義と使命とは、御詔勅に於て、炳乎として明らかなるところであります。又、其の由つて來れる所以は、帝國政府の聲明竝に日米交渉の經過、對米覺書等によつて、既に全世界に徹底されて居ると信ずるのであります。が、こゝに開戦の一周年を迎ふるに際しまして當時を回想し、改めて大東亞戦争の重大なる意義を強く心魂に刻

み、米英撃伏の憤激を新に致し、而して、米英撃伏の決意を更に強固ならしむることが、此の記念週間を迎ふる最大の要務なりと信ずるのであります。

大東亞戦争は、米英特に米國政府の計畫的なる對日挑發に依つて勃發したと言ふことは、今更絮説を要しない所であります。即ち、米國政府は、開戦に先立つ八ヶ月に亙る永き日米交渉に於きまして、帝國が太平洋の平和を維持せんが爲に、隱忍に隱忍を重ね、誠意と努力との限りを盡しましたるに對し、徒らに抽象的の原則論を固執し、實現不能なる要求を提示して、帝國の一方的讓歩を強要し、以て交渉の遷延を策する一方、其の與國を誘ひ、帝國の周邊に於て挑戰的武備の増強を圖つたのであります。

米國政府が、昨年十一月二十六日に我方に提示して參りました所の、帝國の三國同盟よりの實質的離脱、支那竝に佛印よりの全面的撤兵、片務的なる門戸開放の承認、南京政府の否認等の諸要求こそ、帝國をして、東亞に於ける米國の支配權を確認せしめんとするものでありまして、是により日清日露の兩役以來幾十年に亙る東洋平和保持に對する帝國の苦心經營は悉く水泡に歸し、滿洲事變及び支那事變に於ける我が努力と犠牲とは無視せられ、南方に生きんとする我民族的の望は蹂躪せられ、東亞の安定と帝國の存立とは、正に危殆に瀕するに至つたのであります。帝國が斷乎是を拒絶し、大詔の下、破邪顯正の劍を揮ふに至りましたることは、已むを得ざることとは申せ、誠に當然至極のことです。

抑も、米國が民主主義擁護といふ空虚なる美名の下に歐洲戦争に介入し、汎米共同防衛に藉口して中南米に於ける大部分の諸國を對稱軸國戦争に強要し、更に前に述べましたる如き東亞の現實を無視したる諸要求を提出致しました

ることは、何れも、彼が世界制覇の非望を遣うせんとする企圖に出づるものでありまして、之を歴史的に見ますならば、其徴候は既に十九世紀末の米西戦争に於て現はれて居るのであります。即ち米國人と雖も、良心の苛責なくしては語り得ざる此の無名の戦争に依りまして西班牙よりフィリッピンを奪ひたるに引續き、支那侵略に割込を企圖しての門戸開放の提唱、更に帝國に對する劣勢海軍比率の強要、九國條約體制の設定に依る我が大陸發展の妨害等、東亞諸民族の解放と東亞の安定とを國是とする帝國と、東亞をも其の世界政策の犠牲たらしめんとする米國との衝突は、早く既に不可避なる運命に置かれて居たと言ふ事が出来るのでありまして、前に申述べましたる昨年十一月二十六日の諸要求は、米國の我に對する決闘状なりと見得るのであります。

然るに、御聖斷一度下りますや、我忠勇武烈の將兵は、陸に海に空に、神出鬼没、未だ半歳ならずして敵の東亞に於ける據點は悉く之を覆滅し、東亞の全地域は概ね其の本然の姿に還つたのであります。即ち、支那大陸よりは固より比律賓、東印度諸島、緬甸等よりも敵影は消へ失せ、大東亞の全域は北方の守り磐石の如きものありますと同時に、南の方、マライ、スマトラの關門は、ビルマの堅壁と共に全く敵の侵入を遮斷して居る状況でありまして、其の守りの裡に居ります諸國諸民族は各々其の特性に應じ、帝國と共に大東亞戦争の完遂並に大東亞共榮圈の建設に協力邁進することとなつたのであります。先づ開戦當日即ち昨年十二月八日、我軍の國內通過に應じ、次で同月二十一日、我方と攻守同盟を結び、相共に大東亞戦争の完遂に邁進することとなりました泰國と、帝國との關係は爾來親善使節の往來、經濟的協力關係の増進等に依りまして、愈々親善緊密を加へましたが、最近に至りましては、大東亞に於ける文化建設に劃期的な意義を有する日泰文化協定の調印を見ましたることは、御承知の通りであります。

又大東亞建設の核心を爲す滿洲國及び中華民國と帝國との關係は愈々親善強化せられつゝありまして、滿洲國に於ては建國十周年を迎へて其の發展は目醒しきものがあり、又中華民國に於きましても、國民政府の清郷工作、經濟建設等の事業は着々進捗し、滿洲國と共に大東亞戦争の遂行に偉大なる協力を致して居るのであります。而して、前に述べました通り、大東亞全域に互り南北の守りは極めて堅固でありまして、米英等の策動の餘地なきに至りました今日、日支の關係は正に一變したることを痛感する次第でありまして、中華民國の復興と繁榮とは大東亞建設の完遂を大戦の目的とする帝國の希望と、全く一致するに至つた次第であります。

一方歐洲に於きましては、獨伊兩國は、帝國の對米英宣戦に相呼應し、對米參戰に決し、客年十二月十一日、三國間に米英に對する共同戦争完遂、單獨不媾和、及世界新秩序建設に對する協力を嚴肅に誓約せる協定が調印されたのでありまして、茲に、大東亞戦争は、歐洲戦争と一體不可分の關係に立ち、世界的重大意義を有するに至つたのであります。

竊て、敵國陣營を見まするに、開戦以來の相次ぐ收戦にも不拘、其の戦意は尙強固でありまして、就中米國は、其の豊富なる資源と生産力とを恃み、二年後に於ては大攻勢に轉すべきことを豪語し、執拗なる反撃を企圖しつゝあるのでありまして、ソロモン海を中心とする南太平洋に於ける我方に對する反攻作戦を初めとし、中、西亞細亞或はアフリカに對し侵略を行ひ、遂に最近に至りましては、北阿佛嶺に對して上陸作戦を敢行したのであります。國內に於きましても従來の對日過小評價を是正し、日本恐るべしとの宣傳を開始し、超急速なる軍備の充實を計り、強力なる國內戦時體制を確立し、以て長期戦に於ける最後の勝利を確保せんと企圖しつゝある模様でありまして、其の

勢決して輕視すべからざるものがあります。

而も米國政府は、國際ニユードイルなるものを強調して、戦争に對する樞軸國の責任を糺彈すべしと主張して居るのであります。其の視ふ所は米國の世界制覇、米國の支配の強化に外なりません。即ちこれによりまして、米國は東亞に於ては日本を、歐洲に於ては獨伊を、再びヴェルサイユ體制下に、否、それよりは幾十倍するところの米國制覇の重壓下に置き、以て日、獨伊をして再び起つ能はざらしめむことを期するものであります。

これ大東亞戦争が米國の敗退なくしては終局なしと強調される所以であります。帝國と致しましては、彼が日米戦争を挑發し、全世界を大動亂に陥れ、全人類の生活を不安ならしめた罪惡を斷乎として糺彈し、其の打倒を期せなければならぬのであります。而して、豊富なる資源と廣大なる領土とを擁し乍ら、自ら其の居る所に満足せず、世界到る所に進出して、他國他民族の生存を否定し世界的獨存獨榮を圖らんとする、米國、否、其の指導者の飽くことなき非望は天人共に許さざる所でありまして、如何に彼の豊富なる生産を以てしても、必ずや行き詰りの日を生じますべく、國を擧げて破綻の日來るべきを信じて疑はぬ次第であります。而して、帝國と致しましては、何時如何なる場所たるを問はず、悉く彼の挑戰を擊破するに足る物心兩面の準備を怠らず、毅然として彼の敗退を見るのみであります。

大東亞戦争は、我が肇國の大訓に基き、大東亞を米英の桎梏より解放し、各國各民族をして各々其の所得しめ互に共存共榮を計り、以て世界の平和に寄與せんとするの大精神に出づるものなること、今更申す迄もないのであります。獨伊が歐洲に於て其の所得んが爲、新秩序を建設せんとすると、精神的に相通するものが存するのであ

ります。即ち日獨伊三國は、米英撃伏に共同の努力を致しますと共に、世界新秩序の建設に對してもまた協心戮力して居るのであります。既に大東亞に於ても、歐洲に於ても、今次戦争の特異なる性格と致しまして、一面戦争、一面建設の過程が着々進捗して居りますことは、心強い限りであります。米英的なる舊き秩序に對する大東亞解放の聖戰は、斯の如く世界的聯繫に於て敢行せられて居るのであります。世界は今や、重大なる歴史的轉換期に達して居るのであります。即ち、今次の大戦は、單なる武力に依る争闘でありませずして、實に、世界に於ける新舊二大世界の衝突であることに思ひを致します時、我々は、我々並に我々の子孫の擔當すべき重大なる世界史的使命を自覺せざるを得ないのであります。而して、此の自覺の下に舉國一致、大戦の完勝に粉骨碎身の誠を誓はねばなりません。

最近の國際情勢(北阿作戦と米英の確執)

情報局第三部長 堀 公 一

昭和十七年十二月二十三日放送

年末の新しい出来事で世界の注目を集めて居るものは佛領北アフリカの作戦で又之程鳴物入りで宣傳せられた作戦も尠ないのであります。敵側の云ふ處に依りますと萬一米英側が此の作戦に成功すれば(一)には殆んど喪失して終つたと云つてもよい地中海の制海權が幾分米英側に回復する事が出来る、(二)には地中海の交通が開けることによつて近東、イラク、イラン方面への補給其他が容易になる、又(三)には此の北アフリカを地盤として佛蘭西、伊太利及バルカン方面への反攻の機會を窺ふことが出来るし、(四)には北アフリカ一帯を占據することが出来れば大體アフリカ

全部が米英側の勢力下に歸しアフリカの物資が利用出来る許りでなく大西洋航路の脅威も大いに減ずると云ふ色々な利益を擧げて居るのであります。

殊に當時の米英としては、各其の國內の民心を引き立てる上から云つても、又蘇聯に對する第二戰線の約束の手前から云つても、何等かの攻勢に出でなければならぬ立場にあつたのであります。

敵側の云つて居る處に依りますと、此の軍隊武器輸送の爲めには軍艦運送船を合せて六百五十隻の船を使用し、或るものは英國から南下し、或るものは米國から直接大西洋を横斷して北阿に向つたと云ふことですから、話半分と見ても相當大規模な危険且つ大膽な輸送であつたには相違なく、それだけに米英軍が上陸したとの報を得るや米英側は狂喜して之を迎へ、ルーズベルト、チャーチルを初めとして新聞紙も論客も米英の積極攻勢開始せらるゝと恰も敵前上陸にでも成功したかの如く囃し立てたのであります。

事實は中立地帯である佛領の侵略であり且米英側の佛蘭西駐屯軍籠絡政策が效を奏した爲めモロッコ、アルジェリアは申請的な抵抗を試みただけで休戦し、云はゞ無防備地帯に上陸したのであつて日本軍の敵前上陸などは根本的に違つて居るのであります。何れにしろ氣をよくした米英軍は英將アンダーソンの率ゐる第一軍を先頭とし、東に向つて進み、埃及方面から西進する英第八軍に呼應して一擧にチュニス及びビゼルタを目指して進出し、一時之等の町から二十五哩位迄の處に迫つた模様であります。

然し豫ねて凡有場合を豫想して周到なる作戰計畫を建て、居た獨伊軍首脳部に於ては、電光石火的に十一月十一日佛蘭西非占領地帯に兵を進むると共に、陸海空の三軍を動員して有力部隊をチュニジアに輸送し、優勢な空軍と協同

して反撃に出づると共に、獨伊海空軍は敵補給路の遮斷に活躍を初めたので、米英軍は今やメヂエズ・エル・バブ附近の線迄後退を餘儀なくせられ茲に本年末迄には是非チュニジアを占據すると云ふ米英側の夢想は挫折を喰つた譯であります。一方エル・アゲイラの線で敵を阻止して居たロンメル將軍統率下の獨伊軍は、最近エル・アゲイラを撤退して西方トリポリタニアの方向に向つて移動中でありすが、之は恐らく戰略的に戦線短縮を計る爲で却つて樞軸軍側の優位を保持する事になるものと考へられます。

又チャーチル初め米英側が宣傳に之努めた對イタリー爆撃は其の後も繼續せられ、軍事施設よりも民間に損害は相當ある様であります。イタリー國民の結束は之に依つて益々鞏固となり、獨伊兩國間の協力も愈々緊密となつて、敵側の離間宣傳や威嚇や無防備施設の盲爆に依つて我が樞軸陣營が微動だもするものでない事を如實に示す逆効果を來たす結果となつたのであります。

斯様な譯で初め景氣の良かった米英宣傳も、此頃は北阿の距離の大きな事、補給の困難なる事、獨伊空軍の優勢なる事等を理由として北阿作戦は困難且つ長時間を要する事を指摘し、國民の樂觀氣分の抑壓に努めざるを得なくなつた現状であります。

北阿上陸作戦に當つて敵側にとり重要な役割を勤め、又之が爲め汚名を千歳に殘したものは佛蘭西のジャン・ダルラン海軍大將であります。ダルランは一昨々年夏獨伊休戦以來ベタン元帥の下にヴィシー政府の祿を喰み、本年四月ラパール氏が首相となつて以來は陸海空軍總司令官を勤めて來たのであります。米將アイゼンハウアーの率ゆる米英軍がアルジェリアに上陸しますや、ダルランは苦境に在る八十七歳の老元帥を見棄て、抗戦命令を無視し、

直ちに米軍側と休戦交渉を開き、アイゼンハワーと協議の上自ら佛領アフリカの最高事務官となり、ノゲス將軍、ボアソン總督等を委員とする帝國審議會なるものを組織し、又今年獨逸より逃げ出し佛軍人間には人望あるジロー將軍を總司令官として軍務を掌らしめる等著々傀儡政府組織を計畫して居る模様であります。

之を見て一番驚いたのは英國に亡命して居る所謂自由佛蘭西委員會主席のド・ゴール將軍であります。

ド・ゴールは一昨々年獨佛休戦の際も、佛國政府はアフリカに退いて飽迄獨伊と抗戦すべしと主張した一人であります。その説が容れられざるに及ぶや、倫敦に逃れ英國政府に縋つて佛蘭西植民地等に呼び掛け對獨抗争を續けて來た男であつて、その主張は素より佛蘭西を活かす道ではありませんが、その性格はダルラン等の豹變常ならざる機會主義者と異つて一本氣な正直者であります。が、何分一般の氣受も良くなく又政治的經驗手腕にも乏しく唯英國政府としても外にもつと適任の後任者が見付からないから已むを得ず其の地位を認めて來た丈けであつて、英國が例へばマダガスカルを侵略した時の如きも何等ド・ゴール派には相談なしに之を專行する、又武器貸與法の適用を米國に哀訴しても米國は之に見向きもしないと云ふ譯で、ド・ゴールは豫ねてこの英米の冷淡な態度に不満を懷いて居たのであります。

處が今度米英軍の北阿侵略以來の米軍とダルランとの話合ひの下に競争相手とも云ふべき偽政權が出来上つて行くのを見ては之を黙過する事が出来ません。英國政府の制止も聞かずダルラン排撃の放送を繰返すと共に英政府に哀訴嘆願したのであります。

英國政府としてはド・ゴール派が中部アフリカに相當の勢力を有して居り、且は二年餘りも面倒を見て來た義理合も

とするのだから心中甚だ釋かでは無い。然し一方佛蘭西人民の人望を繋ぐ上からはダルラン、ジローのコンビを利用する事が遙に有利であり且つ其の背後には米國があるのだから之亦全面的に否認する事も出来ないと云ふ窮況に追ひ込まれたのであります。

米國政府は之等英米間の醜態暴露を恐れた爲めか、それ共英國政府から泣き付かれた爲か解りませんが、ダルランとの取極めは軍事上の便宜に基く暫定的のものであつて佛領アフリカの歸屬問題とは關係の無いものであると聲明し、情勢の緩和に努め英國は又マダガスカルに於ける行政施行をド・ゴール派に委任する等色々苦心の策を弄して居る様であります。過日議會で特に秘密會を開いてチャーチル自ら此問題の説明に當つた處より見ますと、此ダルラン、ド・ゴール、従つて米英間の紛糾は更に内攻して居り、機會ある毎にその醜狀を表はし來たる事と思はれるのであります。

然し乍ら以上の米英間の軋轢は、樞軸軍の北阿地方回復によつて自然消滅すべき問題であつて、云はゞ獲らぬ狸の皮算用とでも云ふべく、米英兩國間に蟠まる一層深刻な相剋に比ぶれば單なる派生的な小事件に過ぎずと見て差支へないのであります。

米英兩國は、昨年八月チャーチル、ルーズベルトの洋上會談に於て所謂大西洋憲章なるものを作り上げ、領土不侵略、各國民が自主的に政體組織を撰擇するの權利、交易の自由等八項目に互る理想要綱を發表し、如何にも米英兩國は此共同理想を目標として戦つて居るかに吹聴したのであります。素より之は米英兩國が之を實行する事を目途としたものではなくて、既に樞軸諸國に占領されて取返すことの出来ない各地に付て夢物語の様な文句を並べて世界諸國民を誘惑し呼掛けんとしたに過ぎないのであります。が、肝腎の自己の権力下にある印度が本憲章を採用して印度に印度の欲す

る政府を與へよと要求するに至ると早速本憲章と稱するものが實際的價值なきものであることを暴露し、同年九月初旬になるともうチャーチル自身が本憲章を規定する政府探擇權は歐洲諸民權に適用するもので印度には適用するものではないと判然釘を打つた事に依つても、空虚なものであることが窺はれるのであります。

畢竟英國の企圖する處は、其從來の英帝國版圖を是が非でも維持し昔日の勢力を盛り返したい、之が爲には米國であれ蘇聯であれ凡有國を利用し操縦し又之が爲には嘘も云へば御機嫌もとる、目的の爲には手段を撰ばずと云つた處であります。

之に對し米國の企圖する處は、今次の大戦を利用して英帝國は勿論全世界に互り經濟的的政治的霸權を確立し、戦後は領土的には別として實際には唯一無二の獨裁者として世界に君臨する事を目ざして居るのであります。米國が自らを聯合國の兵器廠と稱して武器彈藥をどしどし製造して代金はいらないと云つて諸國に送り出して居るのも、又必要なき戦争を自ら誘發して國民に多大の犠牲を強ひて居るのも、將又英國本土や中南米やアイスランドやアフリカや印度、シリア等世界各地へ米國兵を派遣して居るのも皆この遠大なる野心に基くものと見て初めて諒解が出来るのであります。茲に米英が心から相和す事の出来ない溝が出来て居るのであります。換言すれば英帝國の再興を夢見る英國の宿望と世界制覇を目指す米國の野心とが絶えず暗闘を續けて居るのであります。

最近此の問題に口火を付けたものは米國の流行雑誌のライフであり、その火の手を煽つたものは例のウिल्キー君であります。

去る十月十二日ライフは英國國民に與ふる公開狀と云ふ一文を掲せ、「今度の戦争に於ては米國は莫大な金を使つて

武器の貸與をやつて居るのに英國が之を徳とはせず、聯合國の犠牲に於て英帝國の維持にのみ努めるならば延いて米國の同情を失ひ結局敗戦するに到るだらう」と米國式に云つてのけ、又ライフ社に豫ねて恩顧になつて居るウिल्キーは之に和して「英植民地は今や英帝國の殘骸に過ぎない、植民地を廢して自由を與ふるに非ざれば印度人も東亞諸民族も隨いては來ないであらう」と放送したのであります。

英國人は米國は歴史的にも文化的にも英國に負ふ處多く此際英帝國の爲に戦ふは當然なりと思つて居り、又武器貸與を特別の好意に出づるとして威張つて居る米國人に對し日頃反感を持つて居るのでありますから、この英國人がこの小癩な米國の放言に黙つて居る筈はありません。又事實英帝國の解體を我慢する位なら英國も好んで戦争をする必要もない譯です、即ち十一月十日「チャーチル」は

「今次英國作戦の目的は權利擁護者としての榮譽と義務とを遂行することにある。此上領土を獲得又は擴張する野心はないが然し英帝國は之を保持しようとして決心して居る。自分は英帝國を解體する爲に總理大臣になつたのではない」と強く一矢を酬ひたのであります。

するとウシルキーが再び口を開いて

「大西洋憲章の理想は聯合國の間に目的の一致を見るに非ざれば之を實現する事が出来ない、然るに同憲章の主役の一たる英國が今猶帝國主義的舊秩序の保持を宣言するが如き状態では大西洋憲章の理想達成は望み難い」と大見得を切つたのであります。理論的には軍配はウシルキーに擧がる譯でありますが、彼の主張の缺點は大西洋憲章の條文は如何ともあれ米國政府が着々其の世界政策を實行しつつある現實を忘却した點にあります。それは兎に角ライフの

投じた一石が意外の波紋を起して米英關係の醜狀を天下に暴露する結果となつたのは是に皮肉であります。此論争に關聯して十一月下旬の倫敦タイムズ社説は

「ウイスキーの演説を國內的人氣取りの悪口だと計り見るのは當らない。右は米人の傳統的な反帝國主義的思想の現はれであつて従つてチャーチルの演説だけでは米國人の疑念を解く譯にはいかない。然し一方英國にも對米疑念がある。それは米國は最近世界の最強國なりとの自信を強めて居るが果して戦後其の力を被征服民族解放の爲めに使ふかどうか、萬一此の目的の爲に其の偉大な力を用ひずとすれば米國目下の言論戦も武力戦も畢竟米國の世界政策實現の爲めの準備としか見なければならぬ。曾て駐英米國大使ワイナントは「米英間には他の如何なる問題よりも英植民地政策に關して意見の懸隔がある」と云つたが此兩國相互の疑念こそ兩國協調を阻碍する最大の危険である」と英國人の對米猜疑心を率直に認めて居るのであります。

斯様に米英間の確執は深刻なものであるが、然し彼等の争ひは樞軸對米英と云ふが如き根本的、理念的意見の衝突では無くして利害の衝突に於て深刻なものであると云ふ許りであります。否アングロサクソンの世界制覇と云ふ點に於ては計らずもその野望が一致して居るのでありますから、情勢に應じては妥協の餘地が充分あるのであります。我々としては素より斯る米英の軋轢の爲に安易感を起してはならない事は勿論であります。

開戦一周年記念日日泰交驩放送に於ける 東條内閣總理大臣放送講演

昭和十七年十二月八日

昨年十二月八日帝國が米英撃滅の師を起してより茲に一ケ年、其の間 御稜威の下、皇軍將兵の善戦力闘と縮盟各國の絶大なる協力とに依り史上未曾有の戦果を收め、本日茲に必勝の態勢の下に開戦一周年記念日を迎へ得ることは、洵に御同慶に堪へない次第であります。

抑、今次戦争の目的は、米英兩國の飽く無き東洋制覇の野望を破砕し、以て大東亞の諸國、諸民族の生存と權威とを保全し、且正義に立脚する大東亞新秩序を建設せんとするに在るのであります。

タイ國の聰明なる指導者ピブン總理は其の信念に基き、夙に帝國の此の理想を理解し、深く之に共鳴する所があつたのであります。果せる哉、昨年十二月八日大東亞戦争勃發と共にピブン總理は直ちに其の信念を實行に移されたのであります。即ち先づ、帝國軍隊の通過其の他諸般の便宜を供與し、次で帝國との間に攻守同盟を締結し、後幾許も無く米英兩國に對して敢然として宣戦したのであります。而して此の間タイ國民はピブン總理を中心に國內一致團結克く當時の危機を切り抜けたのであります。爾來タイ國は全國民を擧げて帝國と一心同體、帝國と苦樂を共にして、飽く迄も大東亞戦争を勝ち抜かんとする鐵石の決意の下に、戦争の遂行に緊密なる協力を致されつゝありますことは帝國朝野の感謝措く能はざる所であります。殊に私は、昨年の今日今日を想起しピブン總理が當時の最も重大にして機微なる時機に示されました英斷と、其の據つて來る信念とに對しまして、茲に、更めて滿腔の敬意を表するものであります。

申す迄もなく大東亞戦争は、曠古の大戦争であり、又大東亞新秩序の建設は未曾有の大事業であります。然し乍ら

戦略的にも政略的にも米英を屈服せしむべき基礎は、戦争第一年に於て既に確立せられたのであります。而して大東亞共榮圈確立の事業も亦着々として其の歩武を進めて居るのであります。斯くして帝國は此の大戦争に必ず勝つ確信を愈々固むるに至つたのであります。今や帝國は此の必勝の信念の下に、舉國一致彌が上にも戦力の増強を圖ると共に益々盟邦との提携を密にし、以て有利なる態勢を更に擴充強化しつつ、決戦に次ぐに決戦を以て飽く迄も米英を撃滅せんとして居るのであります。此の戦争に於て米英を徹底的に撃碎せざる限り、貪慾飽く無き米英が再び世界制覇の野望を逞しうせんとするは火を見るよりも明かなことであります。此の戦争に勝つことに依つて始めてタイ國の眞の自主獨立は素より、大東亞永遠の安定は確保せられ得るのであります。

帝國とタイ國とは眞に運命を共にして居るものであります。此の運命を開拓するの途は、洵に簡單明瞭であります。只一途に兄弟相携へ、共同の目的達成に向つて戦ひ抜き勝ち抜きばかりであります。兩國が軍事上は勿論、外交、經濟、文化等あらゆる分野に於て此の上共積極的に提携、協力するの要、洵に今日より大なるはないのであります。

本日開戦一周年記念日を迎ふるに當りまして、茲に盟邦タイ國に對する感謝の念と戦争完遂に對する決意とを新し、今後一層の御協力を御願ひして私の挨拶を終ります。

開戦一周年記念日日泰交驩放送に於ける 泰國ビブン首相放送講演

タイ國盟邦日本總理大臣陸軍大將東條英機閣下

本日茲に勝利の日の一周年を記念し閣下に向つて此の談話を送り閣下に敬意を表する機会を得たることを光榮に存じます。大東亞戦争開戦以來盟邦日本國民は戦争に於て常に好運に恵まれて來たことは私及タイ國民として慶賀に堪へません。現在戦つて居りますところの戦争は光榮と好運に満ちた戦争であります。日本軍が過去一ケ年に收められた所の勝利は私が人類の歴史の上で未だ曾て讀んだことのない勝利であります。僅か一ケ年間に陸に海に空に廣大なる地域が日本軍の手中に陥ち亞細亞大陸の各方面に存在した好ましからざる勢力は殆んど潰滅してしまつたのであります。之れこそは日章旗の下に集つた所の亞細亞全民族の名譽を昂める重要な證左であります。此の外にも又日章旗の旗蔭に寄添つて偉大なる好運が生れたのであります。

我亞細亞民族は過去に於て獨立の光明を仰ぎ見ることが出来なかつたのであります。今や支那より南洋に至る廣大なる地域に於ける我同胞は至る所に於て桎梏より脱して獨立の文明の光明に浴さんとして居るのであります。私は之れを以て日本軍及日本國民が一致協力犠牲を共にした結果に他ならないと信ずるのであります。亞細亞諸民族が現今及將來享受すべき勝利は日本國民の勝利の旗印であり、且亞細亞諸民族の旗印とも言ふべき閣下の御功績に負ふものと言ふの他ないのであります。

斯くて日本國民が共榮圈建設を創意したことに對しまして私は閣下及我愛する日本國民各位に對し眞情を披瀝致し御祝申上ぐるものであります。

我タイ國は未だ閣下の御來訪を受くるの光榮を得て居りません。然し多分閣下の名譽ある官吏より報告されて居る

ことと思ひますが此の機会に私は若し假りにタイ國民に關し何等か閣下の御懸念が有りますならば之れを御解消下さることを希望するのであることを敢て申上げ度いと存じます。即ち私は名譽を以て保證致します。タイ國民は總て其の階級年齢を問はず一人残らず機會の許す限りタイ國は軍事經濟文化の各分野に於て日本と協力し又如何なる時に於ても日本國民と生死を共にするだけの鞏固なる決意を持つて居るのであります。本日連勝の一周年を迎へ私は相互の約束に従ひ又當然なすべき方式に従ひ私及タイ國民がなすべく決意した通りに總ゆる約束を實行して参りましたことを閣下に申上ぐるものであります。亞細亞民族同胞が桎梏より脱して獨立し之れに依つて我々の民族の力を増大せしめる結果となることを期待するものであります。

今年タイ國は大水害に見舞はれタイ國民は大なる被害を蒙つたのであります。國民は全力を擧げて而も冷靜に此の大災難に當りタイ國は凡ゆる友邦より同情を受けましたがタイ國民の忘れ得ない事は盟邦日本が數百萬圓に價する藥品及物品を供與して救恤を盡された事であり。茲に私はタイ國の名に於て重ねて深甚なる謝意を表するものであります。將來の戦争に付きましては勝利が必ず日本及タイ國側にある事に對しては前以て祝意を表して置く次第であります。何故ならば過去一年間の勝利に依つて獲得したる戦果は廣大なる地域に互るものでありまして、之は更に將來に残された障害克服の基礎を來すものであつて、絶對的の勝利は必ず我等が手にあり、亞細亞民族が一團となつて一致協力し居る以上最後の勝利が極めて速かに來るべき事を愈々確信するものであります。

終りに臨みまして私はタイ國政府タイ國軍及タイ國民の名に於て、閣下を始め日本軍及日本國に對し、此の一年間に齎らされた所の大成功に對しまして心からなる祝意を表します。私は天地神聖なる神が日本軍に引續き勝利の御恵を垂れます様、タイ國の眞の盟邦たる日本國が有ゆる病魔災難から救はれましてそして日本帝國が永遠に繁榮する様御祈り申上げるものであります。冀くば閣下の親戚として私の敬意を受けられんことを。

日泰同盟條約調印一周年に關する泰國ビブン首相宛 東條内閣總理大臣祝電

日泰同盟成立一周年の記念日を迎ふるに當り、閣下及閣下を通じ、泰國軍官民に深甚なる慶祝の意を表する機會を得たるは、本大臣の最も光榮とする處なり

征戰茲に一年我が赫々たる大戦果に依り各民族各々其の所を得べき新しき大東亞建設の基礎既に成る、茲に貴國の絶大なる御協力を深謝すると共に今後日泰兩國愈々提携を密にし、必勝の基礎を擴充強化しつゝ飽く迄も敵米英に痛撃を加へ、之を屈服せしめて、以て共同の戦争目的を達成せむことを期す

日泰同盟條約調印一周年記念祝賀大會に於ける 東條内閣總理大臣祝辭

昭和十七年十二月二十一日

日タイ攻守同盟は本日をも以て滿一周年を迎へたのであります。此の日は日タイ關係の歴史上劃期的なる日であるの

みならず、又大東亞戦争の途上遂に記念すべき日であります。

顧まするに昨年十二月八日、帝國が全アジアの運命を擔ひ、決然起つて米英撃滅の征師を起しますや、タイ國は直ちに皇軍に協力を致し、以て開戦劈頭に於ける我が作戦に大いに寄與する所があつたのであります。而して昨年の今日、日タイ兩國は攻守同盟を締結し、軍事、政治、經濟の凡ゆる部面に於て協力を約しますると共に、最後の勝利に至る迄斷じて戈を收めざるの牢固たる決意を中外に宣明したのであります。實に、此の日以來、日タイ兩國は、苦樂を共にし、生死を一にする、盟邦と相成つたのであります。後、幾何もなくタイ國は遂に米英に宣戦し、帝國と共に干戈を執るに至つたのであります。タイ國は當時の困難なる國際情勢に對處し、米英の壓迫と策謀とに惑はざることなく、克く世界の動勢を達觀し、帝國の眞意を了解して、敢然として帝國と行動を共にするに至つたのであります。思ひを當時に致しまして、私は、タイ國首相ピブン元帥並にタイ國官民に對しまして、茲に深甚なる謝意と敬意を表するものであります。

我々の今戦ひつある戦争は、米英積年の野望を挫き、アジアを其の本然の姿に返し、道義に基く新秩序を建設せんとする正義の戦であります。皇國の興廢は素より全アジアの運命の岐るる曠古の大戦争であります。斷じて勝たねばならない大戦争であります。負けられない大戦争であります。大東亞の諸國、諸民族は一致團結し、アジアを打つて一丸とし、飽く迄も戦ひ抜かねばならないのであります。此の秋に當り、日タイ兩國は、誓つて血盟を結び、共に、まつしぐらに勇戦奮闘を續けて居るのであります。洵に力強き限りであります。由來、日タイ兩國は、過去數世紀に互り友好親善の交りを續けて來つたのであります。其の間一度の紛争も生じたることなく、終始一貫友好關係を持

續して參つたのであります。大東亞戦争下、此の搖ぎなき同盟關係は實に斯かる日タイ兩國の永き傳統と歴史との上に打建てられたのであります。此の同盟こそアジアの大團結に確固たる礎石を築き上ぐるものであり、而して大東亞に於て光輝ある建設の役割を果すものであります。

惟ふに、タイ國民は古くより、自主獨立と自由愛好の傳統的精神を堅持して來たのであります。複雑にして變轉極りなき國際情勢に對處して、常に毅然としてアジアの一角に光榮ある獨立を保ち、大東亞民族としての矜持を保持して參つたのであります。加ふるに近年同國が、ピブン首相の如き信念と決意との指導者を得ましたことは、當にタイ國民の喜びであるばかりでなく、東亞諸民族全體の喜びとする所であります。而してタイ國國民は此のピブン首相の指導の下に、一致團結、國民精神を作興して克く國力の充實と國勢の伸張とを計つて參つたのであります。斯くして今やタイ國は大東亞の共同戦線を愈々牢乎不拔ならしめ以て大東亞の興隆に大いに貢獻を爲しつつあるのであります。洵に敬服に堪へない次第であります。

同盟締結以來正に一ケ年、其の間同盟の精神は遺憾なく發揮せられ、日タイ兩國は勝利の榮光と全アジアの興隆とを目指して勇躍邁進しつつあるのであります。最後の勝利は素より我々の手にあるのであります。然し乍ら斷じて此の戦を勝ち抜く爲には、凡ゆる困難を克服せねばならないのであります。申す迄もなく、帝國は信義の國であります。朋友相信する國であります。義理には固い血もあり涙もある國であります。我々は何處迄も此の信義の下に戦ひ抜く覺悟であります。私はタイ國の人々が此の信義の國日本の眞價をよく了解せられて居ることを信じて疑はないものであります。

本日茲に同盟一周年を迎ふるに當りまして、重ねてタイ國の御協力を深謝致しますると共に、兩國愈々盟邦の契を堅くし、相信じ、相扶け、勇氣を百倍し、鐵石の決意を以て、共同目的達成の爲に一路邁進せんことを望んで、私の祝辭を終ります。

日本國タイ國間文化協定批准交換に關する情報局發表

昭和十七年十二月二十一日

昭和十七年十月二十八日東京に於て谷外務大臣とデイレック駐日タイ國大使とが署名調印したる日本國タイ國間文化協定は帝國及タイ國に於て夫々批准を了し本二十一日バンコックに於て坪上大使とタイ國外務大臣との間に右協定の批准書交換を行ひ同協定は本日を以て效力を發生したり
同協定の全文左の通り

日本國タイ國間文化協定

大日本帝國天皇陛下及

「タイ」國皇帝陛下ハ

兩國文化ノ本然ノ特質ヲ相互ニ尊重シツツ緊密ナル協力ノ下ニ兩國間ノ文化關係ヲ更ニ増進セシメ以テ東亞文化ノ興隆ニ寄與スルニ努メ併セテ幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ一層強固ナラシメンコトヲ欲シ

之ガ爲文化協定ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

外務大臣谷正之

「タイ」國皇帝陛下

日本國駐節「タイ」國特命全權大使「ナイ、デイレック、チャイヤナム」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ基礎ヲ堅實ナラシメ以テ兩國相互ノ認識及理解ヲ深カラシムル様努力スベク且之ガ爲文化ノ有ラユル部門ニ互リ最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第二條

締約國ハ兩國ノ文化ノ向上發展ニ付審議スル爲ノ文化會議ヲ隨時ニ開催シ及右目的ヲ有スル會議ヲ助成スルニ努ムベシ

第三條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ資スベキ施設ノ設置、維持及發展ニ努メ且之ガ爲相互ニ能フ限り便宜ヲ供與スベシ
前項ノ施設ハ學術其ノ他ノ文化ニ關スル團體、研究所、圖書館、博物館、學校及衛生福祉施設ヲ含ムモノトス

第四條

締約國ノ一方ハ自國ノ大學ニ於ケル他方ノ文化ニ關スル講座ノ設置、維持及充實ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ
締約國ノ一方ハ自國ノ適當ナル各種ノ學校ニ於ケル他方ノ國語ノ教授ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ
締約國ハ兩國ノ文化ニ關スル講義又ハ講演ヲ爲サシムル爲メ教授、學者及専門家ノ定期交換、派遣又ハ招聘ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

第五條

締約國ハ兩國ノ協議決定スル所ニ從ヒ兩國ノ文化ヲ研究セシムル目的ヲ以テ研究員、學生及生徒ノ定期交換、派遣又ハ招致ヲ行フベシ

締約國ハ實務見習生及短期講習生ヲ交換、派遣又ハ招致スルニ努ムベシ
締約國ハ前二項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限り便宜ヲ供與シ且獎學資金ノ設定ニ考慮ヲ拂フベシ

第六條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與スベシト認ムル著述家、藝術家及宗教家ノ活動ヲ獎勵シ且此等ノ者ヲ交換、派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ
締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與スベシト認ムル演劇、舞踊及音樂ノ上演ヲ獎勵シ且之ニ從事スル個人及團體ヲ交換、派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ

第七條

締約國ノ一方ハ自國ニ於ケル出版物、映畫、幻燈、寫眞、音盤及樂譜ニシテ兩國相互ノ認識及理解ノ増進ニ寄與スベシト認ムルモノヲ能フ限り多數且頻繁ニ他方ニ供給スルニ努ムベク他方ハ此等ノモノガ自國ニ於テ有效ニ利用セララル様其ノ保存、頒布、上映及展示ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

締約國ハ自國ニ於ケル出版物及藝術作品ニシテ相手國ニ紹介スル價值アリト認ムルモノノ表ヲ交換スベク且適當ナル方法ニ依リ此等ノモノヲ紹介普及スルニ努ムベシ

締約國ハ前記出版物及藝術作品ノ翻譯及複製ニ關シ必要ナル斡旋及助成ヲ爲スニ努ムベシ

締約國ノ一方ハ自國ノ圖書館及博物館ニ他方ニ關スル圖書及展覽資料ヲ増加スルニ努ムベク且此等施設ノ利用ニ關シ他方國民ニ對シ能フ限り便宜ヲ供與スベシ

第八條

締約國ハ兩國ノ學術、美術及工藝ニ關スル相互ノ認識及理解ヲ増進スル目的ヲ以テ隨時ニ展覽會ヲ開催シ及右目的ヲ有スル展覽會ノ開催ニ關シ必要ナル斡旋及助成ヲ爲スニ努ムベシ

第九條

締約國ノ一方ハ自國ノ放送局ヲシテ他方ニ向ケ定期放送ヲ行ハシメ且他方ノ定期放送ヲ中繼セシムベシ
締約國ノ一方ハ自國ノ放送局ヲシテ隨時ニ講演、演藝、音樂等他方ノ文化ニ關スル放送ヲ行ハシムベシ

第十條

締約國ハ兩國民交隣ノ爲青少年團及運動競技選手ヲ交換、派遣又ハ招致スルニ努ムベシ
締約國ハ兩國相互ノ認識及理解ヲ増進スル爲觀光旅行團及見學旅行團ヲ交換、派遣又ハ招致スルニ努ムベシ
締約國ハ前二項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第十一條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與セシムル爲夫々相手國ノ首府ニ文化紹介機關ヲ設置スルニ努ムベク且右機關ノ事業ニ對シ相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第十二條

締約國ハ本協定ノ實施ニ關シ兩國間ノ連絡ニ當ラシムル爲東京及「バンコック」ニ文化連絡協議會ヲ設置スベシ
右協議會ノ組織及運用ニ關スル細目ハ締約國ノ外交機關之ヲ協議決定スベシ

第十三條

本協定ノ實施ニ關スル細目ハ締約國ノ外交機關之ヲ協議決定スベシ

第十四條

本協定ハ批准セラレバ且其ノ批准書ハ成ルベク速ニ「バンコック」ニ於テ交換セラレベシ
本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ實施シ且同日ヨリ十年間引續キ效力ヲ有スベク又締約國ノ一方ガ本協定ヲ終了セシムルノ意思ヲ右十年ノ期間滿了ノ一年前ニ他方ニ通告セザル場合ニハ本協定ハ締約國ノ一方ガ其ノ廢棄ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ

昭和十七年十月二十八日即チ佛曆二千四百八十五年十月二十八日東京ニ於テ日本文及「タイ」文ヲ以テ本書ニ通テ作成ス

谷 正 之 (印)

ディレック、チャイヤナム (印)

汪中華民國國民政府主席兼行政院院長來訪に關する 情報局發表

昭和十七年十二月二十日

中華民國國民政府主席兼行政院院長汪精衛氏は大東亞戰爭一周年を期とし帝國の赫々たる戦果に祝意を表すると共に日華提携を更に緊密化する目的を以て我方要路と懇談の爲十二月十九日海難號にて南京發本二十日午後一時五〇分羽田に到着せるが汪精衛氏は二十二日國民政府主席として宮城に參入、二十三日以降は行政院院長の資格にて總理外要路と會談の豫定なり

尙一行は汪院長の外、外交部部長蔣民誼氏、行政院副院長兼財政部部長周佛海氏、軍事參議院院長陸軍上將蕭叔宣氏、實業部長梅思平氏、宣傳部部長林柏生氏其他約十名なり



汪院長歡迎晩餐會に於ける東條内閣總理大臣挨拶

於内閣總理大臣官邸

昭和十七年十二月二十三日

一言御挨拶申し上げます。

本席は汪精衛閣下並に御一行の御來訪を親しく歡迎申し上げ、旁々長途の御旅行を慰勞する意味をもちまして、御招待申上げましたる處、汪閣下を首めと致しまして、皆様方の御貴臨を得ましたことは、私の洵に欣快とする所であります。汪院長閣下には昨年六月來訪せられたのでありますが、此の世界的大轉換期に臨み、内外極めて多事の秋に當り、再び、御來訪下されたのであります。何等御疲れの模様もなく相變らず御元氣な御様子に接しまして、私共は何よりも力強く感じて居る次第であります。大東亞戰爭勃發以來既に一周年を迎へたのでありますが、中華民國國民政府に於かれましては開戦と同時に帝國と同甘共苦の決意を逸早く示され、爾來此の堅忍不拔の決意の下に、我が帝國の作戦に對し、後方勤務とも云ふべき責任を分擔されつゝ、新國民運動を開始せられ、國內體制の整備強化に向つて並々な御努力を拂はれて居るのであります。此の事たるや實に我が朝野の深く感銘致して居る所でありまして、茲に衷心より謝意を表するものであります。今や帝國は、御稜威の下、戰爭第一年に於て御承知の通りの大戦果を擧げたのであります。茲に戰略的に極めて有利なる地歩を占むると共に、直に戦力に轉化し得る巨大なる重要資源

を米英の手より、我が掌中に移したのであります。斯くして必勝不敗の基礎的態勢が出来上つたのであります。大東亞を其の本然の姿に還らしめ、以て萬邦をして各々其の所を得しめ、兆民をして悉く其の堵に安んぜしむべき新しき大東亞建設の土臺が築き上げられたのであります。帝國が滿々たる勝利への確信を以て戦ひを續けて居る所以は、實に此處に在るのであります。而して一方中華民國國民政府を始め、大東亞に於ける盟邦各國各住民は、其の全力を擧げ共同の目的達成の爲欣然として帝國の此の堂々たる大進軍に力を寄せて居らるゝのであります。斯くして大東亞の前途は洋々として希望に滿ち滿ちて居るのであります。

大東亞の各國家及各住民に課せられたる今後の使命は、實に汪閣下の御決意の通り同甘共苦眞に一心同體となり、只一途に此の必勝の基礎を強化し、其の戦力を擴充して飽く迄も米英に痛撃を加へ、以て其の戰爭能力と戰爭意志とを喪失せしめて遂に彼等をして屈服せしむるに在るのであります。

此の秋に當り汪院長閣下の御來訪に依り、胸襟を披いて腹藏なき意見を交換し、愈、日華兩國同志の契りを深くし、益々兩國の協力關係を強化することを得ますことは洵に時宜に適したるものでありまして、御同慶に堪へない次第であります。

茲に重ねて、汪院長閣下を始め、御一行の閣下各位の並々な御勞苦を謝すると共に、今後日華兩國、愈、提携を密にして、共同の目的を達成せんことを固く期するものであります。

終りに杯を擧げて汪行政院長閣下の御健康と中華民國國民政府の隆昌を御祝ひ致し度いと存じます。

汪院長歡迎晚餐會に於ける谷外務大臣挨拶

—於外務大臣官邸—

昭和十七年十二月二十四日

今般、汪院長に於かせられましたは、國政頗る御多端の中を割きて、日華兩國間提携促進の爲、親しく御來朝に相成り、本夕は此の御來朝を機とし、青木大東亞大臣と私が主人側となりまして、院長閣下並に隨行の閣下各位を御招き致しました處、御多忙中の所を、枉げて、御出席賜りましたことは、私共の深く光榮と致し、且感謝に堪へない所で御座います。

顧みますれば、汪院長閣下が和平建國を決意せられ、重慶を脱出せられてより、早くも滿四年、又日華基本條約が締結せられましたより、滿二年の時日を経過し、此の間、内外共極めて困難なる環境の下に、良く國民政府今日の基礎を築き上げられました汪院長の御努力に對しましては、私共平素より滿腔の敬意を拂つて居ります所で御座います。

客年十二月八日、帝國が、東亞の禍根の根本的免除を決意し、米英に對し、宣戰を布告致しまするや、汪院長は、直ちに、中國は完全に帝國と志を同じうするものなる旨を宣明せられ、更に、本年五月、特に諸民誼特使一行を派遣せられ、兩國間の提携の緊密化に資せらるゝ所がありました、之に對しまして、帝國よりは、平沼、有田、永井三答訪使節を派遣せられたのでありますが、今日、帝國と中國との提携は、完璧の域に達して居りますことは、誠に御同慶

に堪えない次第であります。

惟ふに、日華兩國間の提携は、單なる一時的利害關係に依る結果に非ずして、日華基本條約にも掲げられました如く、東亞に於て、道義に基く、新秩序を建設せんとする共通の理想を基礎とする精神的結束たる點に、其の特色が存するので御座います。客年、開戦以來、御稜威の下、皇軍の忠武に依りまして、未曾有の戦果を擧げ、今や、敵米英に對し、必勝の態勢を確立するに至つたのでありますが、尙最後の勝利に到達します迄には、獨り帝國のみならず、中國を始めと致しまして、大東亞地域内各國も、均しく前途幾多の困難を、相共に克復して行かなければならぬものと信ずるのであります。然るに、中國に於ては、夙に帝國と同甘共苦の決意を表明せられ、日華兩國の提携は、右困難にも拘らず、否困難が大なる程、益々、鞏固となりつゝあるのでありまして、此の事は、取りも直さず、兩國の提携が、前に述べました通、精神的結束たるの特色を發揮しつゝあるに外ならぬものでありまして、私の、閣下各位と共に、衷心欣快と致す所で御座います。

今や、勝利の連続の中に、大東亞戦争第二年目を迎へ、帝國に於きましては、軍、官、民一致して、最後の勝利に向ひ、益々、不動の決意を固めて居ります今日、此際汪院長閣下一行の御來朝を迎へましたことは、極めて意義深いことと信じます。希くば、汪院長閣下初め、國民政府の指導的地位を占めらるゝ隨員閣下各位に於かせられましては、前述の意義に於きまして、今後共、政治上、經濟上、各般の分野に於ける日華間の提携に絶大の御努力を賜はらんことを御願ひ申し上げる次第で御座います。

一言所感を述べて、御一行に對する歡迎の辭と致します。

茲に、杯を擧げまして、汪院長閣下並隨員閣下各位の御健康を祝したいと存じます。

南方軍政狀況に關する陸軍當局談

昭和十七年十二月七日

軍は開戦以來作戰に膺接して逐次占領地に軍政を施行し來つたが、各地共戦火未だ収まらざる時期より既に統治をその緒につかじめ次いで着々機構の整備、統治の滲透に努力した結果開戦一周年の今日において南方の軍政は既に本格的段階に達し一言にしてこれを盡せば各地共豫期の如き進展を續けてゐると申し得る状態である。かくして皇軍の擧げた赫々たる戦果が更に軍政により大東亞戦争第二年をも勝ち抜くための帝國戦争遂行力として完成せられつゝあることは誠に心強き限りである。

一、軍政の方針 大東亞建設の大業は先づ今次戦争に完勝することをその大前提としてゐる。従つて帝国内外の施策は事の大小と輕重とに拘らず悉く戦争完遂に寄與することを以て唯一無二の目的とし、ひたすらこれに邁進すべきは言を俟たないところである。就中帝國の戦争遂行上南方地域の持つ絶對的地位に鑑み且つまた現在においても活潑に展開中なる作戰の實行に對し軍政一體不可分の關聯性を有することを考ふれば、南方軍政の運営に當り凡ゆる施策を擧げて、帝國完勝の一點に結集せしむるを要すること勿論であつて、開戦以來中央、現地共この方針を堅持しこの目的に向ひ軍政を推進し來たのである。しかして軍政の進展に伴ひ各地域の狀況は逐次建設的色彩を帯ぶるに至つたが、絛上の方針については何等の變化を見ることがないのであつて、既に今日において戦後を顧慮し、大東亞建設の大目的

に向ふべき恒久的諸方策も或る程度の發足を必要とするものがあるが、これらの施策も上述せる大方針より逸脱せざる範圍を標準とする次第である。即ち軍政は一にも戦争、二にも戦争であつて、戦争に縁遠いものは一切手をつけぬとまで極言し得るのである。

二、民心の把握 南方占領地の總力を帝國の戦争遂行に結集するためには、占領地における物心兩面の把握あつて初めてその全きを期し得るのであり、就中治下諸民族民心の安定把握を重視しなければならぬ。南方からは物さへ取れば宜しいと考へるが如きは大きな謬りであつて、この大戦争遂行間にあつても民心の把握に關しては萬遺憾なきを期し、眞に大東亞民族を打つて一丸とし大東亞戦争完遂に向つて共苦同甘の實を擧ぐるやう施策してゐる。しかし皇軍の神速果敢なる作戰と森嚴肅として犯すべからざる威武は、克く占領地住民の悉くを悦服せしめ、民心把握の基礎は實に茲に存すると思はれるのであるが、軍政においても一面大東亞戦争眞意義の闡明徹底に努むると共に、他面原住民の風俗習慣の尊重、土侯の優遇等凡ゆる方策が講ぜられてゐる。就中原住民は宗教心極めて深厚なるに鑑み在來の宗教はわが方の統治に妨げなき限りこれに保護を與へ、また信仰に基づく風習は努めてこれを尊重し、以て人心の安定と民意の把握に資することとしてゐる。従つて宗教自體の内容形式に手を加へ或は別個の宗教を強要するが如きは共に嚴に戒めてゐる。

なほ從來現地日本人の原住民に對する個人的な言動が往々にして妥當を缺き、ためにわが方全般の政策を破壊し、或は民心を離反せしむる如きおそれがあつたことは遺憾であるが、軍は軍人、軍屬を初め進出邦人に對しても特に日本人たるの矜持と品性とを保つやうその指導に留意してゐる次第である。

六、交通 物的國力の基は實に海上輸送力に在りと極言し得るものであつて、南方經營においてもその成否は海上輸送力の如何によりて決せられるとも稱し得る程重大性を有してゐる。

帝國は一方において決戦に次ぐに決戦を以てする大作戦を遂行しつゝ、一面において廣大なる東亞地域内の交通を維持するのであるから、船腹量に餘裕なきことは當然の現象であつて、南方よりの輸送は極端な重點主義が採られ、戦争遂行上の必要よりする嚴格なる優先順位を以て輸送を實施してゐる。従つて國民生活中に南方物資が多量に内地に來ると思ふのは早計である。

七、國內と南方との關係 南方經營の有力なる鍵は船舶にあり、またその船舶増強の根本策は内地造船力の發揮如何に繫つてゐる。また南方物資を運び來るには限りある船腹量を利用するものであるから、國內の食糧對策即ち増産乃至消費節約の如何は直ちに南方よりの直接國防資源の輸送量の増減に影響することになる。以上は交通力の關係から述べたのであるが、資材においても南方の開発のためにも勿論開發用資材を必要とするものであつて、國內生産力の如何が南方に使用し得る資材量即ち南方における開發取得量を決定するといつても過言ではない。何れの觀點よりいつても先づ日本國內、次いで日滿支を固めて行くことが南方經營進展の最大要點でありまた最捷徑路でもある。開戦以來國內における南方熱の昂揚は心強く感ぜられる次第であるが、現地は最小限の人員で經營し、凡ゆる力を動員して先づ國內を固めることが先決であり、また南方の建設はこれによつてのみよく／＼その眞意義を發揮するものと信ぜられる。

南方地名呼稱に關する情報局發表

昭和十七年十二月九日

- 一、舊英領馬來を「マライ」(假名書)と呼稱す
- 二、舊英領ボルネオを「北ボルネオ」と呼稱す
- 三、舊蘭領ボルネオを「南ボルネオ」と呼稱す
- 四、「バタビヤ」を「ジャカルタ」と呼稱す

第八十一議會に於ける東條陸軍大臣

戦況報告

昭和十七年十二月二十七日

陸軍の戦況を御報告致しまする前に特に申上げたいと存じます。

畏くも 大元帥陛下に於かせられましたは、去る十二日 聖駕を伊勢路に進めさせ給ひ、神宮に御參拜遊ばされ、皇祖大神の大御前に御親ら開戦以來の曠古の大戦果を御報告あらせられ、神恩報謝の誠を效させ給ひ、且つ此の戦局愈々重大なるの秋に方り 御躬を以て民を率ゐさせ給ふと共に、更に 皇祖神靈の御加護を御祈念あらせ給うたと漏れ承るのであります。敬慮深遠洵に畏き極みであります。陸軍大臣と致しましては、直ちに此の趣きを全軍將兵に傳へ、且つ訓示を與へた次第でありますが、陸軍將兵一同は恐懼感激措く所を知らず、唯々死を鴻毛の輕きに比し、

皇國を富嶽の泰きに置き、誓つて 宸襟を安んじ奉るの固き決意に燃えて居る次第であります。曩に大東亞戦争一周年を迎へまして、責任の愈々重且つ大なるを銘心致しました陸軍將兵は、此の有難き大御心を拜し、感奮興起、極まりなき感激の裡に戦争第二年の完勝に邁進しつゝある次第であります。

只今から前回申上げました以後の戦況に付て報告致します。過去一年に互りまする陸軍の戦況を顧みまするに、其の前半と後半とは大いに其の様相を異にして居るのであります。即ち香港、シンガポール、コレヒドール等の攻略、ジャワ、比島、ビルマ等の戡定等々、相次いで銃後を沸き立たせましたる快速なる作戦は、悉く是れ前半期に屬し、最近の約半年間に於きまする諸作戦は、執拗堅強なる決戦の様相を呈して居ります。是れ大東亞戦争が約半年にして奇襲、電撃に充ちた緒戦の域を脱し、愈々本格的段階に進んだことを物語るものでありまして、緒戦に於て完全に敗戦を嘗めた敵は其の豊富なる物質力を持つて軍備の擴充に狂奔し、我が南方占領地の奪回、支那方面に於ける航空勢力の増強、ソロモン、ニューギニア及びアリューシャン方面等よりする反攻を企圖しつゝあるものの如く、仔細に觀察致しますると極めて重大なる意義を有する作戦が諸方面に行はれ、又行はれんとしつゝあるのでありまして、戦は正に是からなりとの感を益々深く致すのであります。

第一に南方方面から申上げますと、先づビルマ方面でありますが、目下インドに在る敵軍はインド軍と合はせ地上兵力約百萬、飛行機六百機と稱せられ、尙ほ逐次増強せられつゝある模様であります。ビルマ方面の我が陸軍部隊は西部國境方面で之と接觸し、東北方では概ね怒江の線で十數箇師の重慶軍と相對峙して居りますのみならず、東部インド、雲南方面を基地として殆ど連日十數機内外を以て來襲する米英空軍を邀撃すると共に、好機に乗じ戦爆連

合の大編隊を以て敵航空基地等を攻撃し敵に多大の損害を與へて居るのであります。即ち十月二十五日にはインド、ビルマ國境西方のチンスキヤ、チッタゴン等を襲ひ、敵機四十數機を撃墜破し、又十二月五日及び十日にはチッタゴンを猛襲して飛行機約十機を撃墜破し、船舶二十數隻を撃沈又は撃破し、停車場其の他軍事施設に直撃弾を與へ、更に十五、十六日に互りチッタゴン及びフエンニイ兩飛行場を攻撃して敵機二十數機を撃墜破したのであります。尙ほ去る二十日以降數次に互りカルカッタ其の他を奇襲し豫期以上の戦果を収めましたことは御記憶に新たなることと存する次第であります。

一方ビルマの治安は我が軍政下に於ける新行政府の誕生に伴ひまして益々良好となり、ビルマ人を以て組織せるビルマ防衛軍も既に堅實なる發足をなしたのであります。斯く致しまして此の方面の我が部隊は、敵の空軍を以てするビルマ内部擾亂並に其の兵力増強の企圖を撃破し、大東亞共榮圈の右翼據點確保の任務を達成致しますると共に、更に將來の作戦準備に萬遺憾なきを期して居る次第であります。

佛印、比島、マライ、ジャワ、スマトラ、ボルネオ方面に在りまする諸部隊は、比島に於ける一部の討伐を除き治安確保の支障となると共に、今後の自主的企圖に備ふる積極的準備の完璧を期して居ります。

次にソロモン群島方面に於きましては、我が海軍の僅少なる部隊が占領して居りましたガダルカナル島附近に對し本年八月上旬米軍が大舉上陸して参りましたのに端を發し、我が陸軍部隊は海軍との緊密なる協同の下、極めて困難なる上陸作戦を敢行し、輸送、揚陸、給養、衛生等に互りまする幾多の惡條件の下に、凡ゆる困難と障碍とを克服しつゝ敵と對戦中であります。此の方面の敵は整備せる航空基地を有して居りまして其の制空權下に上陸並に海上補給

を行ふことは容易の業ではなく、眞に海陸の一体的作戦が展開せられて居るのであります。我が將兵の艱苦亦洵に大なるものと存せられるのであります。

第二に支那方面に付て申上げますと、支那派遣軍は全支に互り長遠なる戦線を構成致しまして約三百萬の重慶軍と約六十萬の共産軍とに對し絶えず好機を捕捉致しまして大小幾多の戦闘を繼續し、敵戦力の撃摧と占據地域の治安確保とに邁進して居るのであります。其の主要作戦は中支に於ける浙贛作戦を初め、北支、南支並に蒙疆の各地域に互り實に二百五十回に及び、鹵獲品其の他の戦果亦極めて大なるものと存せられるのであります。

次に在支米空軍は重慶在來の空軍と合はせ只今の所約三百機内外と推定せられまして、北、中、南支の我が占據地域に對し六月以來約三十回に互り遊撃的に來襲し地上反攻の無氣力を糊塗せんとし、又我が本土空襲の機を窺つて居りますが、其の損害は極めて輕微でありまして我が方は或は浙江、或は福建方面の敵航空基地を覆滅し或は移動する敵航空基地を求めて之に反復強襲を加へ又敵機を邀撃して之に痛打を與ふる等、機に先んじて其の活動封殺に努めつゝあり、在支米空軍は目下の所、専ら我が航空部隊の鋭鋒を回避して居るかにも觀察せらるゝのであります。併しながら我が本土との地理的關係、將來に於ける敵航空勢力の増加と、飽くなき不逞企圖とを察します時は、我が方に致しましては敵の我が本土空襲に對する十分なる準備を肝要と存する次第であります。

第三に北方方面でありますが、アリニューシヤン方面は、敵が我が國の北邊を脅威する重要な一進攻路でありまするが、我が方は去る六月八日、陸海軍協同して其の西部數島に上陸を致しまして之を確保し、敵の機先を制して此の方面よりする其の脅威を未然に封止致したのであります。敵はダツチハーバー其の他より殆ど連日の如く空中攻撃

を反復致して居りまして、寒風吹き荒ぶ絶海の孤島の守備に任じられまする部隊の辛苦は蓋し想像に餘りある所でありませぬ。

滿洲方面に於きましては、日夜黙々として防衛に、警戒に、又訓練に邁進し、變轉常なき世界情勢の下、儼乎として北方の護りを堅くし、我が大東亞戦争遂行に磐石の基礎を成形致して居る次第であります。

各方面の戦況概ね以上の通りであります。帝國本土内に在りまする諸部隊も亦第一線部隊の活躍に呼應し或は官民諸機關と協力して、日夜を別たす寸時も油断せず、以て防空に遺憾なからしめ、或は複雑困難なる外征部隊の戦力推進に、又將來の戦局進展に應ずる準備に不斷の努力を傾けて居ります。

第四に南方占領地に於きまする軍政の状況に付きまして御報告致します。陸軍の擔任致して居りまする占領地の軍政は、海軍は勿論、官民各方面の絶大なる御協力に依りまして、豫期以上の順調なる進展を見つゝあり、行政機構も既に概ね整備せられ、其の要員も亦續々進出しつゝありまして、今や鋭意本格的軍政施行に邁進中でございます。惟ひまするに今次の軍政は帝國として歴史的大事業であります。其の施策は作戦に膺接し是と表裏一體となり能く作戦初期の任務を達成し得ましたことは洵に御同慶に存する所であります。而して今や軍政施行の本格的段階に進みましたが益々軍政の特徴たる簡明直截なる統治を行ひますと共に、逐次政務各般の施行に便なる如く軍政機構を整備強化せられて居ります。尙ほ此の際特に各地域の特質に應ずる制度を採用致しますと共に、特に内地より簡技派遣致しましたる文武官を中心に極力原地民を活用致しまして、現地最高指揮官の一元的指揮の下に、潑刺たる運営を期しある次第であります。刻下軍政の施行に於きましては、各般の施策を擧げて大東亞戦争完遂の一點に集中致します

ると共に、治下諸民族の心底に觸れる政策を行ふことが緊要でありまして、民心の把握、民心の指導に關しましては、凡ゆる工夫と努力とを傾注致して居る次第であります。

而して各地の状況を見ますに、我が神速偉大なる戦果と又秋毫も犯さざる皇軍の威望とは、治下諸民族に多大の感銘と希望とを與へ、彼等は漸次帝國の眞意を解しまして、今日に於きましては多年に亙る米英蘭の桎梏を離れ大東亞新秩序建設の光榮に感激しつゝ帝國と苦樂を同じうし、我が施策に協力するもの愈々増加しつゝありますことを私は此の席に報告し得ることを欣快とするものであります。随ひまして治安は各方面とも引續き良好でありまして、僅かにコレヒドール要塞攻略後比島内の深山、離島等を根據地として奮動して居りましたる敗殘兵乃至匪賊の如きも既に多くは肅清せられ、其の他も日ならずして掃蕩を完了し得るものと信じて居る次第であります。

經濟開發に關しましては、重要國防資源の急速なる取得を目標と致しまして努力中でありまして、重要物資の開發にありましては戦禍に依る破壊部分の復舊も既に其の大部分を終りまして、是等資源は今日に於ける我が戦力増強に大なる貢獻をなすある状況であります。特に申述べまするが、是等物資の開發に當りましては、軍官民其の責務と光榮とに感激しつゝ眞に協力一致致しまして、炎熱の下凡ゆる悪條件を克服して奮闘して居る次第でありまして、洵に頼もしき限りであります。鑛物資源に付きましては、石油、ボーキサイトを初め、鐵鑛、タンングステン鑛、錫鑛等に於きましては豫期以上の成果を收め、銅鑛、鉛鑛等亦着々我が物動期待の生産量に到達しつゝあるものであります。

農林資源に關しましては、御承知の如く南方は實に世界の寶庫でありまして、食糧は其の數量に於きましては大東亞の所要を満たし得るのみならず、ゴム、キナ、チーク材、マニラ麻、コブラ等の生産量は世界市場に於ける獨占的

地位を占むるものであります。是等に對しましては敵方への流出を防止することは勿論、將來の世界經濟戰に備ふる爲め積極的に新しき用途の開拓、貯藏等に遺憾なきを期して居ります。

唯茲に大いに注意を要しますことは、其の南方資源が帝國の戦争完遂、大東亞建設の眞の力となりまする爲には、是等資源が適時所望の地域に輸送されることが特に必要な點でありまして、帝國海上輸送力の増強が極めて緊急なるに鑑みまして、南方にありする現地軍に於きましては、港灣能率の向上、又、木造船の建造、沈船の引揚、民船の活用等凡ゆる工夫と努力とをそこに傾注致して居る次第であります。

物資輸送に關しましては、陸軍徴備船の空積を全幅的に活用し、其の量は十月末までに既に百八十餘萬トンに達し、年間を通じて計畫の一・七倍に達する見込であります。併しながら重要國防物資以外の内地供給を増加致しますことは今日尙ほ十分期待し難いのでありまして、此の點特に御留意を願ひたいのであります。

占領地軍政の状況概ね以上の通りでありまするが、南方に對する帝國の期待は益々増加せられるに鑑みまして是が完遂の爲め軍官民一致協力、眞に國家の總力を傾注するの要は益々増大致すのであります。今後とも一層の御協力を希望する次第であります。

大東亞戦争開始以來一箇年間に收めましたる帝國陸軍の綜合戦果竝に我が方の損害に關しましては去る七日大本營より詳細發表せられて居りますので本日は特に申上げませぬ。之を以ちまして各方面の戦況竝に占領地軍政の状況の説明を終りまするが、帝國陸軍は、御稜威の下、帝國海軍の緊密なる協同と統後一億國民各位の御後援とに依り、開戦一年有餘にして戰略的必勝の基礎を確立致したのであります。

此の間戦陣に歿せられたる幾多護國の英靈に對しましては、哀悼奉謝の念更に新たなるを覺えますると共に、其の遺家族の方々並に戦傷病將兵に對しまして洵に御同情禁じ得ない次第であります。而して又然後國民各位に對しましては、其の論らざる御後援を深く感謝致す次第であります。

又過般本院より特に代表者を南方作戦地に派遣せられ具さに第一線の御慰問を辱う致しましたることに對し、此の機会に於きまして陸軍を代表し私から深厚なる謝意を表する次第であります。

陸軍と致しましては、今後益々、聖旨を奉體し、深く戦争の現段階を認識し、將來の戦局に精へ、愈々軍の精強を期し、常に積極自主、小敵たりとも侮らず、大敵たりとも毫も懼れず、帝國海軍との緊密なる協同の下、作戦の籌畫に、第一線の戦闘に、全力を奮うて飽くまで聖戦完遂に進進せんことを期するものであります。之を以ちまして私の戦況報告を終わります。

第八十一議會に於ける島田海軍大臣戦況報告

昭和十七年十二月二十七日

本年五月本講場に於きまして説明致しました以後に於ける海軍作戦の概要に付て申し上げます。

大東亞戦争開始以來五月中旬までの作戦に依りまして西太平洋の戰略要地及び南西方面の主要地域は悉く之を我が手に收めまして戦争遂行上極めて有利なる基礎を確立し得たのであります。爾來、御稜威の下帝國海軍部隊は陸軍部隊と緊密なる協同の下に益々積極的に作戦を進め、飽くまでも敵を急追して是が撃滅を期し、戦線は極めて遠隔な

る地域に進められ、作戦の規模頗る雄大となつたのであります。之を大別致しますと、第一は印度洋方面に於ける作戦、第二は濠洲方面に於ける作戦、第三は太平洋方面に於ける作戦となります。以下是が大要を説明致します。

先づ印度洋方面に於きましては、ビルマ、アングマン諸島、ニコバル諸島及びスマトラの線を占領することに依りまして、我は極めて堅確なる基礎を得て作戦を容易ならしむるに至りましたので、帝國海軍部隊は敵を索めて印度洋は岡より遠く南アフリカ方面までも活動して居ります。即ち五月三十一日マダガスカル北端の要港デエゴ・スワレスに對しまして、特殊潜航艇を以て急襲し、イギリス戦艦クイーン・エリザベス型一隻並に巡洋艦アレクサンドリア型一隻を撃破し敵側に多大の衝動を與へましたのを初め、印度洋及び南アフリカ方面に於きまして、帝國潜水艦の撃沈致しました商船は三十五隻、約二十七萬トンに及んで居ります。

次に濠洲方面に於きましては、其の西岸方面に對しては有力なる航空部隊を以てポートダーウイン其の他の要地に連続爆撃を加へ、七月三十日には遠く西岸中部の要衝ポートヘッドランドにも攻撃を敢行しまして、敵航空兵力の撃滅並に船舶、軍事施設等の破壊に努めたのであります。其の間、「アラフラ」海の「アル」諸島、「ケイ」諸島並に「タニバル」諸島を攻陥致しまして、敵をして蠢動の餘地なからしめたのであります。ニューギニア及び濠洲東岸方面は南太平洋作戦と密接に關聯する地域でありまして、終始活潑なる作戦が行はれて居ります。特にポートモレスビー方面及びタウンズビルに及ぶ濠洲北部方面に對する航空作戦は激烈を極め、此の期間敵に與へましたる損害はニューブリテン及びソロモン方面を合はせまして撃墜撃破しました飛行機のみでも九百五機に上つて居ります。又海上に於きましては潜水艦、其の他の兵力を以て終始濠洲を周る海域に作戦致して居りまして、敵交通線の破壊及び後方攪亂に

多大の戦果を擧げて居りますが、特に五月三十一日先程申しましたマダガスカル島の攻撃と同時に行はれましる特
殊潜水艇のシドニー港突入襲撃は、之に依り敵軍艦一隻を撃沈致し、敵側に大なる衝動を與へたのであります。

轉じて太平洋方面に於きましては、帝國海軍部隊はアメリカ本國に至る太平洋の全域に互り飽くまで敵を追及して
是が撃滅を期し、此の期間の重要な海上作戦は殆ど總て此の方面で行はれたのであります。先づ六月初め北太平洋
及び中部太平洋方面に於きましては、敵が前進據點として重視をして居りますアリューシャン群島のグッチハーバー
と、ハワイ方面のミッドウエーの兩基地に對しまして我が有力なる部隊を以て急襲攻撃を加へ、敵の兵力並に基地に大
なる損害を與へました。即ち六月四日、五日に互り我が有力なる海上部隊は、悪天候を冒して遠く進撃しグッチハー
バー港及び列島一帯に對して連續爆撃を敢行して、所在の敵飛行機、船舶及び重要軍事施設に大なる損害を與へました
が、是と時を同じくして我が海上部隊は大舉ミッドウエーを強襲し、折柄同方面に増援中の米國艦隊を捕捉しまして、
之に猛烈なる攻撃を加へたのであります。本海戦は激烈を極め我が方は航空母艦一隻を失ひ、同一隻及び巡洋艦一隻
大破、飛行機三十五機の損害を見ましたが、敵に對しましてはアメリカ航空母艦ヨークタウン、大型巡洋艦一隻、潜
水艦一隻合せて三隻を撃沈し、飛行機約百五十機を撃墜致しました外、航空母艦「エンタープライズ」型一隻に損害
を與へ、ミッドウエーの重要軍事施設を爆砕致しました。

右の作戦に引續いて六月七日にはアリューシャン列島西方の要地キスカ島を、翌八日同じく西端アツツ島を相次い
で占領致しました。是等の島嶼は太平洋北邊の要地でありまして、我が軍占領以來敵は航空部隊其の他を以て絶えず
執拗なる反撃を繰返して参りますが、所在帝國陸海軍部隊は終始緊密なる協同の下に酷暑を冒しつゝ善戦奮闘し、能

く太平洋北方戦線の護りを固めて居ります。尙ほ我が潜水艦の一部は遠く米國太平洋岸方面に行動して敵海上交通線
の破壊及び要地攻撃を實施致して居ります。

次に最も壯烈を極めまする南太平洋方面の作戦に付て申上げます。此の方面の戦局は我が軍の「ソロモン」群島方面
占領以來敵に大なる脅威、不安を與へ、一層其の重大性を加へて参りまして、既に五月初旬所謂珊瑚海戦を見たので
あります。八月七日敵は我が占領地の尖端たるソロモン群島南端に對して大規模なる反撃に出て参りまして、有力
なる米英聯合艦隊は十數隻の輸送船を伴つてツラギ及びガダルカナルの兩島に大舉侵入したのであります。帝國海軍
部隊は之に殺到し、八月七日より九日に互り連續空襲を加へ、八日夜半には最も壯烈果敢に敵に突進夜戦を執行致し
まして、アメリカ、イギリスの巡洋艦合せて十三隻、驅逐艦其の他二十二隻、合計三十五隻を撃沈するの大戦果を
擧げ、其の他の艦艇、飛行機にも多大の損害を與へました。是れ所謂第一次ソロモン海戦でありまして、此の際我が
方の損害は飛行機二十一機の外、巡洋艦二隻が戦闘航海に差支ない程度の輕微なる損害を受けたのみであります。

此の作戦は敵側最初の大規模なる反撃でありまして、右の如く敵海上部隊に大損害を與へましたが、敵陸戦部隊は
ツラギ及びガダルカナルに上陸をして我が守備兵と對峙し、敵航空部隊亦之に加はりますに至りましたので、爾來此の
局地を繞つて彼我の作戦は一層執拗活潑となり、大小幾多の海戦相次いで起るに至つたのであります。即ち八月十七
日夜アメリカ奇襲部隊は我が軍占領地ギルバート諸島北端のマキン島に來襲し、米兵約二百名が一旦上陸致しました
が、勇敢なる我が守備隊に依りまして完全に撃退せられました。次いで八月二十四日ソロモン群島東方洋上に於きま
して、彼我有力部隊の間に所謂第二次ソロモン海戦が戦はれまして以來、約二箇月間屢々此の方面に大小の戦闘を重

ねましたが、此の間アメリカ航空母艦ワスプ及び巡洋艦三隻を初め撃沈したる敵の艦船合計二十二隻に及び、飛行機五百十九機を撃墜撃破致しましたる外、戦艦、航空母艦以下多数艦艇を撃破するの大戦果を挙げました。之に對し我方亦巡洋艦驅逐艦各二隻、潜水艦一隻、輸送船五隻並に飛行機百三十五機を失ひました。

敵は是等の相次ぐ敗戦の實状をもひた隠しに隠しつつ、一意頑勢の挽回を圖つて居りましたが、十月下旬殘存勢力を以て又もヤサタクルーズ北方洋上に現はれまして、十月二十六日所謂南太平洋海戦を見るに至つたのであります。我が艦隊は此の敵に對し、同日黎明より夜間に亘つて勇猛果敢なる攻撃を加へ、敵の戦艦一隻、航空母艦三隻、巡洋艦三隻及び驅逐艦一隻、合計八隻を撃沈しますると共に、爾餘の艦艇六隻を大破又は中破し、更に敵機二百機以上をも喪失せしめました。此の際我が方は僅かに航空母艦二隻及び巡洋艦一隻が小破致したのみであります。

敵艦隊は以上の如く大敗致しましたが、ガダルカナル方面陸上部隊に對する増援補給は敵として作戦上の要求大なる、其の背後の近距離に策源地を有するの利點を以て、其の後も執拗に強行侵入を反復し、我れ亦機に投じて之を攻撃致しまして、十一月に入りましても第三次ソロモン海戦、ロンガ沖夜戦など相次いで起つて居ります。即ち十一月十二日より十四日に亘り、相次いでガダルカナル方面に現はれました有力なる敵艦船に對し、我が艦隊は晝夜に互り肉迫攻撃を加へ、特に十四日夜ガダルカナル島の西北方に於きまして、戦艦を基幹とする有力なる敵増援部隊を捕捉し、之と激戦を交へ、連續勇戦奮闘の結果、敵の戦艦二隻、巡洋艦十一隻を撃沈し、其の他の艦艇、飛行機多數を屠つたのであります。併しながら我が方も亦晝夜數次に互る激戦に依つて、戦艦、巡洋艦各一隻及び驅逐艦三隻を失ひ、戦艦一隻大破の損害を見たのであります。我が戦艦が夜間補助部隊と共に敵中に突入し、所在の敵艦艇を撃滅

しつつ、遂に自らも敵の集中攻撃を受け、茲に開戦以來初めて戦艦の損失を見るに至りましたことは、此の第三次ソロモン海戦が如何に激烈を極めたものであつたかを證するものであります。

次いで十一月三十日夜、帝國水雷戦隊はガダルカナル島ロンガ沖に於きまして、再び敵戦艦を含む有力部隊を捕捉して、勇猛壯烈なる夜戦に依り、忽ち戦艦一隻、オーガスタ型巡洋艦一隻、並に驅逐艦二隻を撃沈し、克く我が夜戦部隊の實力を發揮致したのであります。

斯く南太平洋方面作戦は極めて有利に進展し、連續多大の戦果を挙げつゝも、我が方亦以上の如き損害がありまして、従軍將士の苦心は並々ならぬものがありますが、海軍部隊は陸軍部隊と眞に水も漏らさぬ協力を行ひ、飽までも作戦目的達成に勇邁進致して居ります。

以上各方面に於ける顯著なる作戦に付て大要申述べましたが、帝國海軍部隊は其の他内外の各地域、各海面に於きましても、それ／＼重大なる任務を以て作戦實施中でありまして、帝國の占むる戰略態勢は愈々堅確を加へつゝあるものであります。

此の機會に開戦以來一箇年間我が海軍の挙げました戦果を綜合致しますると、撃沈しましたもの、戦艦十一隻、航空母艦十一隻、内水上母艦一隻、巡洋艦四十六隻、驅逐艦四十八隻、潜水艦九十三隻、其の他艦艇五十四隻があります。潜水艦以上の撃沈は總計約百十萬トンに達しまして、戦前アメリカ、イギリス、オランダ綜合勢力の約三割八分に當るのであります。又大中破致しましたものは、戦艦九隻、航空母艦四隻、巡洋艦十九隻、驅逐艦二十三隻、潜水艦六十隻、其の他の艦艇三十九隻であります。商船に於きましては四百二十四隻、二百二十七萬トンを撃沈致して

居ります。拿捕致しましたるものは艦艇九隻と商船五百三隻、約二十二萬トン、飛行機に於きましては撃墜撃破を合はせて三千八百五十三機に達して居ります。斯の如き莫大なる損害を受けながら、敵國が其の國民に對し鈍意之を秘匿致して居りますことは、それ自體に於て如何に深刻なる打撃を痛感して居るかを示すものと申さなければなりません。

翻つて我が方の喪失致しましたものは、戦艦一隻、航空母艦三隻、巡洋艦四隻、驅逐艦十五隻、潜水艦九隻、其の他の艦艇二十隻の外、海軍關係船舶六十五隻、約二十萬トン並に飛行機五百六十八機であります。又艦艇の大申破しましたものは、戦艦一隻、航空母艦二隻、巡洋艦三隻、驅逐艦九隻、潜水艦一隻、其の他の艦艇十隻であります。

今や戦局は漸く決戦の段階に入り、敵は其の誇稱する生産力を恃みまして、今後各方面に對し反撃を試むるものと思はれます。此の敵を隨所に各個に徹底的に撃破し、更に雄大なる作戦を遂行して以て之を屈服せしめんには、凡ゆる困苦を忍んで、國家總力を此の決戦に集結することは、正に帝國刻下の緊切事と申すべきであります。海軍將兵は常に 聖旨を奉讀し、國民の熱誠溢るゝ後援を後楯として、益々旺盛なる士氣と必勝の信念とを以て、如何なる困難をも克服し、飽くまでも敵を撃滅して、戦争最終目的の達成に邁進せんことを固く期して居る次第であります。

終りに臨み、壯烈君國に殉じましたる忠勇なる將兵に對し衷心より哀悼の誠を捧げ、其の遺家族に對し深厚なる同情の意を表します。

開戦以來帝國陸軍綜合戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月七日

大東亞戦争開始以來最近迄に收めたる帝國陸軍の綜合戦果中主要なるもの並に我方の損害左の如し

一、南方及アリューシヤン方面

- (イ) 交戦兵力 約六十萬
- (ロ) 遺棄死體 約五萬一千
- (ハ) 俘虜 約三十萬三千
- (ニ) 鹵獲品
 - 各種火砲 三、六二〇門
 - 重輕機 一一、三〇〇挺
 - 其他銃器 二〇六、〇〇挺
 - 戰車 一、四四〇臺
 - 自動車 三一、七〇〇臺
 - 鐵道車輛 一一、二〇〇輛
 - (ホ) 飛行機 七三二機
 - 擧砲 七三二機
 - 擊破 九九三機



(其の二)

戦艦	米	英	蘭	計
	五 カリフォルニア型 メリーランド型 アリゾナ型 オクラホマ型	二 プリンス・オブ・ウェー レパルス		二
四艦型未詳				四

帝國海軍綜合戦果

開戦以來十二月七日迄の大本營發表に依る

(註) 本戦果中飛行機、船舶に關するものは十一月末日迄にその他は十月末日迄に判明せるものなり

戦死 二一、一七〇名
 戦傷 四二、五七六名
 合計 六三、七四六名
 飛行機 三九九機
 船舶 六二隻

鹵獲 二三五機
 合計 一九五九機
 百四隻
 (一) 撃沈並に大破せる艦船
 二、支那方面
 (イ) 交戦兵力 約三百六十萬
 (ロ) 交戦回数 約二萬五千回
 (ハ) 遺棄死體 約二十八萬
 (ニ) 俘虜 約十二萬三千
 (ホ) 鹵獲品 八四六門
 各種火砲 三、二〇〇挺
 重輕機 一五九、一〇〇挺
 其他銃器 一二九臺
 自動車 二〇八輛
 鐵道車輛 一一八機
 (一) 鹵獲及撃墜破飛行機
 三、我方の損害

航空母艦 (水母ヲ含む)	戦艦	大	中	破	計	米	英	蘭	捕	沈没	破大	中	我方の損害
新大型 艦中型 未詳	ナ型 テキカス型 艦型不詳	メリーランド型 ネバタ型 ペンシルバニア型 ノリス・カロライ テキカス型	ウオースバイト ベタキン・エリザ ベタキン型		九								

(其の二)

魚雷艇	九
その他の小艦艇	一六
特設艦船	三
艦型未詳	撃沈一隻
船	撃沈破四一六隻(二二四〇、〇〇〇ト)
飛行機	撃墜破三、七九八機以上

航空母艦 (水母ヲ含む)	七	一	二
甲級巡洋艦	三 大特新 型設式 空空中 母母型	六 エクゼター ロンズオール 型 オーストラリア 艦型未詳	四 デ・ロイテル ジャバ型 トロンプ型
乙級巡洋艦	三 オীগスタ ヒューストン ボイトランド型 サンフランシスコ ウイッチタ型 アストリヤ型 オマハ型 オীগスタ型	三 ホバート型 アキリーズ型	二
驅逐艦	二一 甲巡又は乙巡	二一	一
特務艦	三三 (三(エタを含む))	二	四
潜水艦			四八
砲艦			九三
掃海艇			七
合計			四六

甲級巡洋艦	乙級巡洋艦	驅逐艦	特務艦	潜水艦	砲艦	敷設艦	掃海艇	魚雷艇	その他の小艦	特設艦船	艦型未詳	船隻	飛行機
マールブルヘッド ノルザンブトン型 一	五 甲巡又は乙巡 一二	一八	二	五八	六	二	一	二	二	二	大中破三隻	拿捕五〇三隻(一 一〇〇〇噸)	沈没損傷六五 隻 自爆及未歸還 五五六機
三 アレスター型 二一	一九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一 トロンブ型	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

米比敗殘兵剿滅綜合戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月二日

比島方面帝國陸軍部隊は既に全群島を攻略したる後、尙僻険不便の山地等に據り蠢動しありし米比敗殘兵に對し引續き討伐を行ひつゝありしが、既にその大部分を剿滅せり、去る八月以降十月に至る三箇月間の綜合戦果中主なるもの左の如し

- 一、敵の遺棄死體 三千九百四十五
- 二、俘虜 二千九百十八
- 三、鹵獲品 機關砲三十三門、重輕機七十一挺、自動小銃百五挺、其他銃器七千四百五十八挺、各種彈藥約百萬發、自動車四十四臺

ルンガ沖夜戰戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月三日

帝國水雷戦隊は十一月三十日夜間ガダルカナル島ルンガ沖の敵有力部隊に對し強襲を敢行せり、その戦果左の如し

- 戰艦 一隻撃沈
- オーガスタ型巡洋艦 一隻轟沈
- 驅逐艦 二隻撃沈
- 驅逐艦 二隻火災

我方の損害

驅逐艦

一隻沈没

(註) 本夜戦をルンガ沖夜戦と呼稱す

陸軍航空部隊チツタゴン攻撃戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月十五日

緬甸方面陸軍航空部隊は十二月五日及び十日英領印度チツタゴン港を攻撃し英空軍、船舶及び軍事施設に大なる損害を與へたり、本日まで判明せる戦果のうち主なるもの左の如し

一、敵に與へたる損害

(イ) 飛行機 撃墜十機(うち不確實なるもの三機)

(ロ) 船 撃沈七隻、大中破十隻、炎上四乃至五隻

(ハ) 陸上施設 停車場および埠頭、倉庫に直撃弾八、列車炎上一

二、我方の損害

未だ歸還せざる飛行機二機

ニューギニヤ島方面帝國海軍航空部隊

戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月十五日

ニューギニヤ島方面帝國海軍航空部隊は十一月二十四日以来十二月八日迄に同島東部ブナ附近に於て敵機四十四機を撃墜破し敵哨戒艇二隻及輸送船二隻を撃沈せり、此の間我方の自爆又は未歸還機九機

チツタゴン及びフェンニイ空襲戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月十八日

緬甸方面陸軍航空部隊は十二月十五、十六日チツタゴン及びフェンニイ兩飛行場を攻撃し、敵機二十九機を撃墜破せる外兩飛行場及びチツタゴン埠頭の主要施設を爆撃し、これに甚大なる損害を與へたり

一、敵機に與へたる損害 撃墜十九機、(内不確實なるもの四機)炎上四機、撃破六機

二、我方の損害 自爆せるもの一機、未だ歸還せざるもの四機

大島島來襲敵機撃墜戦果に關する大本營發表

昭和十七年十二月二十五日

大島島所在部隊は二十三日夜間、ミッドウェイ島方面より來襲せる敵B17十數機と交戦、その四機を撃墜し、六機に損害を與へ之を撃退せり、我が方戦死一名、戦傷四名、小火災四箇所、その他損害無し

緬甸方面帝國陸軍部隊東部印度敵基地攻撃戦果 に關する大本營發表表

昭和十七年十二月二十六日

緬甸方面帝國陸軍航空部隊は東部印度に於る敵航空基地の攻撃を續行中にして十二月二十一日以降現在迄に判明せる主要なる戦果左の如し

一、我攻撃による戦果

1. 十二月二十二日カルカッタ及びチッタゴン埠頭を攻撃し各々數箇所火災を生ぜしめ輸送船一隻を炎上敵機一機を撃墜す
 2. 十二月二十三日フエンニイ飛行場を攻撃し敵機三機(内不確實なるもの一機)を撃墜、九機を炎上又は大破せしむ
 3. 十二月二十四日カルカッタ附近の油槽群及び兵器工場を攻撃し大火災を生ぜしむ
- 二、我基地に來襲の敵機に與へたる損害
1. 十二月二十一日アキヤブに於て地上火器により敵機二機を撃墜す
 2. 十二月二十三日マグウエに於て地上火器により敵機二機(内不確實なるもの一機)を撃墜す

3. 十二月二十四日マグウエに於て空中戦及び地上火器により來襲せる敵全機(六機)を撃墜す
- 三、本期間中同方面に於る我方の損害左の如し
- 炎上せるもの倉庫二棟及び飛行機一機、未だ歸還せざるもの一機

帝國海軍戦闘機隊ムンダ上空戦果に關する大本營發表表

昭和十七年十二月二十八日

帝國海軍戦闘機隊は十二月二十三日ガダルカナル島方面より飛來せる敵二十數機をニュージョージア島ムンダ上空に邀撃その十四機(内不確實六機)を撃墜せり、戦果の内容左の如し

グラマン戦闘機六機(内不確實二機)カーチス艦上爆撃機七機(内不確實四機)P-38一機
本航空機に於ける我が方の損害自爆又は未歸還二機



國際時報

ダルラン暗殺事件を繞る政治的波瀾

佛領北阿傀儡政權主席ジャン・ダルラン提督は、十二月二十四日、アルジェーの高等辨務官事務所で暗殺された。

この事件が突發するや、アイゼンハワー歐洲反樞軸軍司令官は、直ちに右に關する一切の報道を禁止したので、この犯行は翌二十五日になつてから漸く世界に知れ渡つたのであるが、その後も徒に幾多の流言蜚語が亂れ飛びばかりで、十二月末現在、その真相は依然殆んど捕捉し難い状態にある。

しかし、種々雑多な風説を綜合してみると、犯人はそ

の日ダルランに面會を求めて應接間の前で順番を待つてゐたものらしく、ダルランが一名の部下と共に姿を現はした途端に拳銃を發射し、三弾がダルランの口部近くに胸部に命中、ダルランは應接間の戸口附近に昏倒し、いそいでマイヨー病院に運び込まれたが、そのまま意識を回復せず、ダルラン夫人が駆けつけたときには既に絶命してゐた模様である。

一方、犯人はその場で取押へられ、十二月二十六日佛十六軍管區軍法會議で死刑の宣告を受け、即日死刑を執行されたが、軍法會議の席上で共犯者は全然ない旨を言

明したと傳へられ、又、當年二十三歳の一フランス青年だとの説もあるが、その眞疑は不明である。

かくして、不意に中心人物を失つた佛領北阿政權では、いそいでベルジュレ將軍を主席代理に選定すると共に、米英聯合軍に協力してチュニジア方面に出動中の北阿佛軍總司令官ジロー將軍に招電を發し、そしてベルジュレ主席代理は、翌二十五日、佛領北阿全民衆に對して秩序維持の布告を發し、民心動搖の防止に努めるところがあつた。他方ジロー將軍は、同日、空路アルジェーに歸還し、米英聯合軍司令部警備その他の出迎へを受け、直ちに總督官邸に入つた。

かくして、ジロー北阿佛軍總司令官、主席代理ベルジュレ將軍、モロッコ總督ノゲス將軍、アルジェー總督シヤテルにダカール總督ボアツソン等は所謂「フランス植民帝國會議」を同日午後から開催、鳩首凝議した結果、二十六日に至り、「全會一致」ジロー將軍を佛領北阿

政權新主席に推戴、ジローはこれを受諾して、ここに事態は一先づ收拾されたのである。

◇
ここでダルランが悲惨な最後をとげる直前迄の言動とそれを繞る諸般の政治的波瀾とを回顧してみると、一見幾多の不可解な謎の霧に蔽はれてゐるかに見える彼の横死についても、一條の筋書がどうやら伺はれるやうに見える。

先づ彼は、對獨休戦直後の一九四〇年七月三日、英國の不信極はまりないオラン港内佛艦隊砲撃事件が行はれて以來、終始徹底的な反英的態度で一貫して來たが、米國に對しては決して敵對的な態度を示さなかつた。従つて米國側も、彼が佛國國政の衝に當つてゐる間は、英國がいかにド・ゴール派を利用してフランス植民地に魔手をのびさうとも、自ら進んで佛領に一指をも染めようとはしなかつた。その點、去る四月十八日ダルランが政局

擔當者としての地位をラヴァルに譲り、國家副主席兼陸海空軍總司令官として政治の第一線から退くや、米國が忽ち對佛態度を豹變し、遂にカリブ海上の佛領マルティニク島に野望の鋒先を向けたことと偶然の符合とは云ひきれない或る一致を示してゐるのである。

しかも、去る十一月八日、米軍が北阿上陸作戦を行つた際には、ダルランは恰も待ち構へてゐたやうにアルジェーに滞在してゐて、即日米軍副司令官クラーク少將と休戦交渉を開始し、同十一日には北阿佛軍司令官に停戦命令を下し、米軍をして大した兵力の損失なしに、佛領北阿の廣大な地域を短時日を裁定するに成功させた。

他面、その直後のラジオ放送で、彼はベタン元帥萬歳を唱へたが、次いで彼が佛領北阿新政權の主席に就任するや、ベタン元帥は彼を叛逆者と看做して、あらゆる公職のみならず遂には國籍をも褫奪した。しかも彼が「依然ヴィシーに根を有してゐる」との風説は主として英國

方面から流布され、最後まで跡を絶たなかつた。

他方、英國に依存するド・ゴール派のダルラン攻撃は日毎に熾烈化するばかりで、遂には彼を公然「鐵面皮の記念品」とよび、そしてダルランが十二月二十六日佛國救済後は公的生活を引退すると聲明したのに對しても、在英ド・ゴール代辯者は「ダルランの全経歴は彼の唯一の動機が個人的であることを立證してゐる」と言明して、その憎惡の深刻さを丸出しにしたのであつた。

「そして、豫てから彼を徹底的に毛嫌ひしてゐた英國輿論は、彼の權力掌握が時と共に強化されて行くのに對して猛烈な反對氣勢をあげ、議會内でも政府當局は再三多數議員の詰問に逢つて答辯を窮する有様であつた。しかも、米國では毀譽相半ばしつつも、むしろ次第に彼を有能な對米協力者として支持する向が増加し始めてゐた。その時ダルランは突如として暗殺されたのである。



従つて、ダルラン暗殺事件が報ぜられたとき、米國では、朝野擧つて驚愕狼狽の色蔽ひ難く、ルーズヴェルト大統領、ハル國務長官以下政府當局は何れもこの暗殺事件は極惡且卑怯な行爲だと述べ憤激の意を漏らしたが、これに反して、英國側新聞ラジオは飽迄落着き拂つた報道振を示し、言外に満足の意さへ仄見せて興味深い對照を示したのであつた。流石に、政府當局は一切の言明を回避して慎重な態度をとつたが、英國外務省と關係が深いので知られてゐるランデル・ニールが、ロイター放送を通じて、

「ダルランは味方の妙く、敵の多い男であつただけに今回の悲劇に際しても彼を氣の毒だと思ふ者は世界を通じて尠いであらう。殊に獨佛停戦協定成立後、英佛海軍筋から入手した情報的大部分をドイツ側に漏らしたのはダルランに外ならないのであるから、英國民としては決して彼を許す氣にはなれない。」

と、毒づく一方、

「將來ジローが軍事方面を指揮し、ド・ゴールが政治外交方面を擔當するのは有り得ないことはない。」と述べ、暗にジローとド・ゴールとの合作政權を豫言したことは、英國朝野のダルランに對する感情を露骨に表現すると共に、英國外務省の今後の施策がどういふ方向に向ふかを示唆するものとして、世人の關心を少からずそゝつたのである。

しかも、チャーチル英首相は、二十七日正午、「戦ふフランス」首領ド・ゴール將軍を首相官邸に招致し、午餐を共にしながら極力ド・ゴールにジローとの協力を慫慂し、ド・ゴールも亦ジローが佛領北阿政權の主席に就任したことに對しては何等異議ない旨を表明したと傳へられる。

更に、ド・ゴールは翌二十八日、イデーデン外相を訪問したが、同日のアルジェー放送によれば、ド・ゴール派の

代表デスワールは、既に同地に於てジローと會見、兩派の新關係について協議したとのことで、英國側は、最初からの希望通りこの際ジローとド・ゴールとの合作政權樹立すべく、早くも着々とその下準備を始めたものとみられるに至つた。

そして又、ルーズヴェルト米大統領も、十二月二十九日、佛領北阿政權新主席ジロー將軍の代表者、ベトアール將軍を引見し、何事かを協議したが、更に同日の記者團會見に於て、近くド・ゴール將軍が華府を來訪するに決定した旨を發表、ルーズヴェルト自身がジロー政權とド・ゴール派との橋渡しを買つて出るのでないかと思

はせたのであつた。

要するに、ダルラン暗殺事件の背後關係は未だ判然としないものの「死ぬ者貧乏」の例にもれず、結局一番損をしたのは、佛本國から裏切者の刻印を押されてまで米國側に協力してゐる中に暗殺されたダルランだけであり、ルーズヴェルト、チャーチルの兩人は、ジローとド・ゴールとを握手させて置いて、世界に散在する龐大な佛國植民地を思ふ存分に米英兩國間で山分けにすべく、既にその種の政治的工作に着手し始めたものと推測される。

西亞諸國の食糧不足とイランの食糧暴動

西亞諸國に於ける食糧、燃料その他生活必需品の缺乏はこれら諸國民衆の經濟生活を著しく不安にしてゐる

が、食糧不足の危機は冬を迎へて全面的に増大し、更に税金の負擔過重、配給の不良等のため物價は騰貴し、米

英現地當局及び自國政府に對する住民の怨嗟の聲は日を逐つて昂つてゐる。

米英側では、西亞各地への進駐部隊は現地から食糧を徴發せず大量の小麥を本國から送つてゐると繰返し辯明してゐるが、事實上、船腹の不足により米英本國からの補給は極めて不十分で、所に依つては食糧の少くとも五割は現地で調達してゐることは疑ひの餘地がない。

その否み難い證據は、最近西亞諸國全般を通して激化した食糧入手難であつてトルコに於ては小麥が異常に昂騰し、シリア、パレスチナ方面の食糧問題も悪化の一路を辿り、エチプトに於てすら食糧の供給は甚だしく不圓滑になつたといはれる。就中イランに於ける食糧不足は著しく、最近では之がため暴動さへ勃發するに至り、首都テヘランには戒嚴令迄布かれたのであつた。

◇ イランに於ける食糧不足は北都市町村に殊に顯著で慘

憺たるものがあることは、去る十二月十五日夜のイラン首相の放送でも明かであるが、その原因は單なる凶作によるものではなく、むしろ主として米英側出先當局の横暴な食糧調達措置に基因することは、世界の等しく認めるところである。

蓋し、イランが米、英、蘇三勢力の角逐舞臺として登場して以來、各國駐屯軍はイラン國內の食糧を猛烈に買煽る一方、鐵道その他の輸送機關を悉く軍用に徴發して蘇聯への物資輸送に利用したのであつて、英軍侵入當時、英國側とイラン國政府との取極めに基き印度等から多少小麥類が輸入されてゐたが、それ位では正に燒石に水の靚があつた。

かくして累積加重された食糧不足は遂にスルタナバード其他各地の食糧暴動となつて激發したが、就中烈しかったのは首都テヘランに起つた暴動であつた。

◇

去る十二月九日、テヘラン市民は大擧して市街を行進し、食糧品店、呉服店等を軒並に掠奪して廻り、更に議事堂前に蟻集して「イラン人の麥粉は米英人に食はれてゐる」と大書した標語を掲げ、「祖國を英國に賣つた政府を倒せ」と絶叫、一流ホテル等に放火し大示威運動を行つた。この有様に狼狽した米、英、蘇大公使館は機關銃を持有して警備し、急報を受けた軍隊、警察隊は相次いで出動、群衆の鎮壓に努めたが中々鎮まらず、遂に發砲するに至り、政府は直ちに戒嚴令を布き、暴動主謀者一五六名(内五名は議員と傳へられる)の逮捕其の他強壓手段に出でる一方、サルタネフ首相の名を以て、政府當局は適宜の措置を講じてゐるから四十八時間内に食糧難は解決されるだらうと述べ國民の激昂を慰撫するに努めた。他方食糧省は、ラチオを通じて食糧の買溜阻止並に退職發見に協力するやう、全國民に要請すると共に、フアロツク食糧相自身地方各州に赴き穀物の徵發を開始して、テ

ヘラン市の食糧不足緩和に必死の活動振りを示した。その結果テヘラン市内は漸く鎮靜に向つたが、逮捕される者は引續き絶えず、社會的不安は容易におさまらなない模様である。

テヘランに次いで、暴動の激烈であつたのは、スルタナバードで、群衆は米英側軍需品貯藏所を襲撃し、守備兵の發砲により多數の死傷者を出したと傳へられる。かくてイラン政府は、先づ前記諸對策を執る傍ら、十二月十五日には臨時議會を召集し、同夜には首相自身再度慰撫的演説を放送したが、米英兩國政府も、テヘラン市の食糧暴動に鑑み、十日イラン政府との間に食糧補給に關する協定が成立したと發表して民衆の對米英反感を解消するに努めた。尙、右協定は、米英兩國政府はイラン國內に於て食糧不足が起らぬやう保障し、又、米英兩國代表を以て食糧補給委員會を組織し、イラン政府は、國內の交通機關を同委員會の支配下に置き、食糧の配給

に協力するものと噂されてゐる。更にテヘラン駐在の米國側出先當局は、十二月十一日、ラチオを通じて米國がイランに供給すると約束した穀物の到着が遅延してゐるのは戦争に基く輸送難によると辯明し、米英兩國は既に救済用食糧第一回分として五千吨の穀物をイランに送る手筈を盡へた旨イラン國民に發表、いかに米英側が今次暴動に驚愕畏怖したかを如實に暴露した。

尙、この間見逃し難いことは、今次暴動を口實として、十二月十日夜、英軍がテヘランに増派されたことであつて、これに關しては翌十一日、英國外務省は、

「テヘラン市の食糧暴動に鑑み英軍部隊が警戒的措置としてテヘラン市の郊外に移駐したのである」と空嘯いてゐる。

尙、米英側は、今次暴動に關し真相が外部にもれるのを極力阻止し、ロイター通信も事態を出来るだけ軽く報道するに努めてゐるが、その實情が決して好轉に向つてゐないことは、去る十二月二十五日に至り、遂にイラン全國に互つて戒嚴令を布かれたと傳へられてゐる事のみでも明瞭であらう。

米英共同諸委員會の機能と運営狀況

大東亞戰爭勃發直後、チャーチル英首相は渡米して、ルーズヴェルト米大統領と共同戦争遂行方針に關する協

議を行ひ、その大要について意見の一致を見たが、その結果、一九四二年前半期中に、食糧、原料、船腹の各部

門に對して、聯合國資源の統一的利用計畫を行ふ米英共同委員會が、夫々成立し、又、兩國の生産を現實の戰略に適應させるべき共同生産及資源委員會及び戰爭遂行の實際必要に基いて軍需品を各戰線へ配分を決定する軍需品割當委員會等の五大米英共同委員會が相前後して設立された。

これらの米英共同委員會は、米英合同作戰本部と共に、聯合國の戰爭指導は米英兩國で指導するとの思想に基く米英共同機關であるが、その運営狀況において、英國は産業戰時態勢の樹立に關する限り米國に比し一日の長があるため、その經驗に基いて種々有益なる情報を提供し、又、特殊の武器機械等をも米國に提供してゐるが、全體的に見ればこれらの米英共同機關は、結局英國が米國物資を獲得する組織機關たるの性質が濃厚である。

先づ船腹、原料、食糧の三委員會は大體右三部門に關

する事態の真相を調査把握して、その對案を權限ある機關に具申する一種の調査及び勸告機關である。

次に生産及資源委員會は、米英合同作戰本部（コンバインド・チーフス・オブ・スタッフ・コミッテイ）の決定した戰略に基いて、米英の生産計畫を樹立する委員會であつて、必然的に、米國からどれだけの原料機械及船腹武器等が英國に對して供給されなければならないかの大綱を決定することとなり、その機能は戰略的に前記三委員會よりも重要視されてゐる。尙、右委員會にはカナダも十一月より加入した。

最後に軍需品割當委員會は、合同作戰本部に從屬して、軍需品の各戰線への配分を最後の決定するものであり、従つて生産資源委員會の決定を變更することもあ

る。然も、これらの委員會の活躍は案外侮り難いものがある。

現に原料共同委員會の如きは、既にゴム資源の開発活用について、中南米及びベリヤは米國の擔當、その他の地域は英國の擔當と決定し、兩國の責任區域を配分したが、更に佛領北阿の豊富な軍需資源に着眼し、米英兩國政府を通じて夫々資源調査團を派遣した結果、遂に去る十二月下旬北阿資源の米英間配分を左の如く決定した。

米 國

(イ) マンガン 北阿到る處に存在するが、大規模の開発が行はれてゐるものは
ポールアルフ一ヶ所のみで、良質のもの年十萬噸以上産出する。

(ロ) コバルト 一九三八年度に鑛石六千五百噸を産出して、金屬コバルト七百二十噸、ニッケル百六十五噸を得た程度である。即ち大したことはない
と云へよう。

(ハ) コルク 勞働力が補給されれば相當の増産が期待される。

英 國

(イ) 鐵 鑛 年産四百三十萬噸中三百萬噸はアルジェリア産であるが、一般に鑛を多量に含み、英國産の鑛石との混合に適する。

(ロ) 磷 鑛 一時年産四百萬噸に達したことも有るが、戰前に於ては半減してゐた。但し英國の全需要は充分満足させ得るものとみられる。

(ハ) 亞 鉛 年産二萬乃至二萬五千噸、一般に聯合國側に不足してゐる資源であるが、英國の精鍊設備が果して充分であるかどうか問題である。
(ニ) 鉛 年産三萬乃至四萬噸、但し現在英

國は鉛に關する限り不足を感じてゐない。

このやうに、他國の物資を米英兩國間で山分けにする

ときには、事態は相當順調に進捗するのであるが、米國の生産物資を米英兩國間で配分する段になると、當然、米國側に難色が生じると共に、英國側にも不滿の聲が上がり勝ちである。現に米國陸海空軍の大擴充計畫が進捗するにつれて米國軍事首脳部が軍需品の海外輸出を濫り、これに對して十月中旬の英國各紙が露骨な非難をなしたことは既に詳述した(第二十三號所載國際時報中)第二戰線問題の再燃と米英蘇の態度不一致(三五頁—三七頁参照)から、こゝでは省略するが、食糧問題についても、米國駐在の英國食糧使節團長兼食糧共同委員會英國側委員ブランドは、過敏、

「米國食糧の對英供給は、米國軍の需要増大と購買力

膨脹に基く一般米國人の消費増加とに押されて居り、これに蘇聯側の限り無い需要や北阿方面需要を追加して考へると、問題はすでに船腹の如何よりも食糧の自給力にかゝつてゐる」

と述べ、對英食糧供給の益々逼迫すべきことを示唆した。更にまた一般原料についても、米國側では、獨逸空軍の爆撃その他の惡條件により生産能率の低下してゐる英國工業へ乏しい船腹を費して原料を送附するよりも、米國自らこれを使用するに如かないとの考へる向も有つて、昨今諸種原料の供給量は、曾てリットルトン英生産相が米國から與へられた約定量に達せず、特に鋼鐵の供給不足の如きは英國側の甚しい不滿を招いた。

かくて英國側は、英本國及び北阿中東方面の戰略的重要性、殊にリビア戰線の英軍進撃の好調を宣傳すると共に、英國軍事工業は高度の發表を遂げて職工一人當り生

産量は米國に勝つてゐるが、米國よりの資源の供給がなければ、最早や生産の飛躍的發展は望まれないと主張して、對英資源供給の緊要性を強調したのであつた。

その結果、米國でも、ルーズヴェルト大統領及びネルソン戰時生産局長等が英軍及び英國軍事工業の戰略的重要性を認識したものの如く、結局軍部その他の要求を抑へ、殊に米國陸軍の擴張計畫を一九四三年末七五〇萬人程度に迄切り下げて、十一月再度渡米したリットルトン英生産相に對し、一九四三年度英國生産を更に三分の一

方増大させるに足る資料の供給を確約したのである。

他方、英國側でも、米國の對英援助確保は死活問題であるから、從來の様な氣拙い事態の再發を極力避けるため、在華府の各委員會英側代表その他の供給關係機關の活動を統合して、米國への働き掛けを一層強化するため、新たに華府駐在供給大臣の職制を設けて、ルーエリンを派遣したのであつて、このところ米英兩國首脳部は、米英共同物資配分機構の運営改善に相當以上の熱意を示してゐる觀がある。

ゴム不足に基く米英の窮況

米英のゴム不足は、その後益々顯著になつてゐるが、先づ英國について云へば、英國内のゴム回收及び再生の責任指導者であるサー・ジェームス・マーチャントは十一月十六日、次の様に述べてゐる。

「ゴム回收の必要は今や英國にとつて絶對的重要性を持つに至つた。各家庭はゴム回收運動に積極的に参加することが如何に大切であるかを認識して貰ひたい。例へば英國内の各家庭が八箇のゴム・バンドを獻

納したとすれば、それは千臺の爆撃機に必要なタイヤ及びチューブ製造のゴム需要を満すことになるし、又、テニス・ボール五〇箇乃至は急須注口用ゴム三〇〇箇があれば、艦載用小艇の一部に使ふゴム量は十分であり、使ひ古しのウエリントン・ゴム長靴一足ですら兵隊用のゴム・ジャケツ一着を作り得るのである。」

これを見ても、いかに英國が家庭内の些末なゴムにまで目をつけ、その回収に大童になつてゐるかがよくわかる。のみならず英軍需省は、十一月十八日、遊休自動車及びタイヤの一齊検査を完了したが、これは現在五十萬乃至七十五萬臺に上る英國内非使用自動車強制徴用の準備とみられ、既にゴム統制官ケネス・リーの如きは、これに關聯して、非使用自動車のタイヤは、特にすべて至急徴用する要があると述べてゐる。

十一月下旬のロンドンからの情報によれば、ゴムタイヤ不足激化により、英國政府は、全國の自動車輸送を嚴

重な統制下に置く旨を發表してをり、百軒以上の遠距離輸送は一々戦時運輸省の許可を得なければならぬ有様になつた。

かうしたゴム不足の反面、ゴム栽培會社多數の社長を兼任してゐるP・J・パーチエスが、戦争による株主の損害補償を要求して、次の如く述べてゐる。

「日本軍の占領により惹起された東亞方面ゴム會社株主の損害に對し關係各政府が各々責任を回避するやうなことがあれば禍根を將來に残すであらう。茲數年間租税負擔は益々増大したために、これらゴム會社自體が將來の經營に備へる積立金を蓄積し得なかつたのみならず、株主も亦配當による資金の増加が不可能であつた。この事實は英國の投資家がすべて知悉する所である。従つてこの際戦争による損害補償を政府が行はなければゴム生産といふ事業は全くすてゝかへりみられなくなるであらう、我々は政府が損害補償に關

し一刻も早く具體策を發表せんことを求める。」
又、東亞系の大ゴム會社ハリソン・アンド・クロスフィールド社の一九四二年六月に終る事業年度業績が十一月中旬發表された。

これによれば、同期間の純益は四一萬磅で前年の三五萬磅に比し六萬磅の増加を示してゐる。戦争によるゴム園の喪失から見ても、純益増加は奇異とすべきであるが、この原因はゴム園關係の損失が帳簿上すべて特別準備金支出によつて抹消されたからである。なほ純益中十五萬磅は戦時損害手當の準備金として留保され、この結果優先株は規定通りの配當年ら普通株は一九四一年度の二割五分から五分へ大幅減配された。然もこの配當を行ふためには同社は特別配當基金中から五萬磅を支出してゐる有様である。

◇ 他方米國に於ても、行詰るゴム問題を打開するため、

グアニール栽培の促進、南中米諸國へのクレディット供與等あらゆる手段を盡して天然ゴム資源の獲得に必死の努力を拂つてをり、九月十一日附ニューヨーク・タイムス紙によれば、前大戰當時の生産統制官バーナード・パルーチを委員長とするゴム生産研究特別委員會は要旨左の如き調査報告書を發表した。

「米國に於ける一九四三年末までのゴム需給狀況は左の如くである。

(イ)供給 天然ゴム在荷(一九四二年七月一日現在)

五七八、〇〇〇噸

同輸入見込(一九四三年末現在)

五三、〇〇〇噸

合成ゴム生産(一九四三年末現在)

二二一、〇〇〇噸

(ロ)需要 八四二、〇〇〇噸

このやうな極度の危機に達着した米國內ゴム問題の

對策としては、左の諸方途を適當と認める。

(イ) ゴム節約のため自動車の時速を三五哩以下とし、一年間の走行哩數を五千哩以下に限定する。又、全国的にガソリン割當制を實施すると共に、タイヤの定期検査を行ふ。

(ロ) 戦時生産局はゴム統制官の下に技術部を設ける。

(ハ) 合成ゴムを左の如く増産する

ブ ナ 八四五、〇〇〇噸

ネ オ プ レ ン 六九、〇〇〇噸

ブ チ ー ル 一三二、〇〇〇噸

かくして去る九月下旬にはユニオン・パシフィック鐵道會社社長ウィリアム・ジェファーズが全米ゴム統制官に任命され、次の如き任務を與へられた。

- 一、米國及び諸聯合國軍需用ゴムの生産に努めること
- 二、國民生活にどうしても必要な一定の自動車用タイ

ヤを確保すること

三、上述の措置を遂行するに當つては米國國防に障礙を與へない様努力すること

四、その他ゴム貯蔵及び配給割當等ゴム需給の一切を管掌すること。

しかも、このゴム統制官ジェファーズ自身が、十二月上旬になると、ネルソン戦時生産局長官宛に書翰を送つて次の様な悲鳴を上げてゐる。

「若し人造ゴム工場の建設が更に遅延するやうなことになるれば、米國のゴム供給は國防に必要な最低限度とされる年産額十二萬噸を下廻る惧れがある。さりとてもし天然の生ゴムを餘り早く使つてしまふと爾後大型タイヤ、自動ガソリン漏出防止タンク等人造ゴムでは製造不可能な軍需品に天然ゴムを使用し得なくなろう。」

こゝに於てゴム消費の徹底的制限は米國にとり焦眉の

急務となつたのであつて、政府が十二月一日を期し従來は東部十一州にのみ實施してゐたガソリン割當制を全國に擴大し、家用自動車ガソリンを週四ガロン乃至三ガロンに限定したのも、實はガソリン使用の制限によつて、ゴムタイヤの消費を約百萬噸位節約しようといふ苦肉の策を多分に含んでゐたのである。そしてルーズヴェルト大統領は、十二月中旬、ジェファーズ宛書翰を發表、ゴムの配給割當制強化の必要を力説して次の如く述べた。

「ゴム消費規制は逐日重要性を増して來た。陸海軍のゴム需要は頗る多量に上り、これが充足を圖るため我々一般の者はタイヤ使用を一層節減しなければならぬ。しかも即時斷乎たる措置を講じない限り米國は民需用のみならず軍需用ゴムの充足上重大なる事態に直面しなければならぬ。」

しかし、消費の節約といふことには自ら限度があるの

みならず、また消極的な意義しかないのであるから、米國としてはゴムの新資源地を國外に求める一方、人造ゴムを尙一層増産することによつて、何とかしてゴムの積極的補給を圖らなければならないことになつた。

しかも、米國にとつてのゴム新資源地と云へば、東亞方面を我が方に占據されてしまつた今日、南中米諸國及びアフリカしか残されてゐない。そこで米國は、一九四二年度中に、ブラジル、ペルー、ニカラグア、コスタリカ、コロンビア、エクアドル、ホンチユラス、メキシコ、トリニダット、英領ギアナ、ベネズエラ、ボリヴィア、グアテマラ、パナマ等とゴム協定を結び、それら諸國內の消費量を除いた全生産分を買上げることにした。然しながら、これら諸國のゴム生産は極めて僅少なもので、殊にトリニダットの如きはゴム統計書にも、生産額は愚かゴム園の存在すら記載されてゐない有様であるから、たとひ氣候風土上ゴム生産の潜在能力はあるにしても、ゴ

ム栽培の手数も考慮に入れなければならず、南中米諸國がいつになつたら米國ゴム消費量の相當部分を充足し得るやうになるか頗る疑問である。只、その中で最も問題になり得るのはブラジルであつて、アマゾン流域のゴムム栽培を促進するため、米國ゴム貯藏會社がブラジル政府と共同出資でゴム植林開發會社を設立、生産開始から向ふ五年間同會社からの購買權を獲得した。そして同會社の年産目標は大體三萬五千噸と云はれてゐるが、元來ブラジルはゴムの原産地であり、一九一〇年當時には年産六萬噸程度を擧げてゐたにもかゝらず、爾來マライ及び東印度諸島に壓倒されて、最近では年産二萬噸以下に落ちてゐた。

一方人造ゴムについてみると、現在米國が採用してゐる製造工程は二種あるが、その中、小麦—アルコール—人造ゴムの工程による工場建設は、ルーズヴェルト

大統領が反對してゐるが、農民は小麦在荷の豊富な點と化學的操作の容易なることを理由に贊成してゐる。しかし戦時生産局は、石油—ブタデイン又はスチリン—人造ゴムの工程の生産費が低廉であることを稱揚してゐるから大體米國政府はこの工程の方を採用するものとみられてゐる。

十一月下旬の瑞典紙スヴェンスカ・ターゲブラット紙によると米國化學者協會々長で石油副産物研究の權威たるエゲロフ博士は、この二番目の工程により人造ブタデインから製造したゴム・タイヤでもつて八千哩の走行記録を樹立し、今後走行距離十五萬哩以上の人造ゴム・タイヤ製造も可能になつたと傳えられ、米國人造ゴム製造の前途は一應有望のやうに見られたが、英誌エコノミストは左の如く依然極めて懐疑的な見解を示してゐる。

「米國が現在の如き老大な人造ゴム生産計畫を達成するためには、ブタデイン及びスチリンの生産高を高

めねばならないが、スチリンの如きは、その抽出に現在既に不足してゐるベンゾールを必要として居り、ブタデインの抽出にも航空用燃料に必要な炭水素化合物を使用する關係上何れも増産は困難である。これを考へ併せるに米國の人造ゴム増産計畫は、結局原料の不足によつて、その成果は大いに疑問になつて來る。」

と、述べてゐる。事實、米國ゴム需要の九八%を賄つてゐた地域が、我が大東亞共榮圈内に存在する以上、たとひ人造ゴム生産がどんなに急激に擴張されても、一九四二年中の米國內需要が八一萬三千噸、それに聯合各國の需要八七萬六千噸を加へた老大なゴム必要額がさう簡単に充足され得るものではない。そして、天然ゴムの補給

については、最も有望視されるブラジルのゴム生産にしても、アマゾン流域に廣く散在する野生ゴム樹によつて行はれること、従つて多大の費用を要するのみならず、非常な危険の伴ふこと等を考へ合せると、米國民がこれにもやがて幻滅の悲哀を感じるであらうことは殆んど疑ひの餘地がない。

従つて、恐らく一九四三年中には、米國は天然ゴムのストックを使ひ果し、屑ゴムの回収も底をつき、その結果御自慢の軍需生産力が重大な障害を受けるだらうが、そのときどんな彌縫策に出るかは、誠に興味深い見ものであらう。

一九四二年度米國商船建造及擊沈數一覽表

米國海事委員會發表

月 別	建造商船總數	自由型貨物船	自由型貨物船	擊沈商船數
一 月	一六	三	二四一・三	三四
二 月	一六	三	二四一・三	三四
三 月	一六	三	二四一・三	三四
四 月	一六	三	二四一・三	三四
五 月	一六	三	二四一・三	三四
六 月	一六	三	二四一・三	三四
七 月	一六	三	二四一・三	三四
八 月	一六	三	二四一・三	三四
九 月	一六	三	二四一・三	三四
十 月	一六	三	二四一・三	三四
十一月	一六	三	二四一・三	三四
十二月	一六	三	二四一・三	三四
合計	一九七・六二八	三	二四一・三	三四

二	月	二六	二八九五四九	一一	二二七・八	五九
三	月	二六	二六一、四七三	一六	二一七・七	六四
四	月	三六	四〇一、六三二	二六	一七九・二	五八
五	月	五七	六一九、七七九	四三	一五五・四	一〇九
六	月	六七	七四八、一五四	五一	一二二・四	一〇四
七	月	七一	九七〇、三〇〇	五二	一〇八・四	五四
八	月	六八	七五三、〇〇〇	五六	八二・九	四五
九	月	九三	一、〇〇九、八〇〇	六七	八〇・〇	二九
十	月	八一	八九〇、七〇〇	六五	六一・六	不
十一	月	八四	八九二、七〇〇	六八	五六・〇	不
十二	月	九〇	不	明	不	明

註一、撃沈商船隻数は米國海軍省發表に依る。
 註二、船舶難誌モーターシップの十月下旬號に依れば自由型貨物船の乗組員は四四名(内譯、甲板部二名、機關部一名、事務部その他七名)で上下往復蒸汽機關、直徑二四・五吋高壓シリンドラー、直徑三七吋低壓シリンドラー、一四・七吋クランク・シャフト、水管式汽鑪一箇を裝置し石油を燃料としてゐる模様である。

米國に於ける非鐵金屬需給狀況

最近の米國に於ける非鐵金屬消費高は非常な増加振り起因してゐる。然しながら軍需生産に不可欠な一部金屬を示してゐるが、それは明に米國自身の急激な軍備擴張は、その供給狀況が極めて不満足な状態にある。と聯合諸國への武器援助増加と軍需生産の劃期的増大に (イ) アルミニウム

アルミニウムは、鋼鐵を除いて軍需生産にとつても重要な要素で、飛行機の生産だけでも、全米アルミニウム供給高の七割五分を消費してゐる、と傳へられ、且つ最近の米國アルミニウム生産高は、

一九三九年	一一一百万封度	千萬噸と推定されるが、必要施設を得れば、ブラジルは年四萬五千噸のアルミニウムを生産し得ると云はれる。
一九四一年	二七〇百万封度	(ロ) マグネシウム
一九四二年(推計)	三六〇百万封度	マグネシウムはアルミニウムに次いで飛行機その他、兵器生産に重要な金屬であつて、一九四〇年度に於てすら飛行機工場だけで、全米マグネシウム生産高の七割五分を消化したと云はれる。米國は一九四〇年以來マグネシウム増産に努力してをり、最近の生産高は、

となり、一九四二年度は一九三九年に比し、三倍以上に見積られてゐるが、米國は従來國內アルミニウム需要の六割を英領ギアナ及蘭領ギアナから得てゐたのであるから、開戦後諸金屬中第一に割當量を適用して、不急民需向使用を總て禁止した。

かくして、米國は、アルミニウム獲得のためブラジルの鑛産資源利用に目をつけ、十二月下旬の情報によれば、船舶不足の折柄、現在鑛石のまゝ米國に輸送されてゐるブラジル産アルミニウム原鑛ボーキサイトをブラジ

一九三九年	五・八百萬キログラム
一九四一年	一三・五
一九四二年(推計)	六七・五

となつてをり、一九四二年の生産高は一九三九年の實に十二倍弱に上る増産振りである。然しながら軍擴強行により、かゝる増産を以てしても未だ不十分なことや飛行機生産に關する重要性等に鑑み、アルミニウムに次いで金屬としては二番目に統制を實施された。

又、十二月上旬、戦時生産局は、去る十月中旬にベージツク・マグネシウム・インコーポレーテッド會社のネバダ州ラス・ベガス工場がマグネシウム生産を開始した由を公表したが、右工場は、世界最大のマグネシウム工場で、生産能力は、年五七、七五〇噸と云はれ、その他本年内に完成した小規模マグネシウム工場は四、完成に近いもの三、最近起工したもの四と傳へられてゐる。

因に、十一月下旬のロンドン・タイムス紙によれば、世界を通じてマグネシウム總生産額は、一九三九年度に於て、三萬一千噸であつて、内、

獨 一六、五〇〇噸

英 五、〇〇〇噸
米 三、〇〇〇噸
であつたとのことであり、又、一説によれば一九四〇年度現在の世界マグネシウム生産各國比率は次の通りである。

樞軸側		反樞軸側	
日 本	九%八	米 國	一三%九
ドイ ツ	四六%四	英 國	一七%一
イタリ ア	二%五	蘇 聯	三%七
フ ラ ン ス	四%九		
計	六三%六		三四%七

(ハ) クローム
米國は、戦前殆どすべてのクロームを海外に依存してゐたのであつて、一九三八年度には酸化クロームを約十六萬四千噸輸入してゐたが、一九四一年の需給狀況は左の通りである。

供 給 八一〇噸

内輸入 八〇〇噸

消 費 七五〇噸

尙、輸入を主要國別に見れば次の通り。

アフリカ	四四%
比 島	二七%
トルコ	一六%

但し、戦時生産局は、十二月中旬、一九四三年度國內生産高は大體戦前の輸入量に等しくなるであらうとの發表を行つてゐる。

一方、モンタナ州ベヤトリス山の舊鑛が最近採掘を再開し、又、玖瑪及びブラジル等よりの輸入も期待し得るため、米國內クローム需要は略々滿されるものとみられるが、ブラジルの埋藏量は大體一千四百萬噸以上と見積られてゐる。

(ニ) 銅

戦時生産局原料資材部のキング銅資源課長が十二月初旬に言明したところによると、一九四三年度米國內の銅供給は二五%程不足するものと豫想されてゐる。他方瑞典紙スヴェンスカ・ダゲブラツト紙華府特派員十一月中旬の報導によれば、米國の一九四二年度銅生産推定高は一八〇萬噸で、消費は二五七萬噸、内一五七萬噸が民需とみられてゐる。

そして、銅不足の原因としては、左の諸點が考へられる。
一、近代兵器の銅使用量が多いこと。(例へば空の要塞一機に三千封度、戦艦一隻に約一千噸が使用される。)
二、米國銅鑛の大部分は含有量約五〇%程度で精鍊設備の急速な擴張が困難であること。
三、太平洋沿岸造船所等に労働者を取られたこと。
かくして米國は、一九四三年度に於て、極力國內銅生産を促進すると共に、南中米産の銅を大量輸入して、軍

需生産上の重大問題である銅供給不足を補填しなければならぬ立場にあるが、一九三八年現在南中米主要國の銅生産高は次の通りである。

チリ	三三八千噸
ペルー	三六千噸
メキシコ	三八千噸

(ホ) 錫

米國の錫消費高は平時に於てすら約十萬噸に達するの、國內生産は極めて僅少で、その大部分を現在は日本の占領下にある東亞諸地域から輸入する状態であつた。

十二月の英誌エコノミストによれば、錫問題調査協會は、一九四二年十月三十一日に終る一ケ年間の世界錫生産高は總額二五九、八八七、〇〇〇噸で、内八五、〇〇〇噸が反極軸國の支配し得る生産高であると發表した由であり、他方戦時生産局は一九四二年度米國錫消費高を、六五、〇〇〇噸と見積り、一九四一年度比し米國が約三

分の一方の節約を止むなくされたことを示してゐる。

かくして米國は、錫をポリヴィアに依存せざるを得ないことになつたが、一九四一年度のポリヴィア錫輸出高は總額四萬三千噸にすぎない。そこで米國はポリヴィアに對して錫鑛開發資金の貸與及び専門技術家使節團の錫生産地帯派遣等を行ひ、鋭意ポリヴィア錫増産を奨励してゐる。

尚、米國政府がテキサス市に建設した大精鍊所は一九四二年四月九日操業を開始して、現在全能力を擧げて精鍊を行つてをり、一九四二年末までに一ケ年七萬四千シヨート噸の錫精鍊能力確保を目指して擴張を續けてゐるが、一九四二年中の實際生産高は四萬噸と戦時生産局は見積つてゐる模様である。但し、この割で生産されれば一九四〇年來の手持錫鑛は明春までに使用し盡されるものとみられてゐる。

(ハ) 鉛

鉛は米國に於て未だ不足を來してゐない唯一の重要金屬であつて、他の不足金屬の代用としてその使用が發達されてゐる状態である。尙戦時生産局十二月上旬の發表によれば、その年産見積額は百三十萬八千噸となつてゐる。

因に、一九三八年度の南中米諸國の鉛生産額は左の通りで、メキシコが最大の生産額を示してゐる。

メキシコ	二二〇千噸
ペルー	二六〇
アルゼンチン	二二〇

(ト) 雲母

戦前米國における雲母生産高は、その割製に要する勞銀の關係で消費高の僅か六分の一を占めるに過ぎなかつた。

國內生産の六割は北カロライナに産するが、最近潜水艦探知器及びラヂオ・チューブ用としての需要が増大し

たため、政府は秋期に雲母増産のため雲母開發會社を設立した。その後三ヶ月間に同會社が北カロライナ方面に於て新たに開發した雲母鑛山は一七五以上に上り、その他ニューハンプシャー、コネチカット及びジョージヤにも小規模ながら雲母鑛山の開發を見た。

(チ) ヘリウム

ヘリウムの増産状況について、鑛山局長クラウド・セルズは十二月上旬の年次報告で次の如く述べた。

「豊富な新鑛物資源の發見開發は、米國の戰略的重要鑛物供給問題の解決に役立つてをり、採掘技術の發達と相俟つて生産高を上昇せしめてゐる。殊にヘリウム及び不燃性ガスは、一九四二年末現在、一九四〇年に比し三倍以上の増産振りを示してゐる。」

(リ) 水銀

米國の水銀生産高は、一九四二年度四萬四千フラスコと見積られてゐるが、これは前年に比して相當の増加

で、他の米洲諸國の水銀生産高も同じく増加してゐると云はれ、殊にメキシコの本年度水銀生産高は三三〇〇〇フラスコに達した。尙、水銀の値段が暴騰したため、前大戦當時の舊鑛が米國內各地で次第に復活されつゝある。

(ヌ) リチウム

十二月上旬、戦時生産局は黝輝石をはじめリチウムを含有する鑛石に對してその使途竝に配給を統制する旨を發表した。

又、硫酸の使用及び配給統制も同時に實施した。

(ル) パナジウム

米國に於ては今尙供給不足なので、西コロラドの小鑛山を極力開發中である。

(オ) モリブデン

戦時生産局十二月上旬の發表によれば、モリブデンは、一九四三年度に於て、一九四二年度生産高を一五%

方上廻るものと推算されてゐる。

世界總生産額の六六%が、コロラドロッキーマウンテン山より出でゐるにも拘らず、銅と共に不足資源の一つに數へられてゐる。

(ワ) タングステン

埋藏量少く且つ分散してゐるため、各地で採掘してゐるが、アイダホ州イエローマイン地方で國內全生産額の二五%が産出される。それにボリヴィアよりの輸入を加算すれば、戦争遂行には充分であると云はれる。

(カ) マンガン

マンガンに就いては、舊鑛擴張の外に、新にモンタナ州ブツテのエマ鑛山を開發してゐるが、玖瑪よりの輸入も増加したため、一九四二年九月には充分需要を満すに至つた。

尙、マンガンは、ニッケル同様、ブラジルから産出され、その埋藏量は五千萬噸と推定されてゐる。

米政府は、各種非鐵金屬の供給確保については、國內生産の増加、中南米、アフリカ、印度方面よりの輸入に努める一方、國內の屑金屬などからの非鐵金屬類の回收に力を入れてゐる。

米國鑛山局の發表によれば、一九四一年中の屑金屬からの回收再生された非鐵金屬類は總額三億四千七百五十三萬六千弗で、一昨年の二億三千六百九十六萬五千弗、一昨々年の二億百四十一萬六千弗に比して著しい増加である。

尙、主要金屬別に回收數量を見れば次の通りである。

(單位ショート・トン)

アルミニウム	一九四一年	一九四〇年
アンチモニー	一〇六・八五九	六八・〇四五
銅	二一・六二九	一一・四二一
鉛	七二六・三九六	五三三・〇四六
ニッケル	三九七・四一六	二六〇・三四六
錫	五・三二五	五・一五〇
亜鉛	四二・〇三三	三三・三二二
鉛	二八三・九六七	二〇五・九二一

(備考) 鐵類生産については、國際月報二十三號、「米國鐵、鋼鐵、鋼板生産狀況一覽表」並に、同二十二號「米國軍需資源の需給狀況」参照

米國戰時行政機關の概観

米國の戦時運営を指導する臨時行政機關として、最近

最も派手な活躍振りを示してゐるものとしては、戦時生

産局、経済安定局及び戦時人的資源委員会等が上げられるであらう。

殊に戦時経済の指導に關する限り、戦時生産局長官ドナルド・ネルソン、経済安定局長官ジエームス・バーンズ、戦時人的資源委員会長官ポール・マクナット等三人の權威は、正に飛ぶ鳥も落とすばかりの有様で、ルーズヴェルト大統領を核心とするこの三人の寡頭政治によつて、萬事が取り仕切られて行くといつても過言ではない。

現に、去る十二月十二日、物價統制局長官レオン・ヘンダーソンの辭職が突如發表されたが、右に關する米國各紙の論評を綜合すると、ヘンダーソンがネルソン戦時生産局長官やバーンズ経済安定局長官と意見の相違を來したことが遂にその職にゐたままになつた主な原因の一つであることは間違ひないやうである。事實、ヘンダーソンとしては、ネルソン戦時生産局長官の隆々たる獨裁的權力の前には、ネルソンの軍需生産第一主義に

唯々隨從して民需供給不円滑に關する國民の非難攻撃を一身に背負ふか、或はその職を投げ出すかの何れかをとる外はなかつたであらうし、又、去る十月二日の大統領令によつて経済安定局が新設され、國民の生活費を安定せしめるとの名目の下に、諸物價、賃銀、俸給、利潤、補助金及び各種貸付料金の全般に互る廣汎な監督權を同局長官バーンズが掌握してしまつた以上、物價統制の最高機關であつた物價統制局長官の職の如きは、名有つて實無きに等しく、しかも物價殊に農産物價の抑制についてバーンズと意見が合はなくなつてみれば、三十六計逃ぐるに如かずとばかりに、病弱を理由とした辭表をルーズヴェルト大統領に叩きつけたのもなつたであらう。

かくして、ルーズヴェルト大統領は、曾てはその股肱の一人として最も頼みにしたヘンダーソンが自分の側近から立去つて行くのを見送らなければならなくなつたが、米國戦時経済の運営に關する問題はそれのみに止まらな

かつた。



元來、米國戦時指導上の臨時特設機關は、その最も重要なものだけを數へても十指に餘り、しかもその時々必要に應じて、云はゞ自然發生的に濫立されてきたので、それら諸機關相互の運用に統一調和を缺くのみならず、又、これら臨時機關と各省行政機關殊に軍部との間に摩擦が少くなく、この點に關して、十一月末ごろからルーズヴェルト大統領の裁斷がしきりと要望されてゐたのであるが、ルーズヴェルト政権十二月中の行政措置を通觀すると、大統領が前者の肩を持つて、後者就中軍部の要求まで抑へる意圖を有することは、略、確實とみられるに至つた。

先づ、戦時生産に關する最高權限が軍部にあるか戦時生産局にあるかについては、從來とかく論争が絶えなかつたのであるが、十二月四日、陸海軍省及び戦時生産

局は共同聲明を發表して、今後ウィルソン戦時生産局長官がすべての戦時生産企畫に對し完全な監督權を有する旨を公表し、こゝに全米國民の眼前でルーズヴェルト大統領の采配は戦時生産局の頭上に上げられたのである。

次いで、十二月五日、ルーズヴェルト大統領は、徵兵局所管事項を戦時人的資源委員會の統制下に置く旨の行政命令を發した。これは、從來徵兵局がその獨立權限によつて、農業乃至緊急産業方面の労働者を隨意に軍隊に引抜き、それが労働不足の折柄米國朝野論議の的となつてゐたのに對し、ルーズヴェルト大統領自ら、今後は陸海軍及び軍需産業方面に關する人的資源の配分もマクナットの一元的統制の下に置かれることを明かにしたものであつて、マクナットが首を縦に振らない限り、何人も勝手に労働力をかき集めることができなくなつた。かくして、労働力配分に關する全權を與へられたマク

ナツト戦時人的資源委員長官は、ネルソン戦時生産局長官、バーンズ経済安定局長官と相並んで米國戦時經濟運営上の三大立物の一人となり、或る場合には各省長官を制肘し得るやうな権力を掌握することとなつたのである。



今、米國戦時指導機關中の最も重要なものを列挙すれば、左の通りである。

- 戦時生産局 (W. P. B.—War Production Board) 一九四二年一月設立、長官マナルド・ネルソン
- 經濟戦争委員会 (B. E. W.—Board of Economic Warfare) 一九四二年四月設立、委員長ヘンリー・ウォーレス(副大統領)
- 經濟安定局 (E. S. B.—Economic Stabilization Board) 一九四二年十月設立、長官ジエームス・スーミンズ(大審院陪席判事)

物價管理局 (O. P. A.—Office of Price Administration)

一九四二年四月設立、長官(前)レオン・ヘンダーソン

全國食糧管理局 (N. F. A.—National Food Administration)

一九四二年十二月設立、管理者クロード・ウィツカード(農務長官)

戦時人的資源委員会 (W. M. P. C.—War Man Power Commission) 一九四二年四月設立、長官(委員長)ポール・マクナット

戦時労働局 (N. W. L. B.—National War Labour Board)

一九四二年一月設立、長官ウイリアム・ギーヴィン市民防衛局 (O. C. D.—Office of Civilian Defense)

一九四一年五月設立、長官ジエームス・ランデイス武器貸與計畫局 (O. L. L. A.—Office of Lease—Lend Administration) 一九四一年四月設立、長官ハリー・ホプキンス

ホプキンス

戦時石油管理局 (P. A. W.—Petroleum Administrator for War) 一九四二年十二月設立、管理官ホルド・イツキス(内務長官)

戦時海運局 (W. S. B.—War Shipping Board) 一九四二年二月設立、長官エモリー・ランド海軍少将(海軍委員会委員長)

戦時情報局 (W. I. B.—War Information Board) 一九四二年六月設立、長官ヘルマー・デーヴィス

その他戦時行政に關係の深いものとしては、左の諸機關が数へられる。

海事委員会 (Maritime Commission 委員長エモリー・

ランズ海軍少将) 國防運輸局 (Office of Defense Transportation 長官ラルフ・バンド)

國防通信管理局 (Defense Communication Board 長官ジエームス・フライ)

國家資源計畫局 (National Resources Planning Board) 國防農事關係局 (Office of Agricultural Defense Relations 長官クリツフォード・タウンゼント)

徴兵局 (Selective Service System 長官ルイス・ハーシー代将)

國防保健局 (Office of Defense Health and Welfare Services 長官ポール・マクナット)

科學振興局 (Office of Scientific Research and Development 長官ヴァネッサ・ハツシユ)等。

米國戦時情報局の活動狀況

大東亞戰爭勃發以來約半ケ年の間、米國側の戦時宣傳

乃至情報機能は、相當以上に無秩序且不統一なものがあ



つたが、ルーズヴェルト大統領は、内外の批難に鑑み、去る六月十四日、大統領令を以て戦時情報局を設立し、資料統計局(オフィス・オブ・ファクツ・アンド・フィギュアズ)その他の諸情報機関を廢止して、政府の對内對外情報活動を戦時情報局に統一し、同局長官にはラジオ評論家として著聞してゐたエルマー・デーヴィスを起用した。

但し、陸海軍の戦況發表に關しては、戦時情報局も協力することになつてはゐるが、その後、アリユーシヤン方面やソロモン方面戦況が主としてワシントンの陸海軍省、時にはハワイの太平洋艦隊司令部その他の現地軍當局から發表され、ニューギニア戦況が専らマツクアーサー麾下の西南太平洋反樞軸聯合軍司令部から發表されてゐるのから察すると、事實上戦時情報局は關與してゐないものとみられ、又、南中米に對する宣傳啓發はネルソン・ロツクフェラーの主宰する米洲通商文化事務局に一任された形で、戦時情報局の干渉外に置かれてゐる。

尙、一説によれば、諜報及び特殊作戰任務に關しては別に一部局があり、ルーズヴェルト大統領の腹心で諜報任務に熟達してゐるウイリアム・ドノヴァン大佐が指揮監督してゐると云はれるが、眞疑の程は明かでない。

かくして、米國の對内對外宣傳啓發に當る重大任務を與へられたデーヴィス戦時情報局長官は、その本部をワシントンに置き、一年三千數百萬弗に上る莫大な豫算を與へられて大車輪の活躍を開始した。

即ち、デーヴィスは、七月十三日、戦時情報局に政策企画部、國外情報部、國內情報部の三部を置く旨を發表したが、その各部の構成は左の通りで、局員總數は一九四二年末現在二千五百名に上ると傳へられてゐる。

(イ) 政策企画部(ストラテジック・ボード)
これは戦時情報局の對内外宣傳方策を企画決定する最高機關で、デーヴィス長官の外ミルトン・アイゼンハワー

(歐洲聯合軍總司令官兼歐洲派遣米軍總司令官)ドワイト・アイゼンハワーの末弟)及びアーチボルト・マツクレイシユの三名がこれを司り、對外、對内の兩課に分れてゐる。

(ロ) 國外情報部
ロバート・シャールウッドが部長の任に當り、千八百萬弗の豫算を與へられて、全世界に宣傳情報の網を張つてゐる。

(ハ) 國內情報部
ガードナー・コウルズが部長として千三百萬弗の豫算を驅使し、國內主要都市四十四箇所に地方支局を設置してゐる。

尙、右三部の外に戦時情報政策委員會が局内に特設され、デーヴィス長官自身委員長となつて、陸海軍その他關係各官廳との連絡強化に努めてゐる。

◇ 戦時情報局の活動中、殊に大がかりなのは、金の有り

餘るに任せたその對外宣傳で、ロンドン・ダブリン等に支局を開設し、蘇聯、西亞その他全世界各地に多數の代表者を派遣してゐる外、去る十一月一日には、CBS、クロスビー、ジェネラル・エレクトリック、NBC、ウエスティング・ハウスの五大短波放送局の施設を接收使用する旨を發表、今や三十有餘の短波放送局を利用して、全世界の英語使用國並に海外駐屯米軍將士にニュースを供給し、更に進んでは、エジプト、北アフリカ、赤道アフリカ(ブラザヴィル)、南アフリカ等のアフリカ各地及びドイツ、イタリー、ルーマニア、ハンガリア、フィンランド、フランス、スペイン、ポルトガル、スエーデン、ノールウェイ、デンマーク、ギリシヤ等ほととよりポーランド、オランダ、チエツコスロヴァキア等に對してまで夫々の國語を用ひて連日放送を行つてゐるが、近くセルヴィア、クロアチア等に向けても放送を開始する計畫を立てゝゐることである。

又、東亞方面に對してはタイ、フィリッピン、東印度諸島に向けて連日執拗な反日宣傳放送を行ひ、殊に支那大陸方面に對しては、北京官話及び廣東語の放送で日華離間その他の惡宣傳に努め、近くは福建省方面に放送局を設置すべく畫策中とも傳へられる。

尙、ラジオ放送の外にも、金に飽かせてつくり上げた雜誌、パンフレット、寫眞、レコードの類を中立國その他に惜しげもなくばらまいて、「空の要塞」その他武器軍需品の生産力を誇示し、民主主義國の生活水準の高いつとを見せびらかし、輸出用マッチ箱や石鹼函のレットテルにまで、米國の軍事力や物資豊富を印象づけるやうな工夫を凝らし、極力樞軸側の宣傳に對抗しようと努めてゐるのである。

各國動向

米 國

【軍 事】

大東亞戰爭一周年

——海軍省眞珠灣損害發表——

開戦一周年當日の十二月七日、全米各戸は早朝から國旗を掲揚し、國民は全國教會で催された公式默禱に出席した後、概ね頗る靜肅な一日を送つたが、海軍省は右に先立ち、六日、一年前の眞珠灣敗戦で蒙つた損害を公表し、全國各紙も亦當時の慘憺たる眞珠灣現狀の寫眞を掲

載し、社説で一齊に對日復讐を呼號した。

尙、右海軍省發表によれば、開戦直前の米國戰艦總數十七隻中、八隻が眞珠灣に碇泊してゐたが、アリゾナは沈没、殘る七戰艦は損害を蒙り、その他巡洋艦及び驅逐艦各三隻、工作船、水上機母艦、水雷敷設艦、標的艦各一隻並に大浮ドック一箇損傷、海軍機八〇臺、陸軍機九七機喪失、海軍將兵戰死二、一七名、行方不明九六〇名、陸軍將兵戰死二二六名を出したと稱してゐる。

他方、政府は、七日、戰艦「ニュージャーシー」(四萬五千噸以上、全長八八〇呎、速力三五節、十六吋砲九門、搭載機四機、建艦費八千五百萬弗)、航空母艦「バンカー・ヒル」(二萬五千噸、速力三五節、五吋砲十六門、搭載機八

○機、建艦費六千萬弗)、同ペローウッド(一萬噸巡洋艦より變更せるもの)、驅逐艦二隻、大型掃海艇六隻、その他合計十五隻が進水した旨發表、併せて米國海軍は眞珠灣敗戦當時以上の實力を備ふるに至つた旨を極力宣傳して、國民の士氣鼓舞に努めた。

開戦一周年に際し

大統領等將士を激勵

ルーズヴェルト大統領、ハル國務長官、ノックス海軍長官等は、開戦一周年に際して、夫々所感をアーミー・エンド・ネーヴィー・ジャーナル誌に寄せ、陸海軍將士を激勵した。その要旨は左の通りである。

ルーズヴェルト大統領――

「我々の戦争努力の基調は、米國國民の一致團結並に聯合國の一致團結である。我が陸海軍將士は最善の訓練を受け、規律節制ある團體として、珊瑚海、ミッドウエー、ソロモン群島、ニューギニア、北阿等に實力

を發揮した。一方、銃後國民の愛國心により、米國國民は民主主義の兵器廠となつた。當初は防衛的立場を忍び、好機至るを待つて反攻に出でた戦術は、決して僥倖ではなく、一生を戦争研究に捧げて來た軍人の智慧の結晶であつた。」

ハル國務長官――

「外交政策の適切な運用によつて、米國國民は聯合國との間に、單に戦時に於ける同盟關係のみでなく、平和に對する同志的友情をも確立した。斯の如き友情と團結とによれば、勝利の到來は疑ひの餘地がない。」

「現在米國潜水艦隊は、日本海軍勢力を減殺する重要任務を遂行しつつある。他方國內造船所は急速度で新艦艇を續々進水させ、現在既に開戦當時よりもその規模、攻撃力、及び速力等で遙に優れた海軍を實現させてゐる。」

大東亞戦争一箇年間の

米軍損害及び現有兵力

戦時情報局は米國参戦一周年記念日に當る十二月七日開戦以來陸海軍兵員の蒙つた損害及び現有兵力を次の如く發表した。

陸軍	三五、六七八名
海軍	二二、六二九名
合計	五八、三〇七名
一、損害	
二、現有兵力	

陸軍	一九四二年十二月七日	開戦直前
海軍	四八〇萬	一八〇萬
マリン部隊	一一〇萬	三二、五萬
潜水艦戦果	二〇萬	六萬

海軍省は、昨年十二月七日から本年十二月七日までの

一箇年間に於ける米潜水艦の戦果に就き、十二月二十七日、左の如く發表した。

「米國潜水艦は巡洋艦三隻、驅逐艦十二隻、空母一隻を含む百五十三隻の樞軸艦船を撃沈した。尚、その數に於てのみならず噸數、武器並に航續力に於て米國未曾有の大潜水艦隊が建造された。」

ハワイ駐屯軍司令官華府へ

ハワイ防衛軍司令官エモンズ中將は十二月十日ワシントンに到着、軍首脳部と協議を遂げた。

クリーツジ號ソロモン水域で觸雷

米國海軍省の發表によれば、去る十二月十二日、豪華船プレジデント・クリーツジ號(一一、九三六噸)は南太平洋で觸雷沈没したが、右につきアメリカン・プレジデント・ラインの總支配人ヒュー・ジャックソンは十二月十五日同船沈没の経緯につき次の事實を暴露した。
「プレジデント・クリーツジ號がソロモン水域において

某港に入る際、船長は哨戒に従事してゐた駆逐艦二隻に對し入港しても危険はないかと照會したところ、何等危険がないとの回答があり、そのまゝ入港したが、俄然二箇の機雷に觸れ爆沈するに至つた。」

尙、ノックス海軍長官は、

「ブレジデント・クーリツジ號は陸軍運送船として約四千名の軍隊を乗せ、ソロモン群島水域を航行してゐる際機雷沈没したが、四名の乗組員の外は全部救ひ出された。海軍省査問委員會では目下同船の沈没が日本軍の機雷によるものか、米海軍の機雷によるものか嚴重に調査をしてゐる。」

米軍駐屯地

ニューヨーク・タイムス紙軍事記者は、十二月上旬、米海外派遣軍は世界各地五十餘箇所の基地に駐屯してゐると發表してゐるが、その主な駐屯地は次の通りである。

- 一、歐洲方面
- 一、アフリカ方面
- 佛領モロッコ、佛領アルジェリー、佛領チュニジア、リベリア、スーダン、エリトリア
- 一、西亞方面
- イラク、イラン、印度
- 一、大東亞並に太平洋方面
- 支那、濠洲、ニューギニア、ソロモン群島、ニュー・ヘブリズ島、ニュー・カレドニア島、ニュージーランド島、フィジー群島、サモア島、ハワイ群島、ミッドウエイ群島、アリューシャン群島
- 一、米洲並に大西洋方面
- アラスカ、カナダ、ニュー・ファウンドランド、ラブラドル、グアテマラ、ニカラグア、コスタリカ、パナマ

カラバゴス島(エクアドル領)、エクアドル本土、ブラジル、英領ギアナ、蘭領ギアナ、アルバ、クラカオ、トリニダット、サンタ・ルシア、アンチグア、ヴァージン群島、プエルトリコ、ジャマイカ、キューバ、バハマ列島、バーミューダ群島、アイスランド、グリーンランド

チュニジア戦況停滞

十一月末、米英聯合軍主力は、早くもチュニス、ビゼルト地区西方十數哩の線迄進出したが、その間獨伊側は後方補給線が短いのを利用して兵力を着々増強し、殊に空軍は優勢を保持するに至り、十二月に入るや果然猛反撃に出で、數日に互る激戦の後、米英軍主力をチュニス西方約三五哩のメジエズ・エル・バフ附近迄撃退した模様である。然るに十二月中旬チュニジア方面は豪雨泥濘のため機械化部隊の行動は不可能となつて兩軍は對峙の形となつたが、十二月下旬天候が恢復すると共に、雙方の

空軍は連日交戦を行ひ、相手方兵力並に軍需補給の妨害に全力を盡してゐる。

新空軍司令官北阿着

北阿聯合軍司令部は歐洲方面米空軍司令官カール・スパーツ少將が北阿方面聯合軍空軍司令部を設置するため北阿に到着した旨十二月五日發表した。これと同時に北阿聯合軍司令官アイゼンハワーは新空軍司令官の任務に關し次の通り語つた。

「スパーツ少將は戰略方面を擔當し、從來空軍司令官の地位にあつたドウリトル少將は専ら實戦の指揮に當ることになつた。」

チュニジア空中戦の意義

陸軍航空部隊司令官アーノルド中將は、十二月八日、チュニジアの空中戦は地中海惹いては全歐洲戦線の空軍覇權が何れに歸するかを決定する事になる、と語つた由である。

北阿作戦の三大目的

——スチムソン陸軍長官言明——

AP通信ワシントン電によれば、スチムソン陸軍長官は、十二月十二日の記者開會見席上、北阿作戦に就いて左の如く述べた由である。

「北阿制空権確保後、我々の達成すべき目標は第一にチュニジアより樞軸軍を掃蕩し、第二にロメル軍を背後から撃滅し、第三に北阿沿岸及地中海を一層安全化して、エジプトに對する兵站連絡を守ることである。」

北阿方面米空軍損失

陸軍省は、十二月二十七日、北阿作戦開始以來、二十日迄に米英側の撃破した樞軸軍飛行機は二七七機で、米英空軍損失は一一四機、内米機は五九機であると發表した。

三十八歳以上の軍籍編入停止

陸軍省は軍需工業部門における深刻な勞働力不足を緩和するため義に四十五歳以上の男子の徴兵を停止したが、十二月五日、更に三十八歳以上の軍籍編入を當分停止し、現在軍隊内に在る三十八歳以上のもので他の分野で戦争遂行努力に寄與し得る者は除隊せしめる旨を發表した。

大學専門學校施設の軍事徴用

陸海軍兩省は、召集壯丁に對し軍事的に必要な特別技術訓練を實施するため、全國における官公私立大學専門學校の施設を徴用するに決し、十二月十七日その旨共同發表を行つた。新制度の實施により徴用される教育機關は二三百校に及び、これ等の學校において教育を受ける青年は約二十五萬人と推定されるが、スチムソン陸軍長官は次のやうに語つてゐる。

「今回の措置によつて米國の所謂自由教育制度は一時的にもせよ相當の打撃を受けることゝならう。戦争

を勝ち抜くためにはすべての教育を軍事的要求に應ずる方向に進めねばならぬ。そして勝利を獲得するためには陸軍に出来るだけ多くの青年を收容しなければならぬ、訓練は技術方面を第一とし、他の教育部門は第二義的になるわけである。」

青年十五萬人に軍事特別訓練實施

政府は全國の大學、専門學校學生に對し軍事訓練並に軍需産業幹部の養成を開始したが、人的資源委員長官ホール・マクナットは、十二月二十一日、専門學校學生十五萬人に對する特別科學訓練を暫定的に延期する一方、兵役法に基いて青年十五萬人を學校に收容し、特別訓練を實施する旨發表した。

滿十八歳壯丁登録開始

政府は、十二月二十一日、全國一齊に去る九月及び十月をもつて滿十八歳に達した壯丁の登録を開始した。右は去る十一月成立した改正徴兵法に基き徴兵年限が十八

歳に引下げられて以來最初の登録で、また十一月及び十二月をもつて滿十八歳に達する組の登録は、同二十六日より三十一日迄の間に行はれた。

他方、陸軍第十六主計局十二月中旬の發表に依れば、最近の陸軍入隊者平均體格は左の通りである。

身長一米六八、體重六五キロ、胸圍七五厘米、靴九吋半。

戦費一日二億四千萬弗

十二月十五日附ニューヨーク・タイムス紙の報道によれば、戦時生産局長官ドナルド・ネルソンは本年十一月一日現在の戦費を一日當り二〇、四〇〇萬弗と發表したが、これを昨年同期の軍事費六、七〇〇萬弗に比較すれば三倍以上に増加してゐる。

他方、財務省は、十二月十日、十一月中の戦費は六十一億一千二百萬弗に上つた旨發表した。尙、十月迄の月別戦費支出状況は左の通りと傳へられる。(單位百萬弗)

一九四一年十二月

一、八五〇

一九四二年一月	二、一〇〇
二月	二、九一三
三月	二、九八七
四月	三、四二一
五月	三、五五一
六月	三、八二三
七月	四、四九四
八月	四、八八二
九月	五、三八四
十月	五、四八一

武器貸與実績第七次報告

—大統領議會に提出—

ルーズヴェルト大統領は、十二月十一日、議會に對して武器貸與法實施第七次報告を提出した。その要旨は左の通りである。

「過去三箇月間の武器貸與總額は二十三億六千七百

萬弗で、これを、その前の四半期に比すれば三割三分増、大東亞戰爭勃發前の三箇月に比すれば四倍に當り、米國戰費總額の二割五分に達する、尙、十月中の貸與額中四割は英國、三割九分が中東方面、二割一分が蘇聯へ供給された。

そして米英兩國は、蘇聯に對し、北方輸送路を經由したもので、飛行機三千機、戰車四千臺以上、その他自動車、食糧、醫藥、原料等を發送し、その大部分は到着してゐるが、食糧だけは未だ蘇聯の要求を充分には満たし得ない状態である。

ビルマ喪失以來、重慶に對する物資援助はヒマラヤ越空路で行はれてゐるが、輸送困難のため、その量は少ない。」

【外 交】

對重慶外交宣傳工作強化

ビルマ喪失後、重慶側に效果的援助を與へ得なくなつた米國側は、在支米空軍による日本占領地爆撃、對日反攻宣傳その他の重慶慰撫策を採る一方、成都、蘭州、迪化、西安、桂林の五箇所に領事館を開設し、昆明領事館を總領事館に昇格する等、外交機關の擴充を計つたが、更に去る六月戰時情報局設立と共に、その重慶支部を設けて宣傳工作を強化し、既にジョセフ・アンスロップ、アーネスト・ハウザー、グンサー・スタイン、ソニア・タマラ等の米人評論家乃至記者を印度經由重慶に特派した趣きである。

對重慶技術家派遣發表

國務省は、十二月十二日、左記三名の米人技術家が重慶政權技術顧問として重慶に到着した旨を發表した。

農務省土壤保全局長 ウォルター・ローグミル
ク博士(林學博士、全米科學協會、米國地球物理學聯盟會長、土壤専門家として米國政府に二十一年間勤務し、

又、嘗て南京大學教授として五年間支那に滞在した經歷がある。

農務省技師 シオドア・P・ダイクストラ博士(和蘭系米人、玉蜀黍及馬鈴薯栽培の權威)

メリーランド商科大學學長 W・マッケンジー・ステイヴンス博士(組合行政の權威、一九三四年—三六年南京大學教授兼全國經濟委員會顧問であつたことがある)

尙、右三名に引續き渡支すべく國務省から指名されてゐる技術者は左の通りである。

農務省牧畜局長 レイ・G・ジョンソン

「動物科學」編輯者 ラルフ・W・フライツ博士(牧畜専門家)

小企業經營研究家 ジョン・ライマン

長距離電話技師 オンマー・C・バグウェル

重慶との國際高眞電送開始

國務省は、十二月十三日、ロスアンゼルス重慶間に國際電送事務が十四日より開始され、米國側ではプレス・ワイヤレス、重慶側では交通部がこの經營に當る旨を發表した。

對印外交工作積極化

——フィリッパス對印特派發表——

ルーズヴェルト大統領は、十二月十一日、元國務次官前駐伊大使ウイリアム・フィリッパスを大統領の「個人的代表」として印度に特派する旨を發表した。

右フィリッパス特派に關して、ワシントン・ポスト紙社説は、同人が外交技術の練達者であるのに鑑み、現在米國の最も必要とする印度關係の客觀的情報入手を期待する旨を述べてゐるが、政府筋と密接なる關係があると云はれる評論家アーネスト・リンドレーは、右派遣は從來の英側發表と相當懸隔があつた印度問題解決に資するものがあると説き暗にその政治的使命を示唆してゐる。

尙、フィリッパスは、十二月十二日、ニューデリー到着、大使の資格で印度政廳との外交的職務に當ることになつたが、畢竟同人の特派は米國側が印度の作戦的重要性を認め、従来よりも對印態度を積極化したものと見られる。

對西亞外交宣傳工作活潑化

エジプト、リビア方面よりのロメル軍の後退と獨蘇戦線に於ける蘇側反攻の進行等に依つて、西亞方面殊に土耳其に對する米英蘇の壓力は著しく加重したが、過般の米英軍佛領北阿上陸以來西亞方面に對する米國側工作は頓に活潑化した。即ち同方面に引續き兵力を増派すると共に、イランには、米人財政顧問、食糧省顧問等を任用せしめ、アーサー・ミルホーチを首班とする財政使節を派遣し、又、最近更に中東銀行を新設、その支店をテヘラン、レバノンに設け、中東經濟局本部をカイロに、その支部をバグダッド、エルサレムに設置する等經濟工作を強化する旁ら、戰時情報局支部をイラン、イラク、レ

パノンに設置し、宣傳工作にも大童となつてゐる。

駐土大使歸任

駐土米國大使スタインハートは、二箇月に互る米國政府當局との打合せを終へ、十二月七日、アンカラに歸任した。

米加經濟協定成立

國務省は、十二月一日、米加兩國政府間に戰後經濟問題並にその解決に關する基本協定が成立した旨を發表した。

米亞通商協定發效

ルーズヴェルト大統領は、十二月十一日、去る十月十四日ブエノスアイレスに於て調印せられたアルゼンチンとの通商協定は一九四三年一月八日を期し確定的に發效する旨を布告した。

米伯ゴム協定調印

政府は、ブラジルの天然ゴム増産計畫につき、かねて

ブラジル政府と協議を續けてゐたが、十二月二十二日、兩國政府間に左の如き協定が調印された。

一、アマゾン地方の天然ゴム増産開發資金は武器貸與法に基き米、伯共同出資とする。
一、同地方の交通路を開拓するため各地に旅行基地を設定する。

一、ブラジル國內各州よりアマゾン地方に對し明年五月までに五萬人の勞働者を移入させ、更に明年末までに三萬人を追加する。

一、同地方で生産されるゴムはすべて米國政府においてこれを買付ける。

米葡新通商協定締結

ハル國務長官は、十二月二日、米葡兩國政府間に新通商協定が締結せられた旨發表した後、右協定は米國よりの石油供給と引換に製鋼用タンクステン鑛を含む軍需資源をポルトガルより獲得するものであると説明した。

英濠へ銀塊供與

英本國及び濠洲は銀塊不足のため豫ねて米國政府に對し、これが供與方を要請中であつたが、モーゲンソー財務長官は右要請に應じて兩國に對し銀塊借款をなす旨、十二月十四日、言明するとともに、他の反樞軸國が銀塊を必要とする場合は同様借款をなす用意ある旨發表した。

駐蘇大使館附公使任命

國務省は、十二月二十一日、前駐日大使館參事官ドーマンを駐蘇大使館附公使に任命した旨發表した。

對蘇ゴム使節團任命

ゴム統制官ウイリアム・ジェフアーズ十二月中旬の發表によれば、米國政府は今回蘇聯に對しゴム使節團を派遣するに決し、アーネスト・ピットマンを主理とする團員一行を任命した。

そして使節團の目的は蘇聯における人造ゴム製造状況を調査し、その化學的、技術的經驗につき各種情報を蒐

集するにあると言はれる。なほ主理ピットマンは現在インターケミカル會社社長であり、舊ゴム調整官アーサー・ニューホールの顧問であつた。

駐芬公使歸國

フィンランド駐米公使アーサー・シェーンフェルドは、十二月十八日ヘルシンキ出發、空路歸國した。

芬公使館の情報發行停止

政府は、十二月二十九日、在米フィンランド公使館に對し、同館がニューヨークで發行してゐた芬蘭情報の發行停止を要求した。

右につき、同日華府發デリー・メール特電其他によれば、右は、大東亞戰爭一周年記念日に際し、在芬日本公使館茶會に於て、ランゲル芬首相等が、日本の戰勝、米國の收北に對して乾盃したとの風説に對する嫌がらせ的な措置であると解せられる。

北阿經濟調査開始

戰時情報局は、十二月十七日、經濟調査團八名の北阿派遣にアルジェリア駐在米國總領事ロバート・マリーイ(アイゼンハワー司令部附司政長官)の公使昇格を發表したが、マリーイはルーズヴェルト大統領の個人的代表として北阿民需必要量に北阿原料資源入手の調査に當る趣である。

ダルラン暗殺事件に関する當局言動

佛領北阿傀儡政權主席ダルラン暗殺の飛報は米國朝野を驚愕させたが、官邊筋はその政治的影響を減殺するに努め、ルーズヴェルト大統領にハル國務長官も、夫々十二月二十六日の記者團會見席上、右は最も憎むべき卑劣な行爲であると批難した。暗殺の真相については言及せず、ハルの如きは、

「現在米國はアフリカ及び地中海制覇のため、樞軸軍と戦闘中で、然も戦況は未だ危機を孕んでゐることを忘れてはならない。」

と附言戒告した。

大統領ジョー將軍代表を引見

ルーズヴェルト大統領は、十二月二十九日、佛領北阿政權新主席ジョー將軍の代表者ベトアール將軍を引見した。

ド・ゴール訪米公表

ルーズヴェルト大統領は、十二月二十九日「戦ふフランス」首領ド・ゴール將軍の訪米を公表したが、同將軍は華府では聯合國の一軍司令官として取り扱はれ、佛國臨時政府首腦としての待遇は與へられない模様である。

米・リ兩國協定内容

國務省は、十二月三日、過般の米軍リベリア進駐に關し、リベリアの首都モンロヴィアにおいて同國政府との間に去る三月三十一日締結調印を了した協定の全文を公表した。要綱は左の通りである。

一、米國は今大戰爭繼續中リベリア國內の飛行場、要塞

地帯並に防備地域を独占的管理下に置く。

一、リベリア政府は右飛行場、要塞地帯等の主権を保持する。

一、米國政府はリベリア駐屯の米陸軍將兵並に一般米國民をその管理下に置く。

一、米國政府はリベリア政府に對し同國防衛に關する或種の援助を供與するとともに、道路の改修、新設並にリベリアの戰略的地位改善を計る。

なほ右協定に基き現在同國に駐屯してゐる米軍の主體は黒人部隊である。

エチオピアに武器貸與法適用

政府は、十二月一日、エチオピアが米國防衛上重要な地位にあるとの口實の下に、エチオピアに對して武器貸與法を適用する旨發表した。

外國領土局新設

政府は十二月三日國務省に外國領土局を新設し米國軍

隊の外國領土占領に伴ひ發生する問題中、非軍事的性質のものを處理せしめることとなつた旨發表した。

【一 般】

議會情勢概観

第七十七議會は、十二月十六日、開會後七百十一日目で閉會した。新議會は來る一月六日開會の豫定であるが、下院では去る十一月の中間選挙で與黨議員二二二名に對し野黨議員二〇九名となり、一方上院でも野黨勢力が略々同率の増加を示したので、新議會は行政権力抑制並に議會權威再主張の方向をとり、政府側の議會操縦は一層困難になるであらうといふことに、諸方面の觀測は略一致してゐる様である。

既に舊議會でも、タフト(共和黨)、ジョンソン(共和黨)、クラーク(民主黨)等は、十二月六日の上院で、開戦以來政府が當然國際條約として上院三分の二の承認を

得べき重大事項、例へば、二十六ヶ國宣言等に關して行政取極の形式で締結し、上院の権限を無視する傾向を小したことを非難したが、下院歳入委員會も、十二月十日、關稅法停止権限を大統領に賦與する法案を握り潰し、開戦以來初めてルーズヴェルト大統領の戦時特別権限要求を否決して、非協力的態度を示した。

共和黨動向

野黨である共和黨の動向を卜する二指針として注目された共和黨全國委員會委員長の選挙は、十二月七日、セントルイスで開催されたが、その結果アイオワ州辯護士ハリソン・スパングラが當選した。同人はウイルキー親近の傾向があるので、その當選はウイルキー派積極的主戰分子の保守的孤立派分子に對する政治的勝利と見る向が多いが、スパングラは國內的には明瞭な保守主義者で、ルーズヴェルトとニューデール政策とが嫌ひであると云はれ、又、その外交的意見は一般に孤立主義と

國際協調主義との中間にあると傳へられる。但しロンドン・タイムス特派員は同人を假面を被つた孤立主義者であると評してゐる。

尚、スパングラは、十二月十六日夜、共和黨が今後議會で大きな過失を犯さない限り、一九四四年の次期大統領の選挙には勝利を得るであらうと聲明した。

民主黨動向

與黨である民主黨議員中にも、ルーズヴェルトの物價安定政策その他に不平を抱くものがあり、一般に國債の急激な増加で國民に不安が生じた結果、議會筋でも財政緊縮の要望が昂まつたが、個人収入を年額二萬五千弗に限定した點については、與黨の中にも不滿の聲が多く、又、南部諸州の極端に保守的な民主黨議員は國內問題では殆んど共和黨との間に意見の懸隔なく、殊にルーズヴェルト政権の戦時經濟運営がニューデールの思想に支配されてゐる點では共和黨の大部分と同様に反對してゐる

る。そして、南部農業議員團の兩院に於ける勢力は強大であるため、新議會のキャスティング・ボートを握つてゐるこれ等議員の向背は注目されてゐるが、十二月十三日の外電によれば、南部及中南部諸州の民主黨有力者は、兩地域を結合して、強大な農業ブロックを結成するため奇々會合してゐる由である。但し、右はルーズヴェルト大統領の戦時農業對策就中農産物價格抑制に對する一反抗運動に過ぎず、アラバマ州知事デイクソンが南部諸州知事會議で警告したと傳へられる新獨立民主黨結成の第三黨運動に迄展開する可能性は少く、結局議會方面のルーズヴェルト大統領の權威は差當り甚しく動搖する可能性はないと認められる。

戦時情報局開戦第一年の成果報告

戦時情報局は、十二月六日、「國內戦線第一年」と題する報告書を發表、開戦第一年に聯合國は對樞軸國との生産競争に所期の成果を収め、樞軸國側長期間の準備を凌駕

し始めたが、前途には幾多の困難があると國民の奮勵を要望した。同書に記載された數字中の主要なもの左の通りである。

- (1) 軍需生産關係支出 四百七十億弗
- (2) 軍需生産額 飛行機四万九千臺、戦車及自動車砲 三万二千、高射砲(口径二十耗以上) 一万七千、商船八百二十万噸。
- (3) 軍需生産従業人員
 - 一九四一年末 七百万
 - 一九四二年末 一千七百万
 - 一九四三年末(豫想) 二千二百万
- (4) 一九四二年一月以降十月迄の租稅徵收額 一百三十億弗以上、同國債消化額三百三十億弗以上。

戦時生産局一九四二年報告書要旨

戦時生産局は、十二月十七日、一九四二年度報告書を公表したが、其の要旨は左の通りである。

「米國は一九四二年度に於て世界最大の平時商品生産國から世界無比の戦争器材生産國に轉換した。去る一月十六日戦時生産局が設立されるや、ネルソン戦時生産局長官は戦争の爲に最大生産を確保すべき絶対權限を賦與されて、平和産業から軍需生産への切替を強行した。其の結果自動車生産は中止、金屬使用工業の大部分は戦争繼續中閉鎖の止むなきに至つたが、武器生産率は上昇の一途を辿つて、三月には一九四一年十一月の二倍に達し、六月には三倍、年末には四倍以上に増加した。其の間、ゴムは不足し、鋼鐵、銅、アルミニウム等も生産額が増大したにも拘らず未だ不十分であつたため、民需生産が更に切下げられると共に、屑金屬回收其他諸種の資材活用手段が採られた。

かくして米國産業の戦時編成替と云ふ第一段階に成功した戦時生産局は、第二の段階として、各工場の最高生産能力を確保するため、原料及緊要資源の割當制度

を採用し、窮屈な經濟條件の下に生産管理の新組織を設定した。即ち戦時生産局は去る十一月初旬に發表せられた統制資材計畫(略稱CMPHコントロール・マテリアルス・プラン)に基き、鋼鐵、銅及アルミニウムを夫々責任ある政府機關に分配し、次いで政府各機關は自己統制下の製造業者に分配する事となつたが、右資材統制計畫は一九四三年七月一日以降資材割當實施上唯一の組織となるであらう。

一九四二年末に於ける米國戦時生産力は自餘聯合諸國並に全樞軸國の生産力を合計したものに等しく、全樞軸國の殆ど二倍の生産力を持ち、今や戦時生産の第三段階である經濟界の總動員及び企畫指導の統一に入らうとしてゐる。」

ガソリン統制を全國に適用

政府は、十二月一日午前零時を期し、從來東部十一州にのみ實施してゐたガソリン消費割當制を西部三十七州

にも適用し、自家用自動車ガソリンを一週四ガロンに限
定したが、右はガソリン統制に依り自動車タイヤ百萬噸
を節約せんとする目算に出たものである。

民需制限擴大

戦時生産局は、十二月二日を期し、靴墨、防臭劑竝に
頭髪用香水、化粧石鹼等を含む化粧品類製造のためのエ
チル・アルコール及びその合成物の使用に極端な制限を
附した。なほ十二月五日以降生菓子に使用する絞り出し
チョコレートの使用は禁止された。

萬年筆鉛筆類の製造節減

戦時生産局は、十二月七日、萬年筆竝に鉛筆製造の大節
減を行ふ旨發表、萬年筆は昨年製造高より三十五パー
セント、シャープペンシルは四十七パーセント、普通木
製鉛筆は八十八パーセントとそれぞれ減産を命じ、その
他消ゴム付鉛筆、萬年筆用インク入れ護謄袋等の製造を
禁止した。

運輸不足対策

ネルソン戦時生産局長官は、十二月二十日、國內運輸
機關不足対策として一般旅客貨物の輸送制限を一層強化
するべく考慮中である旨發表したが、他方イーストマン
運輸局長は不要不急の私的旅行を自肅する様全國的宣傳
を開始した。

食糧品統制強化

農務省は、十二月二十三日、近くバター、ラード、ヘ
ット等に對し割當制を實施する旨發表した。
ウイツカード農務長官は、十二月二十七日、罐詰、乾
燥竝に冷凍食糧品に對する割當制實施を準備中である旨
言明した。尙、戦時生産局十二月十日附發表に依れば、
一九四三年度一般罐詰類生産の約半額は軍需竝に聯合國
向輸出に振向けられる趣である。

銅貨回收

政府は、戦時中銅貨を回收し、錆ない鐵を代用する旨

十二月二十四日發表した。

沒收特許權全面的利用

政府は、露に敵國および敵國占領下の國民の所有する
特許權を續々収用したが、その數すでに五萬以上に達し
たので、爾來國內産業界と協議、沒收特許權の整理検討
を行つてゐるが、十二月十一日、ルーズヴェルト大統領
は、愈よ來る十二月三十一日以降軍需工業の各部門にわ
たり、有用なものはずべて自由且全面的にこれを利用して
しめる旨發表した。

人的資源委員會の權限擴大

ルーズヴェルト大統領は、十二月四日、人的資源委員
會委員長ポール・マクナットの權限を擴大、彼を綜合人
的資源委員會委員長に任命した。今回の措置によりポー
ル・マクナットは従來その管轄外になつてゐた徴兵局を
も管轄することになった。

一九四三年末軍需關係人員六千五百萬

マクナット人的資源局長官は、十二月二十九日、一九

四三年末迄に戦線、工場、農村等に於て戦争遂行機構内
に編入される男女總數は六千五百四十萬人に達すると言
明したが、統計局發表に依れば、一九四二年度米國人口
は一億三千三百九十六萬六千人で、一九四一年一月に比
し百三十二萬七千人の増加を示してゐる。

産業都市への人口移動顯著

軍需工業の殷盛によつて産業都市への人口移動は特に
顯著なものがあるが、統計局は一九四二年度における人
口の移動状況を十二月二十二日左の如く發表した。

△増加	
デトロイト	三十三萬六千(二割一分)
ワシントン	二萬三千百(三割五分)
シカゴ	十四萬九千(四分)
ロスアンゼルス	十三萬一千(九分)
セントルイス	九萬七千(一割二分)

△減少

ニューヨーク、ニュージャージー
三十六萬五千(三分)

二大労働團體和協成立

米國二大労働團體A.F.L.(米國労働總同盟)及びC.I.O.(産業労働組合)の和協委員會は、十二月二日、解決し得ない問題は政府の調停に委せると云ふ條件のもとに共同委員會を設置して、兩派間の主張の一致しない諸問題の解決を図ることに意見の一致を見たが、その活動の完全な組織統一を目指して今後も討議を續行することに決定した。右和協案はA.F.L.、C.I.O.各の執行委員會の承認を経て成立する譯であるが、今回の協定は實に一九三五年の米國労働運動分裂以來兩派の間に初めて成立した協定である。

労働爭議減少

戰時情報局は、十二月十日、一九四二年上十ヶ月間に

労働爭議によつて喪失された労働延日数は、雇傭数が増加してゐるに拘はらず、過去五年間平均に比し僅かに二八パーセントにしか當らない旨發表した。なほ右十ヶ月間に爭議のため喪失した延労働日数の月平均を過去に比すれば左の通りである。

爭議による喪失労働延日數

一九四二年度月平均 三九六、八八八日

一九四一年度月平均 一、七五四、〇〇〇〃

一九三七年度月平均 二、三六九、〇〇〇〃

一方工業(軍需及び平和工業部門における雇傭労働者は左の如くなつてゐる。

雇傭工業労働者數

一九四二年平均 三六、六二一、〇〇〇人

一九三七年平均 三〇、九〇〇、〇〇〇〃

十一月中の商船建造高

海事委員會は、十二月一日、十一月中の商船建造高は

八十四隻、八十九萬一千七百噸で、一九四二年度累計は六百二十五隻六百八十九萬噸に上つたと發表した。

航空機製作狀況

フオード會社製作に係るコンソリデーターD二四型新大型爆撃機(重量二十二噸、航續力三千哩、時速三百哩)は十二月初旬現在續々政府に引渡されてをり、其の契約總額は四億八千萬弗に上る由であるが、米國最大の飛行機工場である同會社所屬ウィローバン工場は今春早々大量生産開始の豫定で、右新大型爆撃機生産は一九四三年後半期に於て頂點に達する豫定と傳へられる。又飛行機製作業者の巨頭グレン・マーチンは、十二月九日、世界最大の百十噸飛行艇を設計中である旨言明した。

鋼鐵生産狀況

ネルソン戰時生産局長官は、十二月二十三日、米國の鋼鐵生産狀況に就いて左の如く語つた。

「日獨伊の鋼鐵年産高は五千萬乃至五千五百萬噸と見積られるが、米國の年産能力は現在既に八千九百萬噸に達し、増産計畫完成の一九四三年半ば頃には九千七百萬噸を生産し得る。」

人絹生産増加

——米國ヴィスコス社發表——

人絹 スフ

一九四〇年 三九〇 八一

一九四一年 四五二 一一二

一九四二年 四七〇 一五五

(單位百萬封度)

新棉繰上高一、一七四萬俵

國勢局十二月下旬の發表によれば、十二月十三日現在新棉繰上高は一千七百七十四萬俵である。これは前年同期の九百九十二萬俵に比し百八十二萬俵の増加にあたる。備考(各年十二月十三日調査)

一九三八年	一一、四二二、一三九
一九三九年	一一、二七五、五五〇
四〇年	一一、四三三、〇〇〇
四一年	九、九二〇、〇〇〇
四二年	一一、七四〇、〇〇〇

一九四二年度米國農産物生産高

農務省十二月下旬の發表によれば、本年度における米

國の農産物生産高は次の通りである。

玉蜀黍	三、一七五、一五四千ブツシエル
小麦	九八一、三二七 同
(内、冬小麦七〇三、三三三、三三三ブツシエル)	
燕麥	一、三五八、七三〇 同
大麦	四二六、一五〇 同
裸麥	五七、三四一 同
亞麻仁	四〇、六六〇 同
米	六〇、三六三 同

大豆 二〇九、五五一 同

棉花 一一、九八二千俵

棉實油 五、七九〇千トン

乾草 一〇五、三二八 同

經濟諸指數

米國經濟誌ビジネス・ウィーク發表によれば、各日附に

終る一週間の米國經濟諸指數は次の通りである。

製鋼作業率(全能力の%)

十月十七日	十月十日	十月三日
-------	------	------

一〇〇・二	九八・六	九七・三
-------	------	------

自動車生産高(臺數)

一〇、二七五	一九、九三〇	二〇、八六〇
--------	--------	--------

新建築契約高(千弗)

二七、〇一七	二九、〇三八	二八、四五〇
--------	--------	--------

電力生産高(百キロワット時)

三、七〇二	三、六八三	三、七二〇
-------	-------	-------

原油生産高(一日平均、千バレル)

三、八五七	三、六八五	三、九〇九
-------	-------	-------

石炭生産高(一日平均、千トン)

一、八八九	一、八八三
-------	-------

百貨店売上高(各前年同期との比較)

中二%	中五%
-----	-----

ビジネス・ウィーク物價指數

二三四・七	二三五・六	二三五・〇
-------	-------	-------

工業原料價格指數(一九三九年八月一〇〇)

一五五・三	一五五・三	一五五・〇
-------	-------	-------

國內農産品價格指數(一九三九年八月一〇〇)

一八六・五	一八七・〇	一八六・三
-------	-------	-------

九十種株式平均指數

七四・五	七二・一	七〇・五
------	------	------

公社債平均利子(期限十二年以内のもの)

二・三四	二・三五	二・三四
------	------	------

一流商業手形割引率(期限四乃至六月のもの%)

1/8-1/2	1/8-1/2	1/8-1/2
---------	---------	---------

新海保料率

米國海上保險業者協會は、十二月二十一日、左の如く

米國と海外各港間との戦時海保料率を發表した。

一、米國-印度東岸間 二〇%

二、米國-印度西岸間 一七・五%

三、米國-アフリカ西岸間(但しロビト港以北) 一五%

四、米國-アフリカ沿岸間(但しロビト港以北西岸と地中海沿岸を除く) 一七・五%

五、米國大西洋沿岸-南米北岸及び西印度間 八・五%

六、メキシコ灣沿岸-南米北岸及び西印度間 六%

七、米國大西洋沿岸及びメキシコ灣沿岸-ブラジル及びアルゼンチン諸港間 二・五%

八、米國大西洋沿岸-南米西海岸(パナマ經由) 八・五%

九、メキシコ灣沿岸-南米西海岸(パナマ經由) 六%

十、米國西海岸—南米西海岸 三%
 十一、米國大西洋岸及メキシコ灣岸—カナダ大西洋岸八%
 十二、米國太平洋岸—カナダ太平洋岸二%

對外貿易額

商務省十二月下旬の發表によれば、十一月中の輸出額は七億八千九百九萬二千弗で前月に比し約八百萬弗の増加を示した。右數字中には米海外派遣軍向け物資積出額は含まれてゐないが、武器貸與計畫に基く海外積出は全部包含されてゐる。なほ十一月中の輸入は一億七千三百万弗と前月に比し約二千六百萬弗を激減した。一方十一月迄の累計についてみると輸出額は昨年同期累計に比し激増してゐる。これは主として輸出價格の昂騰に基くものとされる。

備考本年度輸出入額は左の通り(單位千弗)

輸 出	輸 入
一月	一、五六八、〇〇〇
二月	七八四、〇〇〇
三月	六八二、〇〇〇
四月	二三四、〇〇〇
五月	一、七七五、六七〇
六月	六三三、七四〇
七月	一、四三一、三三〇
八月	三六〇、五一〇
九月	七七六、九〇八
十月	一九九、三九二
十一月	七八五、〇九二
累 計	七、〇一九、〇〇〇
昨年同 期累計	四、四九二、〇〇〇
通貨流通高激増	三、〇〇二、〇〇〇

聯邦準備銀行十二月中旬の報告により通貨流通高月平均増加額をみるに、本年八月より十一月に至る四箇月間は月平均五億弗と前年同期の二億弗に比し著しい増加で、最近における急速な通貨膨脹振りを物語つてゐる。なほ十一月末における通貨流通高を過去二箇年に比すれば、

一九四〇年十一月末 八二億弗
 一九四一年 一〇六億弗
 一九四二年 一四六億弗

と連年著しい増加を示してゐる。又、十二月九日現在の通貨流通高は一四九億三千六〇〇萬弗で、十一月二十五日の一四六億四千八〇〇萬弗に比し、依然二億八千八〇〇萬弗の増加をみてゐる。

戦時公債一般賣出成績

米財務省十二月上旬發表
 本年七月 九〇一百万弗
 八月 六九七
 九月 八三〇
 十月 八一四
 十一月 七三四

一九四二年度國民所得

商務長官ジェツシー・ジョーンズは一九四二年度米國

國民所得額は現在のところ千七百七十億弗を超える見込である旨發表した。一九四一年度の國民所得額は九百五十億弗で本年度はこれより二百二十億弗も多い。

なほジョーンズ長官は生産及びサービスがなほ増加するものとみて、現在の價格水準で計算すると、一九四三年度國民所得は千三百五十億弗に達するものと見積つてゐる。

一九四二年度物價騰貴率

政府當局十二月四日の發表に依れば、一九四二年度物價騰貴率は前年度の三分の一に過ぎず、工業生産品の如きは三分の騰貴に止まつてをり、一九三九年八月より一九四二年十二月迄を推算しても一割九分騰貴したに過ぎなく、農産物は一九四一年十二月には平衡價格九割九分であつたものが、一九四二年十二月現在の平衡價格は十割である。

尙、十二月中旬のニューヨーク物價はオリウ油三オ

ンス五十仙、トマト一封度五十仙で、簡単なサラダを作る事も既に贅澤の部に入つたが、桑港の生活費は、ニューヨークよりも高價であると傳へられる。

買物熱旺盛

最近國民一般に食糧その他の配給統制を見越して買物熱旺盛を極め、殊にクリスマス前のニューヨークに於ては百貨店メーシーのみでも百二十五萬の華客が殺到、他の大商店も同様の混雑を示し、大衆は靴下、香水、食堂及喜用品、ラジオ、毛皮外套、葡萄酒、罐詰類等今買損へば再び入手し得ないかのやうに血眼になつて製ひかゝり買漁つた模様であつて、ウイツカード農務長官は、十二月十五日、議會に於て、

「一部買占者の爲に物價騰貴乃至物資缺乏が激發されるよりも寧ろ進んで統制切符を配布するに如かない。」と聲明した。

流言蜚語四千五百件

戰時情報局十二月一日の發表に依れば、一九四二年一月より十一月迄の間に流布された公安秩序に有害な風説は四千五百件に及んだ由で、政府では取締策としてホテル、料理店、官廳、新聞社及大衆の集會所等に諜報者を派して關係官憲に報告させ、係官は其の出所を突き止めると共に、必要な反對の噂を流布させ、且、日獨伊放送に對しては官憲は極めて強力な雜音を入れ、其の聴取を不能ならしめてゐると云はれる。尙、政府最近の統計に依れば、全米住宅の八割三分、二千九百萬戸がラジオを有し、國民大多數は戰況ニュースに關しては新聞よりもラジオに頼つてゐる。

年少者の心理兇暴化

戰爭は年少者の心理に深刻なる影響を與へて居る模様で、一般に年長者に對する尊敬の念喪失の傾向が顯著である。十二月十二日紐育發の外電に依れば、二名の生徒が教室で喫煙して居る所を教師に妨げられるや、ピスト

ルで之を射殺し、二名共二十年の重禁錮に處せられた事件があり、他にも學生の亂暴を恐れて教師が警察の保護を願ひ出でた實例がある由である。

英國

【軍事】

大東亞戰爭一周年

「チャーチル首相英領各地激勵」

チャーチル首相は、十二月七日、大東亞戰爭一周年記念日に當り、ルーズヴェルト大統領との間に對日徹底的攻撃に關する電報を交換したが、同時に遠洲國民に對して激勵メッセージを送り、又英領東亞各地に對しても、今や聯合國は各方面で攻勢に轉じたとの激勵放送を行つた。

北阿戰況に一喜一憂

チュニジア方面米英軍の進撃が停頓したため、英國朝野の焦燥は蔽ひ難いものがあるが、リビア方面で英第八軍がロメル軍を追跡、十二月十四日エル・アゲイラに入城、十二月二十五日ミストラク東方約三百軒のシルテに到着したことは、國民に多大の満足を與へた。

佛領ソマリランド進駐發表

外務省は英軍の佛領ソマリランド侵入に就き十二月二十九日午後次の通り發表した。

「エチオピア駐屯英軍司令官フォークス將軍とナイロビ駐屯「戦ふフランス」軍代表シヤンセルとは、十二月二十八日午前八時十五分、シエベルに於て佛領ソマリランド總督代理デユボン將軍と會見、佛領ソマリランドを擧げて「戦ふフランス」に参加する旨の協定に調印を了した。同協定は即時效力を發生する。」

北阿上陸作戰喪失艦艇十隻

アレキサンダー海相は、十二月三日、下院で、米英軍佛領北阿上陸作戦に際して、新鋭小型空母アヴェンジャー、驅逐艦二隻、その他艦艇合計十隻を喪失した旨發表したが、右アヴェンジャー型はアークロイヤル型よりも短時間で建設せられ、然も船団護送に非常に効果があるので、目下續々建造中であると云はれる。

潜水艦対策委員会設置公表

樞軸側潜水艦の活躍は英當局にとつては依然として最大の悩みで、普通二十五隻の船團は大型驅逐艦四及び小型驅逐艦六の護送を要するが、現在聯合國側約三千隻の船舶は、米英間三千哩、喜望峯經由スエズ迄一萬二千哩、アイスランド、ムルマンスク間二千哩其他多數の輸送路を毎日航行してゐる結果、完全な護送は到底不可能で、これら航路の一部乃至一定航路にのみ護送を實施する外なく、多數の船は無防禦のまま、樞軸側潜水艦の所謂「狼群式戦法」の前に曝すの已むを得ざる状態にある。かうした

空気を反映して、議會に於ても潜水艦対策が問題となつたため、チャーチル首相は、十二月十四日、下院に於て、去る十月大西洋戦争委員会（バトル・オブ・アトランティック・コミッティー）は潜水艦対策委員会（アンティ・ユーパー・オブ・アフェアー・コミッティー）と改稱され、左の構成を以て毎週一回會議を開催してゐる旨を公表した。

委員長 チャーチル（國防相の資格）

副委員長 クリッパス飛行機生産相

委員 リットルトン生産相、アレキサンダー海相、シンクレア空相、レザー戦時運輸相、

バウンド海軍軍令部長、ポーター空軍參謀總長、その他専門技術家若干名。

滑空部隊及び落下傘部隊司令官新任

英國陸軍省は陸軍參謀總長アラン・ブルックを新設英滑空部隊司令官に、又米英合同參謀本部英側代表ジョン・

チルを英落下傘部隊司令官にそれぞれ新任した旨十二月八日公表した。

英少年航空兵増強

英軍當局は目下空軍兵力の増強に努めてゐるが、更に十五歳から十七歳までの少年航空兵の充實を圖ることにあり、航空兵訓練所長官ウエークフィールドは、十二月十五日、左の如く述べた。

「航空兵訓練所では既に四分の三以上の訓練兵を英國空軍に送つたが、更に開戦五年目、六年目には、より以上少年航空兵を訓練する計畫である。現在訓練を受けてゐる者は二十萬人以上に達してゐる。」

空軍首脳部異動

政府は、十二月二十七日、中東空軍司令官テツター大將を空軍參謀次長に任命し、空軍戦闘機部隊司令官ダグラス大將を其の後任に任命した旨發表した。

各自治領兵力量發表

アトリー自治領相は十二月十五日、各自治領の兵力量を左の如く發表した。

カナダ 陸軍三十三万五千人、海軍四万五千人、艦船四百五十隻、空軍兵力十五万人

濠洲 陸軍兵力増強著し（數字不發表）、海軍三万人、空軍兵力十万人

ニュージーランド 陸軍海外派遣軍六万五千人、空軍兵力二万人

南阿聯邦 一九四一年末における陸軍兵力十四万人、空軍兵力四万二千人

南ローデシア 白人總人口七万人未滿のうち一千人は海外派遣空軍に編入せられた。

ニュー・ファウンドランド

二十歳乃至四十歳までの男子人口中四分の一は海外派遣軍に志願した。

戦費一日平均二千萬磅

大蔵省は、十二月九日、十一月二十九日より十二月五日迄の一週間の戦費は一日平均二千萬磅に上つた旨發表した。最近迄の戦費一日平均一千三百萬磅内外に比して一躍七百萬磅の増加は、主として佛領北阿戦線開設によるものと見られ、今後共、右二千萬磅程度以下に激減することはないと豫想される。

【外 交】

イーデン外相の世界再組織論

イーデン外相は、十二月二日、下院で戦後の世界再組織は英米蘇三大國の武力獨占並にその協調に基くことを必要とし、日本の全アジア支配意圖は絶対に排撃しなければならぬと述べた。

リットルトン對米交渉成果報告

リットルトン生産相は、約一ヶ月の華府滞在後、十二月五日空路倫敦に歸還、同十六日下院に於て、要旨左の

- 如く米國政府との協議結果を報告した。
- 「米英生産計畫の調和に關して、余は左の諸點に就き米國側の確約を得た。
- (1) 一九四三年度米英造船計畫は二千萬噸以上であるが、その中米國は一千六百萬噸を建造する。
- (2) 英本國最低限度輸入、在外英軍維持、英帝國各部分への緊要物資補給率の確保に關し、英國を以て米國船腹を利用させる。
- (3) 米英共同計畫を以て護送艦艇を建造し、且各自の分擔任務を考慮して右艦艇を配分する。
- (4) 米國側に於て戦時下諸條件の許す限り、完成された軍需品を英國陸軍の用に供する。
- (5) 英國生産に必要な原料及部分品を米國は可及的に供給する。
- (6) 英空軍並に海軍航空兵力の活力に萬全を期するため、米國は月々多數の各種飛行機を供給する。

右取極により米國の武器並に物資援助は、一九四三年度英國戦争運營能力の約三分の一を増加することとなつた。

佛領北阿外交機關擴充

外務省は、十二月十四日、佛領北阿アルジェに總領事館を、カサブランカ及ラバットに領事館を開設する旨を公表した。

マダガスカル島をド・ゴール派に委譲

イーデン外相と「戦ふフランス」首領ド・ゴール將軍との間にマダガスカル島行政に關する協定が締結せられ、同島行政はド・ゴール・ジャンテイオンム將軍に移管せられることとなつた旨十二月十四日發表された。

ダルラン暗殺事件に對する當局態度

佛領北阿政權主席ダルランは十二月二十四日暗殺されたが、英國政府當局は之を突發事件として取扱ひ、一切の言明を回避した模様である。

西亞方面情勢檢討

政府首脳部は春季に於ける東地中海戦局の進展を豫想して、トルコ其他西亞諸國に對する抱込工作に乗出さうとするもの如く、十一月末、ヒューゲッセン駐土英大使、カー駐蘇英大使は相次いでイーデン外相より英本國に招致され、ケーシー西亞常駐相も十二月十日倫敦に到着、右三者の報告を中心に戦時内閣に於て同方面情勢を鋭意検討したと傳へられる。

對重慶派遣議員團歸國

去る十一月一日重慶入りをした英議會派遣使節團一行は、重慶方面との交驛前線視察等の日程を終り、十二月十二日午後長明發、空路歸國の途に就いた。

【一 般】

クリスマスに際し英帝激勵放送

十二月二十五日の聖誕祭に當り、英帝ジョージ六世は



バッキンガム宮殿の書齋から恒例の放送演説を行ひ、英本國並に海外屬領國民に向つて戰爭遂行の激勵演説を行つた。

その要旨は左の通りである。

「最近反糧軸軍が收めた戦果は將來に對する余の確信を一段と深めるに至つた。余は今日の聖誕祭に當り我がの友邦である米國並にソヴェトの軍隊の勇戦に感謝と敬意とを拂ふものである。しかし今日までに我々の成し遂げた事業より更に困難な事業が我々の前途に横はつてゐる。

勿論現在の我々の結束は強固であり軍備も又完全な域に達してはゐるが、如何なる困難が前途にあるとも、我々は我々に與へられた任務の遂行に萬全を期さなければならぬ。そして我々は今次の戰爭に最後の勝利を收め、人類共榮の精神を復興し、平和の内に生活し得る様な状態を回復しなければならぬ。」

クリスマス買物熱旺盛

クリスマスが近づくと共に一般民衆の買物熱は旺盛となり、十二月十六日附ニュース・クロニクル紙の如きは、國民の濫買浪費を痛嘆してゐるが、戦前五志の玩具が現に十二志二片に騰貴してゐるにも拘らず忽ち買切れとなる有様で、買物節約のピラの如きは一向に相手にされず、兌換券流通高は十一月二十五日以来の三週間で三千八百萬磅を増加して、十二月十六日には九億八百萬磅に達した。

兌換券發行限度擴大

大藏省は十二月三日、從來九億磅であつた兌換券發行限度を十二月一日より九億五千萬磅に増加する旨發表した。

尙戰爭以來の發行限度擴張は今回で八回となり總額六億五〇〇萬磅に達してゐるが、第一回に際して三億磅方引上げられたのを除けば、一回につき大體五千萬磅の引上げだつたのに對し、今回は一舉七千萬磅引上げられ

たのは注目された。

靴製造に新制限令

政府は十二月中旬、靴製造に更に新制限を附する旨公布した。右によれば婦人靴は政府指定の二型式以外は製造禁止となり、又、運動靴、防寒靴の製造は特別許可を要することとなつた。

花柳病竝に結核患者激増

國內の花柳病竝に結核患者は最近著しい増加を示して、殊に花柳病は一九三九年度に比して約七割の増加と推定されてゐる。右につき十二月十六日附ロンドンタイムス紙は、右増加の原因は一部女子の飲酒の増加に起因すると述べてゐる。

社會保險制度調査委員會報告書公表

オックスフォード大學教授サー・ウィリアム・ビーヴァリツチを委員長とする社會保險制度調査委員會報告書は、十二月一日發表されるや、發賣後五時間で七萬部を

賣盡して、英國朝野の待望振りを反映したが、同報告書は、各種社會保險制度を國家の手に統合して老大な單一強制保險制度を設立し、貧民を一掃すると共に全英國民に最低生活を保障しようとする試案を公表したもので、右實現のため「社會保障省」の設置を提唱してゐるが、社會各方面は之を歡迎賞讃してゐる模様である。

但し同案實施に要する經費は第一年度六億八千萬磅餘で、その中政府支出は三億五千萬磅であるが、二十ヶ年後には約五億二千萬に達するため、戦後の英國が斯る負擔に堪へ得られるかどうかを指摘する向もある。同案は近く下院に上程されるが、議會討論は約三ヶ月間を要し、議會が本案を法律案とするのに賛成すれば、政府は或程度の修正を加へた後政府法案として議會に提出するとみられ、法律案としての審議は十八ヶ月乃至二十四ヶ月繼續されるものとみられる。

尙、同案發表當日、保險會社株は、倫敦株式市場で一

齊に暴落した。

食糧輸入船腹削減

ハドソン農漁相は、十二月十四日の下院で、従来英本國の食糧輸入に使用してゐた船腹を大量に削減して戦争資材輸送に轉用する旨を發表し、且つ現在食糧生産に従事中の女子農村隊五萬人を一九四三年度には之を倍加する旨を言明した。

ウールトン食糧相は、同日の上院で、今後米國よりの食糧輸入は、船腹節約のため、乾燥肉、乾燥卵、粉乳等の乾燥食料品に轉換されると聲明した。

老ロイド・ジョージ石炭問題に出馬

政府は、益々深刻化する燃料不足問題解決のため、十二月十六日、政界の耆宿たる老ロイド・ジョージを全國石炭委員會議員長に任命した。

軍需婦人労働者不足

ベヴィン労働相は、十二月十七日の下院で、軍需工業

婦人労働者の不足を補ふため、郵便配達その他特殊産業部門の婦人を之に轉用するに決定した旨公表した。

労働黨に共産黨が加盟申入れ

英國共産黨は、十二月二十一日、文書を以て労働黨加盟を申入れたが、右に關し共産黨書記長ハリイ・ポリツは、

「加盟が受諾されれば、余の同志は労働黨が次期年次大會で決定する凡ゆる事項を忠實に實行する。労働階級の團結は戦勝に偉大な役割を果す事は明である。」と言明した。

尙、英國共産黨は會て人民戦線華かなりし一九三九年労働黨に合同を要求して拒否された事があり、労働黨側の疑惑は相當根強いものと云はれる。

空襲による英國民の死傷統計

十一月二十八日附英誌エコノミストは、一九三九年九月開戦以來の空襲による英國民の被害數字を左の如く

發表した。

自一九三九年九月 至一九四〇年八月	死	者	重	傷	死傷合計
自一九四〇年八月 至同年十二月	二二、二八二	二八	五二二	五〇、八〇四	
一九四一年一月	二〇、八六三	二一	八三九	四二、七〇二	
一九四二年一月	一一四	五九	一七三		
二月	二四	二〇	四四		
三月	一一	一三	三四		
四月	九八七	一、〇四六	二、〇三三		
五月	三九九	四二六	八二五		
六月	二九三	三五八	六五一		
七月	四一一	八七一	一、二八二		
八月	四〇三	五〇九	九一二		
九月	二〇七	二三八	四四五		
十月	二二九	五七〇	五九九		
總計	四七、七二七	五六、二五一	一〇三、九七八		

尙十月の死者二二九名の内譯は次の通り。

男子	八〇	女子	九四	子供(十六歳以下)	五五	合計	二二九
----	----	----	----	-----------	----	----	-----

獨逸

大東亞戦争一周年

——ドイツ各紙記念號を發行——

大東亞戦争一周年を迎へドイツ朝野は過去一ヶ年間に於ける盟邦日本の赫々たる戦果に日本への信頼をいよいよ深めてゐるが、ドイツ各紙はいづれも寫眞入り、地圖入りで一周年記念の論說記事等を掲載、就中フェルキツシャー・ペオバハター紙は十二月六日の日曜版に一頁大の大東亞地圖を掲載、戦前の日本勢力圏と現在の占領地帯を黒と赤の線で示し、大東亞戦争一ヶ年の戦果を説明し、また週刊グス・ライヒ誌は三頁にわたり大東亞戦争の開始から現在に至る経緯を詳細に記載した。折も折米國海軍省が初めて眞珠灣の損害を發表したため日本大本營發表の正確無比なことが確認され、七日のベルリン各紙は

社説で米國政府の偽囁宣傳政策を痛烈に皮肉り、日本大本營の發表に全幅的な信頼を置く旨を強調した。

「前線銃後共に戦ひつつあり」

——ゲッベルス降誕祭メッセージ——

ゲッベルス宣傳相は十二月二十四日夜全ドイツ國民に對し恒例の降誕祭メッセージを送つて、國民竝に前線將士の士氣を鼓舞した。その要旨は左の通りである。

「ドイツ將兵は今年ほど本國から遙に離れ、懸軍萬里の異境に降誕祭を迎へたことはない。子供達は東方に、夫は西方に、兄弟は冷水閉ざす極北に、友は熱砂うづまく砂漠に戦ひつゝある。一方獨海軍は今や全世界の各水域にドイツ戦時の生活のための戦を續けてゐる。戦争は困難であり、すべてを戦争のために犠牲として始めて我々の大目的は達成されるであらう。國家が必要とする場合には假令それが如何に困難なことであつても我々はこの命令に従はねばならない。」

前線の將兵はいはずもがな、男子も、女子も、或はいとけない子供さへも、この國難に赴くのである。ドイツ國民の感謝の念は、擧げて今や家郷をあとに國難に赴き赫々たる勝利を齎したドイツ將兵に捧げられてゐる。現在戦争がドイツ國境を遙かに越へて行はれてゐるのは總統の天才とドイツ將兵の勇武並びに祖國愛とに負つてゐる。戦争の最中、ドイツ國民がよりよき將來への前進の暇々に、靜かに回想すべき一瞬もあるべきだ。そして今宵はドイツ國民にとつてこの靜觀の一時である。今宵こそは我が將兵も我々と共にこの一夜を祝福するであらう。彼等は既に三年半の長きに互つて祖國のために戦つたのであり、更に又勝利の日まで戦ひ續ける決意をしてゐるのである。世界史に未だ會て見られなかつたほど勇武な我が將兵は、今や如何なる強敵も打破することの出来ないやうな鐵壁を我々の周圍に形成しつゝある。己が子を祖國に捧げて悲嘆

にくれるドイツの母達は彼女達の子供を大死させたのではないことを確信してゐる。異郷に戦ふ將兵諸子よ、本國は決して御身等を見棄てるやうなことはない。數百萬の勞働者農夫、智能勞働者及び特にドイツ婦人は銃後を守るために今や決然起つて戦ひつゝある。前線においても、銃後においても、戦ひは續けられてゐる。勤勉なドイツ國民は勇敢にその生存戦を戦つてゐる。戦ひは我々に押しつけられたのである。我々はこの戦ひのためにあらゆる力を注ぐであらう。

ドイツ國民の大きな犠牲は決して無駄なものではなく、そして我々の目的が達成された時に終るのであらう。余はこゝに降誕祭の挨拶と共に我々の總統の感謝の言葉を全世界のドイツ人に送るものである。我々は惱める蒼生に勝利を、苦しめる人類によりよき平和を與へるまで戦ひを放棄することはない。そしてヒットラー總統がこの平和に我々を導いて行くであらう。」

獨逸通商協定調印

ドイツ、ブルガリア兩國代表は、十二月一日午後、ソフィア市ブルガリア・ナショナル銀行に於て、兩國間の通商協定に調印した。同協定は一九四二年十月一日から一九四三年三月三十一日に至る短期間取極めて兩國の物資交換を目的として居る。

獨逸通商協定調印

イタリア代表ジアニ大使竝に軍需相ファヴァグロツサ將軍は、十二月六日以来ベルリンにおいてドイツ外務省のクロデイウス通商局長と連日會見、一九四三年における獨逸兩國の經濟合作案につき協議を重ねてゐたが、十二月十六日に至り協定成立し、クロデイウス局長とジアニ大使との間に調印を了した。右協定に基き獨逸兩國政府は戦時經濟の分野における合作を一段と強化し、特に兩國間における重要原料資源竝にその他の生産品の交換を増加するに決定した。

獨西通商協定調印

獨西兩國間の通商協定は十二月十七日スペイン外務省においてドイツ大使フォン・シュテレーンとスペイン外相ホルダナ伯との間に調印を了した。

獨伊佛三國會談發表

總統大本營は、十二月二十日夕刻、次の通り獨伊佛三國會談の會談を發表した。

「ヒットラー總統は、十八、十九兩日にわたり大本營に於て、イタリヤ外相チアノ伯、イタリヤ參謀總長カザアリエロ將軍と會見し、獨伊兩國の協同作戰遂行に關する一切の問題につき會談を遂げた。右會談には最高國務會議々長ヘルン・ゲーリング將軍、外相フォン・リッペンントロップ、國防軍總監カイテル元帥も列席したが、特に會談は樞軸兩國の友好的精神に基き協議の結果一切の問題について完全な意見の一致を見た。ヒットラー總統は、更に十九日チアノ伯列席の下に、フラ

ンス首相ビエール・ラヴァルと會見、長時間にわたり佛國刻下の重要問題について協議を遂げた。」

獨伊佛三國會談の意義

—外務省當局見解發表—

獨伊佛三國會談の會談についてドイツ外務省當局は、十二月二十二日正午、記者團との會見において次の通り言明した。

一、今回の會談の結果は極秘に附されてゐるが、右會談において廣汎な軍事上、政治上の一切の懸案が検討されたことは言ふまでもない。會談後發表された公報においては、特に獨伊兩國首腦の間の戰友的關係に友好的な精神が強調されてゐるが、以上の寒圍氣の裡に一切の懸案について兩國代表の意見は完全に合致した。一、今回の會談においても飽くまで戰爭を完遂する決意と樞軸國が最後の勝利を收めるとの信念が一切の協議の基礎となつてゐるが、以上の根本的な立場から出發

して、今回の會談では今後の作戰計畫が考慮された。勿論赤軍に對する攻撃が樞軸作戰の決定的な方面であることは従來と變りがないが、戰局の現狀においては地中海の戦ひとボルシェヴィズムに對する戦ひとは一體不可分の關係にあり、地中海の戦ひに對する方策が協同作戰の重要因子となつたことはいふまでもない。東部戦線と地中海の兩戦線における作戰計畫を互に調整することが樞軸作戰の眼目である。

一、既に公報において發表された獨伊兩國首腦の會談の外に、兩國の陸海空三軍専門委員は個別的に協議を遂げた。専門委員の協議は十二月十八、十九、二十日の三日間にわたつた。

一、最近獨伊兩國軍司令部の發表には樞軸軍が守勢に立つてゐることを述べてゐる例が少くないが、全般的作戰の上ではこれ等の守勢作戰は重大な意義なく、作戰の主動性は依然として樞軸軍の掌中に確保されてゐる。

一、ラヴァル佛首相は國內において思ひ切つた政策に乗り出し、更に樞軸との間に極めて緊密な關係を確立したい意向だが、今回ヒットラー總統並にチアノ伯との會見でラヴァル首相今後の活動に對する心理的な前提條件が指摘つた次第である。

伊太利

大東亞戰爭一周年

—伊國各紙日本の戰果稱揚—

大東亞戰爭一周年に際して伊國各新聞は十二月六日より漸次日本關係記事を増加し、七日より八日に互り、何れも紙面第一頁の大部分を割き、帝國陸海軍綜合戰果を掲載すると共に、一齊に論説を掲げ、米英の對日包圍政策に對し忍耐の極を盡したのち終に驟起した日本が、敵の機先を制して眞珠灣に大戰果を擧げたのは、その古武士

の慣ひに従つたものである、と述べ、その戦果が偉大でしかも發表の正確なことを讚美し、日本の勝利は結局伊太利の勝利に外ならないことを強調しつつ、米國は今や世界の各方面に於て英國の勢力を横領しようとしてゐるが、米國こそ日獨伊の「第一の敵」であると論じた。

「任務は只戦ふことあるのみ」

——ムツソリーニ首相獅子吼——

ムツソリーニ首相は十二月一日午前フアシスト組合緊急會議に出席、全閣僚並びに組合代表を前に前後一時間半に亘り世界戦争の現段階につき檢討を加へ、イタリア國民に對し戦争完遂の決意を要請した。演説要旨は次の通りである。

「茲に過去三十ヶ月に亘る世界戦争の推移を檢討したいと思ふが、世界戦争を誘致した責任はルーズヴェルトにあり、同時に蘇聯が厄大な戦争準備を繼續してゐた事實も見逃すことは出来ない。また米英兩國政府の挑發

力を知らず

上御一人を現人神と崇めるのみならず、戦に斃れた英靈をも神として祀る日本の精神的機構を全然知らなかつたのである。かくの如き精神力を有する國民を破ることは至難といはなければならない。

更に、反樞軸軍佛領侵入の企圖は佛領植民地に駐在する米國人並びにフランス人裏切分子の策動に徴して事前に豫見されてゐたが、反樞軸軍の上陸と同時に余は直ちにヒットラー總統に對しフランス全土並にコルシカ島の占據を示唆した。エジプトにおけるエル・アラメインの戦勝だけが英國の誇り得る唯一つの勝利であらう。英空軍はまたイタリア諸都市に爆撃を加へてゐるが、實情調査の結果、英空軍が専ら住宅地區に首爆を加へてゐることが確認されるに至つた。

開戦以來敵空軍並に海軍の襲撃による一般市民の死者は、死者千八百八十六名、負傷者三千三百三十二

に對し、日本軍は隱忍自重、しかも最後の瞬間に至つて決然起つや米英兩國軍に對し惨敗を喫せしめた。ルーズヴェルトは眞珠灣の敗戦を記念し十二月七日を國恥記念日とする旨を述べたが、何れにせよ、日本は難攻不敗の地位にあり、日本政府の参戦により樞軸の勝利は絶對的に保證されるに至つた。見よ、日本政府が一度参戦すると共に、東亞における英國の一切の地歩は紙の樓閣の如くに崩潰し去つたではないか。イタリアと同様持たない國であつた日本は世界一とはいへないまでも少くとも世界の最も豊かな國のうちの兩國となつた。日本國民の高邁な國民性に徴すればこれは當然のことであるとイタリア國民は確信してゐる。日本軍連戦連勝の戦果は定に驚嘆すべきものあり不遜な米國人の誇は連日叩きのめされてゐるではないか。三週間、長くて三ヶ月で日本を片付けて了ふと放言した豫言者は今何處にありや。これらの豫言者は夢にも日本の戦

名で、内十月二十三日以降現在までの死者は八百三十八名、負傷者は九百九十四名である。尤も右數字の中にはゼノアの防空壕における死者を加算してゐない。以上が真相の全部である。イタリア人は米英兩國人のやうに嘘に慣れてゐない。また開戦三十ヶ月間におけるイタリア軍の犠牲は戦死四萬二千九十九名、内三萬六千六百二十九名は陸軍、二千六百六十八名は海軍、一千四百二十二名は空軍の犠牲である。また陸軍は八萬七千四百九十九名、海軍は三千五百九十九名、空軍は千六百二十名の戦傷者を出した。捕虜は合計二十三萬五千七百七十八名で、内陸軍は二十一萬五千五百十二名、海軍は一萬一千二百八十四名、空軍は五千九百八十二名である。行衛不明は合計三萬三千七百十三名、内陸軍は二萬五千二百二十三名、其他は海軍並に空軍である。通商破壊戦においてイタリア艦隊は敵商船百六十七隻、合計百二十一萬五千八百二十一噸を撃沈、敵艦艇

百四十隻三十三萬八千九百六十八噸を撃沈した。敵軍のために撃沈されたイタリア軍艦艇は百六十二隻二十二萬七千八百八十二噸に達した。またイタリア空軍は敵の各種艦艇六十六隻、商船百十七隻、商船の合計噸數八十八萬二千三百三十噸を撃沈したが、敵艦艇のうち二十隻は巡洋艦、十八隻は驅逐艦である。敵空軍の撃墜は確實なるもの千八百隻、ほぼ確實と認めらるゝもの百九十隻である。現在イタリア國內で抑留されてゐる英軍捕虜は將官二十一名、其他の將校二千三百七十六名、下士官其他の兵卒三萬二千七百四十七名であるが、現在イタリア本國に護送されてゐる英軍捕虜を加算すれば合計は將官二十一名、將校二千四百十二名、下士官其他三萬九千八十七名とならう。更に各國軍の捕虜を合計すれば將官二十九名、將校四千三名、下士官其他六萬九千六百六十九名に達する。イタリア人捕虜に對する英國官憲の扱ひは一部を除いて極めて非人道的

で、多數は野蠻にも殺害され乃至は飢ゑる儘に放任されてゐる。所謂英國紳士からクキシードを剝ぎ取るならば、諸君はそこに嘗つてシーザーとクロディウスとによつて征服された原始的な野蠻人を見出すであらう。現在の戰爭においては、銃後と前線との區別はなく唯一つの戦線があるのみである。開戦の當初に於ては都市から農村に退避するやう國民諸君に警告したが、當局は防空について新たな措置を講ずる方針であり、またドイツ政府は多數の高射砲を輸送してくれる豫定であり、イタリア軍の高射砲と相俟つて敵空襲部隊を撃滅する方針である。チャーチルはイタリア國民の士氣を云々してゐるが、イタリア國民の堅忍不拔の精神が英國人またはロシア人に劣るとは斷じて信じられない。チャーチルはまた余が佛國を背後から刺殺したと非難してゐるが、イタリア政府は既に一九四〇年六月五日參戰を考慮したのであつて、ドイツ軍司令部が作

戦上の理由に基き參戰を六月十日まで延期するやうイタリア軍司令部に要請したのである。フランス軍に對する獨軍の勝利があつたやうに電撃的であらうことは何人も豫想しなかつたところであらう。現にイタリア軍が參戰した當時、アルプス方面のフランス軍は健在であり、戦局が地中海に移つたのちもフランス空軍並びに艦隊は極めて重要な戰團單位として嚴存してゐたのである。假にイタリア軍がフランス軍の背後を衝いたといふことが事實であるとしても、ガリヤ時代からメンタナの戦に至るまで、フランス人が前後百回に互つてイタリア國民の背後を衝いてゐることを想起すべきである。チャーチルは亦余個人の人身攻撃に惡口雜言を弄してゐるが全く取るに足らない。チャーチルは名門の出であり、余は鍛冶屋の息子に過ぎないが、しかも余はチャーチルに比し無限に優越してゐることを確信する。

更にイタリア軍將兵の忠勇に關しては既に友軍ドイツ軍將兵が認めてゐるところで、何人も疑念を挟むことは出来ない。イタリア軍將兵が陸に海に一度出撃するとき、その勇氣と忍耐と叡智とは世界最良の軍隊に比肩するといつても過言ではない。またイタリア國民はファシスト政權の樹立に先だち、チオリテイ並びにオルランド等が政府を牛耳つてゐた當時から國外に發展することを禁じられてゐたために、その國民性は殆んど世界に知られてゐない。特に米英兩國人はイタリア人の一致團結を好まず、何時までも從順、且つ卑屈な人類として取扱はうとしてゐる。米英兩國人がファシスト政體の樹立に先だちイタリア國民に對して友情を持つてゐたといふ如きは事實を誣ふるも甚しい。獨りイタリア人とその他の歐洲各國人との間だけでなく、イタリア國民自身を離間しようとして人種差別的法令を實施したのは米國政府ではなかつたか。またイタリ

ア國民はカラチオロ提督を絞刑に處したネルソンのことを忘れることは出来ない。敵を憎むことなくして戦争を遂行することは出来ないが、今野蠻人と暴戻飽くなき敵に當面して、國民は一切の感情を清算しなければならぬ。イタリア國民が専ら藝術に専念してゐるに過ぎないといふが如きも甚しい誤解で、貴族から一般大衆に至るまで極めて優秀な民族である。又、戦時にも拘らず享樂に耽つてゐるといふが如きは全く笑止の限りといふべく、種々の流言にも拘らず國民は今回の戦争が絶対に避け得なかつたことを承知し、戦争の必要を完全に諒承してゐるのである。イタリア國民は、地理的に、政治的に且つ精神的に全世界を改革しようとする大業に参畫することを誇りとしてゐる。余は戦局の將來に就ては一切の豫言を差控へるであらう。今や二つの世界の間には大懸りな戦闘が續けられてゐる。任務は只一つ戦ふことである。獨伊兩國は唯一つ共同の

大義のために戦つてをり、兩國民間の親交が日を逐つて致きを加へてゐるのは同慶に堪へない。敵はファシズム打倒を企圖してゐるが、彼等の所謂ファシズムとはナチス、フアランヘズム、其他舊體制から脱却した一切の國家並びに民族を意味するのである。チャーチルの所謂「バックス・ブリタニカ」(英國的泰平)はヴェルサイユ體制を百倍も悪化したものであるといふことをすべての人が充分銘記しなければならぬ。英國人は全世界を印度化するために今回の戦争を開始した。英國人は一日五回の食事を食べるために全世界を奴隸化しようとしてゐるのである。われ／＼は獨り生きんがために戦つてゐるだけでなく、戦場に斃れた將兵の犠牲が無駄にならないやう、戦役將兵のために戦はねばならないのである。戦役將兵はイタリア國民に對し最後の勝利を収めるまで戦ふことを命令し、われらはその命令に従ふのである。」

全國民の産業總動員發令

ムツソリーニ首相は十二月八日を期してイタリア全土における大小あらゆる産業に對して全國民を動員する法令を發布した。イタリアは参戦直後軍需産業に對する動員を行つて以來電氣事業、ガス産業、水道事業及び新聞事業にもこれを擴大して來たが、今回の動員令は全産業に對して十四歳から七十歳迄の男子及び十四歳から六十歳迄の女子を動員し得ることを定め、結局イタリア全市民を軍律及び軍規の下に置かんとするものである。尙右法令の適用を受ける會社数は全國を通じ十五萬四千、その使用人總計四百萬人となつてゐる。しかしして爾後各産業に就役するものは政府の特別許可書なくして現職を去ることが出来ず、命令を以て他の職場に移される迄生命すらも犠牲にして職を守ることが命令されてゐる。

十一月中伊軍損害

伊軍司令部は十二月十日附公報をもつて各戦線における十一月中の人的損失を次の如く發表した。

陸軍並にファシスト義勇軍	戰死	戰傷	行方不明
東阿戰線	四〇〇		
北阿戰線	三九三	五二九	二二、八四
東部戰線	一三三	三三七	一
バルカン	二五三	三二五	四六
海軍	一〇九	二六六	二四〇
航空隊	四八	七六	一四〇

無任所相を任命

反ユダヤ主義で知られるギオヴァンニ・ブレジオリは十二月十八日附で無任所相に任命された。

伊諸通商協定調印

一九四三年度のイタリア、ノルウェー兩國の貿易關係を規定する通商協定は十二月二十三日ローマにおいて調印された。

獨伊兩國間の通商關係緊密

ジオルナレ・デイタリア紙のガイダ主筆は十二月二

十三日附の同紙上に獨伊の通商關係の緊密性に就いて次の様な論文を掲載してゐる。

「獨伊兩國は單に政治、軍事上の協力に止まらず通商上でも物資の交流によつて緊密關係を維持してゐる。

兩國間に交換される物資の正確な數字は勿論ここに述べる譯にはゆかぬが、ドイツは今年イタリアに對して二百萬クイントル(一クイントルは約百キログラム)の馬鈴薯を供給することになつてをりその大部分は既に到着してゐる。又昨年イタリアはドイツから小麦百萬クイントルの供給をうけたが、今年は更に三百萬クイントルの小麦を送られることになつてゐる。一方ルーマニア並にハンガリアもイタリアに穀物を提供してゐる。ドイツはこの他にイタリアの軍需生産に必要な各種の原料燃料等を供給してゐるが石炭は特に多く、この爲めイタリアの軍需工業は殷盛を極めてゐる。この他ドイツがイタリアに供給してゐるものは、屑鐵、鐵

鋼、工作機械、織物類、武器彈藥等である。これに對してイタリアはドイツに野菜類、果實、チーズ、米、麻、絹クローム、煙草、酒類、ポークサイト、水銀等を供給してゐる。」

全國學童の爲にラジオ學校開設

イタリア國內の小學校は燃料節約のため二月二十日から休暇に入つたが、二月十五日迄の長い休暇開學を怠つてはならないとの建前から、イタリア文部省では右休暇期間内にラジオ學校を開始した。ポツタイ文相は、十二月二十八日午前のラジオ放送で、ローマ放送局を通じラジオ學校開設の挨拶を述べたが、全國學童は毎日午前中各學科の放送授業を各自の家庭で聴取し、質問があれば時時學校に赴いて受持の先生から教へて貰ふ仕組である。

蘇聯邦

蘇聯最高會議改選延期

蘇聯最高會議幹部會は、十二月九日附同幹部會令を以て、全聯邦最高會議議員の選舉を明年十二月迄一ヶ年間延期する旨十二月十日發表した。最高會議議員はスターリン憲法の規定に基き四年毎に改選されることとなつてをり、第一回の選舉は一九三七年十二月に施行され、第二回の選舉は昨年十二月に行はれることになつてゐたが、獨蘇開戦のため一ヶ年間延期されたもので、今回も亦時局多端に鑑み、更に一ヶ年間延期されることとなつた。

新將官一四三名

十二月九日の蘇軍大異動で一學に一四三名の新將官が出現したが、これは、去る十月九日最高會議幹部會の決定による赤軍政治委員制度廢止に伴つて、指揮系統の一元化を實現するため、従來の政治委員が夫々擔當する赤軍の官等と與へられたもので、その主なるものは左の通

りである。

一等政治委員國防次官

シヤデンコ

任大將

前赤軍中央政治局長

メヒリス

赤軍中央政治局長

シチエルバコフ

蘇聯情報局長

前赤軍中央政治局長

ザポロージェツツ

ロシア共和國民委員會議長

ブルガーニン

任中將(各通)

赤軍新軍旗制定

十二月二十一日附蘇聯邦最高會議幹部會令で、赤軍新軍旗が制定されたが、右は片面に録と土とを配して「我がソヴェート祖國の爲に」との標語を示し、他面には暗紅色の星を型取り部隊番號を記したもので、赤軍兵士の愛國心を昂揚し、祖國防衛に奮起させようとする帝政時代制度復活の一例と見られる。二十三日附ブラウダ紙論説も「聯隊旗の下に團結して戦ひ、聯隊旗に對し愛と尊

敬とを捧げたロシア軍隊の美しき傳統」を謳歌してゐる。

工場食糧自給策

政府は、食糧難緩和の一助として、工場労働者の自家用馬鈴薯及び野菜栽培を奨励、一九四二年初頭以來各労働者に一定の土地を割當て各工場毎に食糧自給策をとらせてきたが、聯邦人民委員會議は十二月七日更にこれらの割當られた土地を今後五年乃至七年間を限つて労働者の私有財産と認める旨公布し、この期間内に於て、當局者が労働者から土地を取上げ又は割當變更を行ふことを禁止した。

武器獻納金釐出十二億餘留

最近、蘇聯では武器獻納資金釐出に關する猛烈な促進運動が行はれてゐる。即ち十二月九日タムボフ州コルホーズ員が戦車獻納資金として四千萬留を、同十二日、サラトフ州コルホーズ員が飛行機獻納資金として三千三百五十萬留を釐出するや、各紙は右に關する兩州黨委員

會書記のスターリン宛報告書に之に對するスターリンの謝電を第一面に大きく掲げ、右は祖國に對する限り無き忠誠の現れであるとして絶讃し、他地方のコルホーズ員も之に倣ふ様に慇懃した結果、遂に全國的運動となつて、十二月九日より同三十日迄の釐出總額は十二億八百萬留に上つた。

ウラル軍需工業地帯化進捗

昨今蘇聯内での最大問題は、労働者及び工場設備の東方移轉問題と、穀物調達計畫であるが、就中前者に就いて、イズヴェスチヤ始め各紙共、

「蘇聯工業基地の東方移轉で、ウラルは重要な軍需工業地帯と化し、各種工場の擴張新設が盛んに行はれ、十二月四日には日産千四百噸のマグネシウム溶鑄爐の火入れがあり、同十二日には發電能力五萬キロワットのチェリヤビンスク新火力發電所が操業を開始した。一九四三年度中には熔鑄爐一、マルチン爐六乃至

八竣成の筈で、アルミニウム、ニッケルの生産も亦増加し、ウラルは巨大なる兵器廠と化した。」

と報じ、蘇軍は南方工業基地を喪失してもウラルがある限り何等痛痒を感じないと豪語してゐる。

又、十二月二十九日附のブラウグ紙は、ヤロスラフスキの「ウラル」と題する二頁に互る論文を掲げてウラルは今次獨蘇戦の勝利を決定すると共に、戦後に於ける蘇聯經濟復興に大なる役割を演ずるであらうと論じ、ウラル工業發展策として、油田及鐵道網擴張並に熟練工養成の必要を指摘してゐる。

佛蘭西

ペタン元帥獨軍代表と會見

情報省は十二月十日夜左の如く發表した。

「國家主席、ペタン元帥並にラウアル政府主席は十二月

十日フランス駐屯ドイツ軍總司令官フォン・ルントシュテット元帥と會見を遂げた。」

叛逆者の國籍剝奪

政府は十一月二十七日附官報を以てジョー將軍の國籍を剝奪したが、十二月一日夜官報をもつて次ぎの佛軍將校の國籍を剝奪する旨發表した。

- 代 將 ベトウアール
- ド・ゴアニール
- ド・モンサペール
- マスト
- 大 佐 バリール
- 中 佐 ジウス

又十二月十六日附官報を以て、佛領西アフリカ總督ボアツソン將軍並に西アフリカ佛軍司令官パウロ將軍の國籍を剝奪し財産を沒收する旨發表、更に十二月二十九日附官報を以て元空相ジャン・ベルジュレ將軍の國籍を剝

奪する旨發表した。尙、傀儡政權に參畫してゐるモロツコ總督ノグス將軍、アルジェリー總督シヤテル將軍に對しては十二月現在未だ國籍剝奪の舉に出てゐないが、ベタン元帥今回の聲明は兩將軍に對して傀儡政權から離脱しない限り、國籍を剝奪する旨を警告し兩將軍の善處を要請してゐるものと解される。元帥の聲明要旨は次の通りである。

「佛領アフリカ植民地を米英兩國軍に手渡した裏切分子は、予と協議の結果乃至は予の命令に基き行動してゐると僭稱し、彼等の行動が予の眞意と合致してゐるかの如く振舞つてゐるが、予は茲に最も嚴肅に彼等の主張を一切否認する。予は彼等に對し飽迄侵略に抗爭することを命令した。又彼等にして眞に戦ふ意志があればその手段には事缺なかつたのである。然るに彼等は養約を無視し、祖國の利益を犠牲に供して憚らなかつた。ダララ提督は嘗てフランス政府に重要な地位を占めてゐたが

故に、予の再三の否認聲明に拘らず同提督が國法に基く權限を行使すると僭稱した際には、多少の支持者を見出したのであるが、ジロー將軍の場合に於ては疑義の起る餘地が全然ない。同將軍には何等法律上の權限なく、従つてこれらの權限を行使すると僭稱する餘地は全然ない。予は茲にジロー將軍並びに同將軍に參畫する一切のフランス人に對し、予の權限を代行すると僭稱し、乃至予の氏名を使用することを嚴重に禁止する」。

ダラン暗殺さる

佛領北阿傀儡政權主席、ジャン・ダラン提督は、十二月二十四日、アルジェリーの高等辨務官事務所に於て、暗殺され、同二十六日、ジロー將軍が新主席に就任した。

ソマリランド侵入公報

情報省は英軍の佛領ソマリランド侵入につき十二月二十八日夜次の通り發表した。

「ド・ゴール派に屬する英國機一臺は二十七日ジブチ上

空に飛來、ド・ゴール軍がソマリランドに侵入する旨の傳單を撒布して市民に通告した。英軍並にド・ゴール軍は同夕刻シベロに到達し、ソマリランド主要要塞線の西南約三軒のプエ及びメガール基地を占據した。」

佛政府憤激

英軍が佛領ソマリランドに侵入し事實上同地方をその支配下に收めたとの報道に、政府當局は憤懣の情を表明し、十二月二十九日夜次の通り言明した。

一、英國政府は印度への通路を確保するために相次いでフランス領を掠奪し、今や最後の植民地たるソマリランドをも奪取するに至つた。

一、一九四〇年七月二十二日以来アングロサクソンのために掠奪されたフランス領土は一千百萬平方キロに及ぶが、フランス國民は必ず之等の領域を奪回して四千万五百万のフランス人を解放するであらう。

獨佛關係改善に一路邁進

ラヴァル政府主席聲明書發表

獨伊佛三國巨頭會談に出席後ヴィシーに歸還したラヴァル政府主席は、十二月二十二日夜、次の聲明書を記者團に發表した。

「ラヴァル政府主席がヒットラー總統並にイタリア外相チアノ伯と總統大本營に於て會見したことは近い將來に開始される獨佛兩國間合作政策の前提工作である。フランス國內に於ける道義の頹廢はダラン等の裏切によつて極點に達したがその結果フランス國民は一大苦難を嘗めるに至つた。フランス國民は今や道義の頹廢を清算し獨佛兩國間の關係改善に一路邁進せねばならない。ボルシェヴィズムに對する戦ひがフランス政府今後の政治的針路を決定するであらうが、今回ラヴァル政府主席とヒットラー總統との商議により獨佛伊三國間の忠實且つ緊密な協力が愈よ好望となつた。藏相ビエール・カタラ並に生産相ジャン・ヴィシエロン

も二十三日午前ヴィシーからパリに歸還する豫定である。

思想犯罪に特別裁判所開設

政府は十二月四日より共產主義並に無政府主義其の他の犯罪を處刑するため全国各地に特別裁判所を開設した。

ユダヤ人取締令を公布

政府は、十二月八日附官報をもつて、フランス國內在留ユダヤ人の居住制限に關する法令を公布し、特別の許可がない限り、ユダヤ人部落乃至現住所以外の居住を嚴禁した。法令違反の場合は一ヶ月以上六ヶ月の禁錮又は二百フラン以上一萬フランの罰金に處せられる。

尙、フランス國內におけるユダヤ人掃蕩は依然繼續され、十二月九日クレルモン・フェラン市では十八歳より五十五歳までの外國系ユダヤ人全部が逮捕され、即日強制労働所に送られたが、この種掃蕩手段は佛非占領地域内の

他の部分においても行はれるものと見られる。

稅收入増加

十二月下旬の政府發表によれば、一九四二年十月における佛國稅收入は八十三億三千萬フランで、前年同期に比し七億四千八百萬フランの増加を示した。因に一九四二年九月における稅收入は六十七億一千四百萬フランであり、十月迄の一九四二年度稅收入累計は七百三十八億八千三百萬フランで、前年同期に比し八十八億四千八百萬の増加であつた。右の中間稅收入は六千八百萬フランで前年に比し一億三千二百萬フランの激減を示した。

滿洲國

國民訓制定

政府は國民道德の基本たるべき國民訓を制定、親邦日本對米英宣戰記念日たる十二月八日を期し、國務院布

告を以て全國一齊に發表、廣く國民の間に普及徹底せしめたが、右國民訓は次の五箇條より成つてゐる。

國民訓

- 一、國民ハ建國ノ淵源惟神ノ道ニ發スルヲ念ヒ崇敬ヲ天照大神ニ致シ忠誠ヲ 皇帝陛下ニ盡スベシ
- 一、國民ハ忠孝仁義ヲ本トシ民族協和シ道義國家ノ完成ニ努ムベシ
- 一、國民ハ勤勞ヲ尙ビ公益ヲ廣ク隣保相親ミ職務ニ精勵シ國運ノ隆昌ニ貢獻スベシ
- 一、國民ハ剛毅自ら立ち節義ヲ尊ビ廉恥ヲ重ンジ禮讓ヲ旨トシ國風ノ顯揚ヲ圖ルベシ
- 一、國民ハ總力ヲ擧ゲテ建國ノ理想ヲ實現シ大東亞共榮ノ達成ニ邁進スベシ

滿洲國基本國策大綱發表

建國十周年を迎へた滿洲國では、國政全般に新構想を以て臨まんため、康徳九年四月武部總務長官を中心に、

第二期建設の根底をなすべき基本國策の作成に着手、數十回の審議を経て成案を得、十二月七日國務院會議に附議正式決定、大東亞戰爭記念日たる十二月八日「滿洲國基本國策大綱」として發表した。その主な内容は左の如くである。

(イ) 第一章「根本方針」においては、國體の本義を顯揚し、民族協和、國家的團結力を鞏固ならしめると共に、日滿共同防衛の本義に則り、國防國家體制を確立して大東亞共榮圈建設に寄與し、更に民業を振興し、民風民生の向上、國力の培養充實を圖ることを施政の根本としてゐる。

(ロ) 第二章「政治綱要」においては、國體の本義顯揚、國防體制の整備、民族協和の具現、外政の伸張、行政刷新の五項目の徹底を期してゐるが、中にも行政の刷新については、中央地方、行政機構の改革、特に總務廳中心主義強化等中央指導力の強化による行政の綜

合、統一化、その他事務の簡捷化、官吏錬成、綱紀肅正、人籍、地籍の整備等の實現を眼目としてゐる。

(ハ) 第三章「民生綱要」は、國民の錬成、厚生の伸暢、勤勞興國の實踐の三項目を擧げてゐるが、殊に文教の振興を期し、勤勞奉公制による青少年の錬成等、國民の錬成を圖る一方、保健衛生の改善、國民皆勞體制の確立を圖つてゐる點が注目される。

(ニ) 第四章「經濟綱要」においては、日本との綜合的經濟關係を基調とする國防經濟體制の完成を目標とし、特に基礎的産業の開發並に交通網の擴充に重點が置かれてゐる。

基本國策大綱發表に關する張總理談

基本國策大綱發表に當り張國務總理は十二月八日左の如き談話を發表した。

「我々は建國十周年の佳年を以て單に慶祝行事に終始せしむることなく、之を起點とし、國運の一大發展を

圖らなければならぬ。

茲に於て政府は過去十年の治績を具さに反省すると共に、既に建設された基礎の上に、將來に於ける國力の飛躍的發展の方途を策し、且徒に過去に泥まらず新なる構想の下に、愈よ建國精神を具現するの體制を整備するの必要を痛感し、夙に基本國策の樹立に關し慎重熟議を重ね來つた結果、其の成案を得、之を公表する運びとなつた。即ち向後、我國の依て以て進むべき國策の基本を汎く中外に闡明し、其の遂行に對する政府の確乎たる決意を明にする所以である。而して基本國策實行上當面の重點を爲すものは大東亞戰爭完遂に對する積極的貢獻であり、其の終局目標は我國永遠の繁榮である。國民は現下の重大時局に深く思を致し、東亞共榮の基礎確立の爲應能奉公の誠を竭し、以て時局突破に精進せられんことを切望して已まない次第である。」

康徳十年度豫算

康徳十年度一般並に特別會計豫算は過般主計處において原案の作成を終り、去る十二月十九日の臨時國務院會議に附議可決、二十四日參議府御前會議を通過したので同日弘報處から發表された。

一般會計豫算總計

(單位百万圓)

歳入	一、〇五五
歳出	一、〇五五
特別會計豫算總計(勤勞奉公隊新設により二十四會計となる)	約二、二四四
歳入	約二、二四四
歳出	約二、二四二

兩會計總計

歳入	約三、二九九
歳出	約三、一九七

物價停止令一年延長

滿洲國政府では十二月末日を以て期間満了の七・二五

物價停止令の實施期間を更に一ヶ年間延長することになり、十二月二十三日附を以て價格等臨時措置法中改正の件を公布、即日施行した。

鄭公使信任狀を捧呈

初代タイ國駐滿洲國公使鄭禹氏は、十二月七日午前十時官殿に參入、タイ國大攝政アチット殿下に信任狀を捧呈、更に同十一時半、夫妻同伴にて官邸にビン首相を訪問、着任の挨拶を述べた。

中華民國

「再び全國民に告ぐ」

——大東亞戰爭一周年汪主席聲明——

大東亞戰爭一周年を迎へるに當り、國民政府主席汪精衛氏は十二月八日「再び全國民に告ぐ」と題する聲明を發表、中國國民が友邦の大東亞戰爭完遂努力に協力し、以

て東亞保衛の使命を達成する爲には如何にして同甘共苦すべきであるかを説いた。同聲明の内容は左の通りである。(國民政府宣傳部譯文に據る)

「昨年、友邦日本が大東亞戦争を發動するや、國民政府は立ちどころに聲明を發表して、友邦日本と甘を同じうし苦を共にすることを決した。これ以來日本の海陸空軍は戦へば必ず勝ち、攻むれば必ず取り、百年以來英米が東亞に加へた侵略勢力は一掃して空となり、東太平洋及び南洋には再び英米の飛揚跋扈する餘地がなくなり、その植民地は東はフィリピンより西はビルマに至り、南はマレー群島及び蘭領東印度群島を包括して次第に喪失して俱に盡きた。これは一面から見れば英米侵略勢力の没落であり、他の一面から見れば東亞共榮圏の開始である。僅か一年の時間にして友邦日本が成就せることの大きは、一にこゝに至つたのであつて、深く慶賀すべきものである。しかして慶賀の際に友邦の前線

將士および銃後國民が鞠躬盡瘁して晝夜懈らず、艱苦卓絶の精神を以てこの空前偉大の事業をなしたことに念及すると、誠にその欽佩に勝へない。私は大東亞戦争一周年記念の際に於て先づ友邦政府及び前線將士、全體人民に對して深く慶祝と敬仰とを致すものである。大東亞戦争の勝利はすなはち東亞共榮基礎の奠定である。東亞共榮をして完全に實現せしめんとすれば、繼續して大東亞戦争の完遂に努力しなければいけない。私は友邦に對して敬意を致したる後に中國々民に向つて披瀝するところあらざるを得ない。我らは友邦日本と甘を同じうし苦を共にすることを決心した。しかしどうして甘を同じうし苦を共にするか、私は先づ同甘共苦の意義を次に述べてみよう。同甘共苦の意義について私は曾て農作を以て説明したことがある。耕耘の時には誰れも田畑にて汗を流して耕作し、辛苦を備さに嘗めるがこれが共苦である。ま

た收穫の時には皆が我が家の内に在つて新穀を食べて安飽することが出来るがこれが同甘なのである。これによつても必ず先に共苦があつて然る後に同甘があるのであり、共苦は現在の忠實なる努力であり、同甘は將來の確實なる希望であることが知られるのである。

野蠻民族は同甘共苦のあることを知らず、彼れはたゞ自らその甘を取り、しかして人に與ふるに苦を以てすることだけを知つてゐるのである。これによつて仇恨嫉妬及び殘殺なる行爲を生出する。文明民族はすなはちさうではない。消極方面よりいへば「己れの欲せざるところは人に施さずこと勿れ」であり、積極方面からいへば「己れ立たんと欲して人を立て、己れ達せんと欲して人を達す」である。これすなはち人と人との同甘共苦である。道徳からいへば、「善は人と同じくす」であり、生活状態からいへば「人と樂しみを同じくす」である。孔子は「人は獨りその親を親とせず、獨りその子を子とせず」とい

ひ、孟子は「人の樂しみを樂しむものは人亦その樂しみを樂しみ、人の憂ひを憂ふるものを人亦その憂ひを憂ふ」といつてゐる。東方道義の精髓は仁恕に過ぐるものないが、これは人と人との道徳信條であり、また人と人との同甘共苦でもあるのである。

人と人との關係より推して國家と國家との關係に至るに、功利主義の國家に於ては野蠻民族と同様であつて、同甘共苦なるものゝあることを知らないのである。例へば帝國主義の植民地に於けるは、たゞその努力と原料とを搾取して自己の享受に供することだけを知つてをり、その平時に於ては自ら至甘に處つて人を至苦に置き、その戰時に於ては人に強ふるに共苦を以てして決して人に許すに同甘を以てせない。許さしむるもたゞ言ふだけであり、前次大戰に英國の印度に於けるは、すなはち最も顯明なる例である。この故によつて印度人民が心を離れ徳を離れざらんことを欲しても出來ないのである。

以上擧げたところはたゞ人と苦を共にすることのみを知つて人と甘を同じうすることを知らない例である。しかししたゞ人と甘を同じうすることのみを知つて人と苦を共にすることを知らない國家もある。例へば前次大戰に或る國家は何らその能力を竭くして戦争を協助せざるに大戰の後に於ては却つて機會に藉つて利益を分蓄した。これらの利益は勞力を以て得たものでなく、少なくとも微微なる勞力を以て重大なる利益を獲取したものであつてかゝる利益は永く保つことは出来ず、甚だしきはこれによつて禍を賣(か)ふに至るのであり、かゝる例は枚擧に勝へないのである。

總じてこれをいへば、たゞ共苦を知つて同甘を知らざるは專慾であり、殘忍である。たゞ同甘を知つて共苦を知らざるは僥倖であり、巧を取るものである。前者は強國の犯し易き罪惡であり、後者は弱國の犯し易き罪惡である。その根源を尋ねればすべて功利主義によるのである。

。我らの東方國家は道義精神を以て四方の功利主義に替へんとしてゐるのである。人と人との道徳は仁恕であり、國と國との道徳も亦仁恕なのである。仁恕に本づいて以て國と國との同甘共苦を實行するのである。いはゆる共苦とはたゞに消極的に痛苦を分擔するのみでなく、かつ積極的に共に痛苦中に於て奮闘するのであり、たゞに至大の勇氣を以て痛苦を忍受するばかりではなく、かつ最大の努力を以て痛苦を解除するのである。いはゆる同甘とはたゞに甘を分つことを以て目的とするばかりでなく、共に最大の努力を以て不斷に甘を製造して共に享受することなのである。これが國民政府の同甘共苦を聲明せる最大意義なのである。

いま一步を進めてどんなにして同甘共苦するかを説明しよう。先づ心理方面に就いていへば、以前の抗戰心理は「抗戰するも亦亡び、抗戰せざるも亦亡ぶ。その抗戰せずして亡ぶよりは抗戰して亡ぶに如かず」であつた。

かゝる主張は悲觀より出發せるものである。この外には英米の援助、共產黨の合作といふ希望を夾雜してゐるが、これはすなはち迷惑せる心理である。和平運動ははじめにかゝる心理に對して改造を加へた。和平は國を救ふことが出来るので悲觀を用ふるを要せぬ。英米の援助、共匪の合作に倚頼するに至つては更に酖を飲んで渴を止めるものであつて、これは針鋒の相對せる心理改造なのである。大東亞戦争が發動するに及んで和平運動の心理は却つて更に一步を進めた。全東亞は已に生死存亡の關頭に臨んだのであつて、凡そ東亞に位する國家及び民族は東亞の同志とならざればすなはち東亞の叛逆である。國父が垂示せる大亞細主義は已にまた理想ではなくて目前の現實なのである。中國人にして國を救はんことを想はざれば止むが、若し國を救はんことを想へば、東亞保衛を除いては決して第二の道はないのである。東亞保衛はすなはち國を救ふ所以であり、救國と東亞保衛と

は一つの事であつて兩つの事ではないのである。以前は和平は國を救ふことが出来るから繼續して抗戰することを要しないといふだけであつたが、今は若し國を救はんとなればたゞ日本と同心協力して東亞を保衛することがあるだけとなつたのである。いはゆる繼續抗戰は英米に利用され、共匪の吶喊を助けるだけであつて、東亞保衛の觀點上に於ては叛逆行爲であり、救國の觀點上に於ては姦賊行爲なのである。かゝる心理の改造はこれを和平運動の當初に較べれば確かに更に一步を進めたものであり、また確かに國民革命の原始目的、中國人の本來面目なのである。かつかゝる改造せられたる心理は政治上、經濟上、文化上に應用されるのである。英米帝國主義の骨子は個人自由主義であり、政治上に應用すれば虚偽の民主主義となり、經濟上に應用すれば資本主義となる。しかして文化上には一切の文學より小説、映畫に至るまですべてこの影響を受ける。百年以來中國は深くその毒

を受けたので、國際主義はこれによつて興り、たゞ個人の享受を企圖して國家、民族が英米帝國主義の附庸となることを恤(うれ)へなかつた。共產主義のその基礎觀念は階級闘争である。政治上及び經濟上に應用するや階級觀念を以て國家觀念を粉碎し、民族團體は解散せられ、國家の力量は削弱せられたのである。若し國內にたゞ大資産階級と無産階級とがあり、両者が對峙せば害をなすことはなほ小さいが、若し國內の工業が発達せず、以上の兩者の對峙せる状態が顯明でないならば、すなはち國內に無數の階級を分出され、これを相互に仇視させ、相互に殘殺させて、その結果はたゞ土崩瓦解して共に盡くるに歸することがあるばかりであり、文化上はその影響を受けて一切の文學より小説、映畫に至るまですべて現狀憎恨を以て觀點とし、憎恨によつて仇視し、殘殺することはすなはち勢ひの必ず然るところなのである。二十餘年來中國は深くその毒を受け、東西南北到るところ人亡

び家破れ、白骨は邱をなした。西安事變の前後に到つてもなほ階級闘争の看板を民族統一陣線の封筒の上にかけて殺人放火のからくりを擴大したのであつて、これを言へば實に人をして痛心させるのである。東亞新秩序建設の意義は一面には英米帝國主義を掃除し、一面には共產主義を掃除して新たに道義を以て基礎とする局面を奠定するに在り、新國民運動はこの意義に基づいて更に具體的規定となし、狹義的國家主義より國家集團主義へ、個人主義より全體主義へ、私人資本主義より國家資本主義へと達したのであり、これは政治上、經濟上、文化上に於て精神、面目を徹底的に改造したものである。この偉大なる使命を完成するためには國內人士の合力を必要とし、同時に中日兩國人士の思想の交流を必要とし、思想の交流によりて目的の共同を馴致し、目的の共同によりて行動の一致を馴致するのである。相共に戮力して萬難を排除することに就いていへば共苦であり、相

共に提携して共に光明の大道を進むことに就いていへば同甘である。これは心理方面より同甘共苦の意義を指摘したものである。

更に環境方面に就いていへば、大東亞戰爭中に於ては日本は前線に立ち、中國は後方に位してゐる。中國は連年凋敝の餘、協力をいふと實に惶恐する。しかしながら後方の責任もまた忽視することをゆるさない。治安確立民生改善は國民政府還都以來の最大方針であり、また大東亞戰爭中後方に位する中國の最大なる任務でもあるのである。治安の確立に就いていへば消極方面に於ては共匪を肅清し、再び地方を騷擾すること能はざらしめ、積極方面に於てはなほ心理の改造に本づいて一般民衆に大義を明瞭にさせて各本位に就いて努力して工作させることである。凡ゆる目前の清郷工作および一切の治安工作につき友邦將士は百忙の中に於て我らに種々なる援助を與へ、我らまた一切の困難と危險を避けずに積極的に前

進してゐる。これは皆隨時に共苦を以て同甘を求める意義を表現してゐるものである。民生の改善に就いていへば、目前に於ける最大の痛苦は物資の缺乏、物價の飛騰である。我らは必ずこれらの痛苦の中に於て、それは免れることの出來ぬ痛苦であり、また免除することの出來る痛苦もあることを分析し出さなければならぬ。例へば全面和平がなほ實現せざるによつて生産の減退を致し、大東亞戰爭がなほ完遂されざるによつて交通の阻隔を致してゐるのであつて、これらの痛苦は免れることの出來ないものである。我らはたゞ共苦の意義に本づいて極めて大なる勇氣を以て承受し、かつ可能を盡くして生産を増加し、可能を盡くして交通を恢復し、可能を盡くして消費を節約し、我らはこれらの痛苦は皆に免れることの出來ぬ現象であるばかりでなく、かつ正に我らが承受しなければならぬ責任であることを認定し、緊張せる情緒を以て惡劣なる環境を克服することがあるばかりなので

ある。經濟機構の未だ完備せず、社會組織の未だ健全ならざること、及び人事方面、技術方面の種々なる缺點が未だ改善し得ざるに至つては、これらは免除することの出来る痛苦なのであつて、我らまたたゞ其苦の意義に本づいて自私自利の心を存せず、因循苟且の念を存せず、情面に徇(したが)はず、阻撓を避けて努力して缺點の修正を求めることがあるばかりなのである。かくして必ずよく各種の痛苦を次第に減輕して解脱に臻(いた)らしめることが出来るのである。總じてこれをいへば、これらの複雑なる問題は若し一貫せる精神がなくてはたゞ複雑の上に更に複雑を加へれば、方々に行き詰まり、方々から撃射されるだけであるが、若し同甘共苦の心理に本づかぬか、すなはち相照應し、相扶助して暇あらず、必ずよく複雑を變じて簡單とさせ得るであらう。これは環境方面より同甘共苦の意義を指摘したものである。

以上述べた如くいはゆる同甘とは中日兩國將來の共存

汪主席東條首相等と懇談

共榮を指すものであり、いはゆる共苦とは中日兩國現在の同心協力して一切の困難を克服しつゝあることを指すのである。全國同胞よ！ 知らなければならぬ、大光明は目前に在る。信念を堅定し、志嚆を揺がすな。同時にまた知らなければならぬ、たゞ努力してのみはじめて光明に接近し、光明に到達することが出来るのである。全國同胞よ！ 速やかに立ち上り、勇猛精進、刻苦耐勞の精神を以て中華復興、東亞保衛の使命を完成せよ。」

汪主席一行來訪

中華民國國民政府主席兼行政院院長汪精衛氏は、外務部長、周佛海財政部長、梅思平實業部長、林柏生宣傳部長並に軍事參議院長蕭叔宜陸軍上將等の國民政府首脳部を帶同、海船にて十二月十九日南京發訪日の途に上り、二十日午後一時五十分羽田飛行場に到着、直ちに宿舎たる麻布區廣尾町の大東亞迎賓館に入つた。

入京第一夜を明かした汪主席は、十二月二十一日、大東亞大臣官邸に於ける青木大東亞相主催の非公式午餐會に臨んだ後、同午後三時、外務部長、周財政部長等を帶同して東條首相を首相官邸に公式訪問、谷外相、青木大東亞相等も同席、約二時間半に亙り隔意なき懇談を遂げた。

汪主席宮中參入

汪主席は、十二月二十二日、畏き邊りより御贈與の大勳位菊花大綬章の略章を佩用の上、外務部長以下隨員を隨へて宮中に參入、畏くも

天皇陛下には中華民國元首としての汪精衛氏に御會見、御一年半ぶりに種々御敬談あらせられ、汪主席以下は、日華提携の上に寄せさせ給ふ大御心に感激しつゝ、宮中を退出、大東亞迎賓館に歸還した。

天皇陛下には汪主席退出後御答禮の御使として松平式部長官を汪主席の宿舎に御差遣あらせられ、この日の諸儀

滞りなく終へさせられた。

大東亞戰爭完遂に提携邁進

汪主席協力決意披露——
中華民國國民政府主席兼行政院院長汪精衛氏は、十二月二十二日、宮中退出後大東亞迎賓館に於て記者團と會見し、左の如き談話を發表した。

「昨年六月貴國を訪問せる際は貴國朝野より一方ならぬ敬待を蒙り、感銘今なほ忘るゝ能はざる所でありませぬ。今回の訪問に當りましては、再び

天皇陛下に謁し奉り、種々御殊遇を賜はりました上、最も榮譽ある勳章を贈與せられ、衷心感激の至りに堪へませぬ。

時局問題に關しましては、既に東條總理大臣を始め外務大臣、青木大東亞大臣と胸襟を開いて懇談致したのでありますが、その結果俱に今後兩國相提携し以て大東亞戰爭完遂に邁進せんとする方が闡明せられ

ましたことは、誠に欣快とする所であります。

大東亞戦争勃發以來、貴國陸海軍將兵が忠勇奮戰國威を發揚し、太平洋及び南洋における英米の據點を悉く粉碎するに至りましたことは、實に貴國の光榮である許りでなく亦實に東亞の光榮でありまして、戦争開始以來僅かに一年にしてその成果かくの如く偉大なるは誠に敬服に堪へません。

しかも貴國朝野はかかる連戦連捷にも拘らず、少しも驕れる氣持無く、前線における將士の奮戰と銃後國民の精進とは愈々その力を加へつゝあるのであります。貴國到着以來親しく朝野一致して意思を強固にし、職務に精勵し、隨所に貴國固有の精神を現はしつゝあるを見聞致しました。これこそ實にその勝利の決して偶然に非ざることを證明するものであると同時に、先進國のこの精神は實に東亞諸隣邦に絶好の模範を示すのであります。

大東亞戦争の勃發するや國民政府は直ちに同甘共苦の聲明を發し、爾來その責任の重大なるを痛感しつゝ、ありますが、如何せん疲弊の餘り微力にして何等貢獻し得ざるべきを憂ひ、奮然自己に鞭打ちて些かなりともその進歩を圖りもつて勞苦を分たんと期してゐる次第であります。これがため新國民運動を發起して全國に精神總動員を實行し、大東亞戦争の意義とこれに對する協力の必要とを認識せしむることに努力致して参つたのであります。かくしてこの一年の間着々準備を整へ漸くその端緒を得るに至りました。

大東亞戦争が第二年度の段階に入りました今日、貴國は第一には一年以來の戦果を確保し、第二にはさらに戦争目的完遂のため孜孜として努力を續けて居られるのであります。これすなはち大東亞戦争勝利の鍵であり、また大東亞共榮國建設の基礎でありまして、國民政府もその心力を竭して先進國に追隨せんことを

決心してゐる次第であります。

今回貴國政府に對しこの誠意を披瀝致しました處、賛同を得、かつ各種の協力問題に付全く意見の一致を見るに至りましたことは、自分としても喜びに堪へず、さらにこれを友邦國民諸君に告げてこの喜びを頌ちたいと存するのであります。」

汪主席滯京日程

汪主席は、十二月二十三日、大宮御所伺候はじめ各宮家に御挨拶をなし、引續き明治神宮、靖國神社参拜、又松平宮相、東條兼攝陸相、島田海相、杉山參謀總長、永野軍令部總長、原樞府議長其他政府要路を訪問し、同夜は首相官邸に於ける東條首相主催晩餐會に出席、更に翌二十四日夜には外相及び大東亞相主催の外相官邸に於ける晩餐會に臨み、二十五日には帝國ホテルに於て汪主席主催の茶會を午後四時半開會、主催者側から汪院長以下一

行、徐大使等、招待者側から東條首相以下閣僚、樞軸外交官等出席した。又、同夜、汪主席は周外交部次長の通譯で宿舎より「日本の皆様へ」と題し放送を行つた。

汪主席一行歸國

滯京六日間、訪日の重大要務を完了した汪主席は、褚外交部長以下隨員帶同、十二月二十七日午前十時福岡飛行場發の海鷗號に塔乗、同午後三時四十分南京飛行場に安着した。尙、國民政府は二十七日午後五時宣傳部を通じて次の如く發表した。

「本月十九日汪主席は行政院院長の資格を以て友邦當局と時局に就て協議し、本日午後首都に歸着、左の談話を發表せり『東京到着後友邦の歡待を受け感銘に堪へず政府各當局諸公と屢次懇談して意見一致し、國民政府の強化及び大東亞戰に對する協力を關し更に一步の發展を見たることを深く欣快とする次第なり』」



重慶政權

大東亞戰爭一周年の重慶現狀

在重慶UP特派員は十二月五日「大東亞戰爭一周年の重慶」と題し、重慶政權の苦境と米國の援助による重慶政權建直しを不可缺且つ急務なことを次の如く示唆してゐる。

「大東亞戰爭一周年を迎へて、重慶では、すべての軍事、政治、經濟等各機構の改革を要するとの批判が一般に起つてゐるが、右は重慶にとつて實に由々しい問題である。

第一、重慶軍は防備的訓練と精神力には燃えてゐるが、攻撃力は全く缺乏してゐる。これは過去五ヶ年間の防備にのみ執心してゐたため生じた重大な軍事的缺陷で、目下印度にある羅卓英麾下の重慶軍は米人將校の

訓練により根本的に叩き直されてゐる。

第二に、財政經濟的にみても、重慶の現狀は破綻に瀕し、産業は資本缺乏のため凋落の一途を辿り、外國製機械の輸入が不可能なため企業は全面的に停止してしまつた。これらは主としてビルマ・ルートの喪失が齎した致命的打撃に外ならないが、かうした原因によつて今や重慶の心臓部は停止の已むなきに立ち至つてゐる。現在重慶が躍起となつてゐる物價統制の如き施策も果してどれだけの効果を齎らすか、その結果如何は重慶の抗戦力にも影響するところ多大であるので注目されてゐる。」

米國の申譯的援將に不滿深刻

孔祥熙財政部長は十二月十四日、UP記者との會見に於て、米國は爆撃機其他各種武器を多數重慶に供給すべきであると力説し、併せて、ビルマ公路再開の急務を強調したが、在米著名評論家林語堂も、十二月十八日、

ニューヨークの夕刊紙ビー・エムに「忘れられた戦線」と題する一文を寄せ、米國に於ける其の文名を利用して、重慶政權の窮狀を米國輿論に訴へ、現在の如き申譯的な對重慶援助ではなく有効な援助を求めると述べた。更に林語堂は重慶と米國との治外法權撤廢交渉に當り移民法改正の重慶側要求を米國が拒絶したこと、及び米國の兵役法改正で在米華僑の多數が兵役に服する事となつたこと等に就いても米國に對して抗議した。又、豫て滯米中の熊式輝を首班とする重慶軍事使節團の離米が發表されるや、林語堂は、十二月三十一日、右歸國原因は、米國政府が英側の要求に従ひ獨逸打倒第一主義を採るに至つた結果、對日總反攻に於ける共同作戰協議の目的を以て渡米した熊等を冷遇したためであると暴露した。結局、米國側の援將が消極的であるため、重慶側に深刻な不滿があるものの、重慶側は、蟲を抑へて對米關係緊密化に努めてゐる現狀と見られる。

米に對日空襲を泣訴

重慶外交部情報司長邵毓麟は十二月十七日UP記者に對し、米空軍の日本本土の空襲を使嫉し、在支米空軍の強化を要望、對日空襲を哀願して次の如く語つてゐる。「今後六ヶ月内に日本本土を空襲しなければ太平洋戰爭は益々長期戦の様相を呈するであらうが、「空の要塞」等に依つて日本の最重要工業地帯を空襲すれば日本が再起不可能の大打撃を受けることは明かである。」

若し日本が、ドイツ工業地帯の東南部移轉と同様の處置を採つて、工業分散を完了したならば、空襲のみを以てしては到底日本工業を粉砕することは不可能になるであらう。故に余は米國がこの事態を認識して支那へ爆撃機隊を至急派遣するやう切望する。われわれは今日日本の最弱點を衝く絶好の機會に恵まれてゐる。今日を措いてかゝる好機は絶対に再來しないので

あらう。」

因に都はかつて横濱總領事を十年間勤務したことがあり、重慶部内有数の日本通である。

物價統制實施

十中全會は十一月二十七日閉會したが、同會議に於ける最大議題は、物價統制強化問題であつたと云はれ、重慶政權は、十二月十七日、行政院長蔣介石の名をもつて、中央及び地方の關係各機關に左記要旨を傳達した。

- (1) 來る一月十五日以降各種物價、工賃、運賃等に統制を實施する。
- (2) 統制價格は十一月三十日の價格を以て標準とする。
- (3) 統制實施は糧食、鹽、食用油、棉花、棉布、紙類等の民生必需品並に工賃、運賃に重點を置く。
- (4) 闇取引を嚴禁し違反者は主管機關に於て取締る外軍法に照し處罰する。

(5) 各政府機關は其の重要性を充分自覺し、本電命接到後、十日以内に之が措置を完了せよ。

經濟動員策進會組織

蔣介石は、物價統制實施の徹底を圖るため、十二月二十四日、國民參政會の重要分子を網羅した「經濟動員策進會」を組織して、自ら會長として其の指導監督に當る旨を發表した。

一九四三年度豫算

十二月上旬大公報の報ずる所によれば一九四三年度重慶政權歳入豫算は七十億元の見込みで、これに對し、歳出を百五十億元とすれば、歳入は支出の僅に半分に過ぎず、結局赤字公債を増發しなければならないので、財政當局は新課税を考慮中であると云はれる。而して歳入内譯は左の如くである。(單位千萬元)

- 直接稅並に營業稅八八、穀物稅三〇〇、土地所有稅二〇、專賣事業一七〇、鹽稅六〇、統稅二〇、酒類及

び煙草稅一〇、其他三二、計七〇〇

一方政府考慮中の新課税としては農業收入稅、超過利得稅、自由職業稅、土地不勞增價稅等が擧げられ、更に企業收入稅、財産利得稅、相続稅、酒類煙草稅、奢侈品等に對する統稅等の引上げをも考慮中である。

重慶人事異動

重慶政權は十二月七日夜人事異動を左の如く發表した。(括弧内は舊職名)

- 任 交通部 長 曾養甫(ビルマ公路局長)
- 任 宣傳部 長 張道藩(中央政治大學學長)
- 任 宣傳部 次長 程中行(監察院秘書長)
- 任 外交部 次長 吳國楨(重慶市長)
- 任 外交部 次長 胡世澤(前瑞西公使)
- 任 重慶市 長 賀耀組(行營主任)
- 任 行政院 秘書長 長厲生(前國民黨組織部長)
- 辭 職 張公權(交通部長)

辭 職 王世杰(宣傳部長)

右の中、重慶市長吳國楨及び前瑞典公使胡世澤が共に外交部次長に任命せられたのは、外交部を宋子文系で固めたものとして注目を惹いてゐる。

宋子文中國銀行董事長を辭任

宋子文は十二月上旬中國銀行董事長を辭任し宋漢章を董事長代理に任命した。なほ農民銀行董事長には鐵道部長張嘉璈が就任した。

胡世澤重慶着任

新任外交部常務次長胡世澤(前駐スイス公使)は、前在地より米國經由空路歸國の途につき、十二月二十八日昆明着、二十九日午前重慶に到着した。

雲南ビルマ鐵道建設計畫

新交通部長曾養甫(前滇緬公路局長)は十二月二十六日昆明に到着、雲南省政府當局と交通運輸問題に關し重要協議を行ひつゝあつたが、十二月二十八日記者團と會見、

「ビルマに於て豫期された軍事行動に伴ひ交通部は可及的速かに雲南ビルマ鐵道建設に着手する。」と述べ、滇緬鐵路の建設を明かにした。

馬步青ツアイダム赴任

滇に青海省ツアイダム屯墾督辦に任命された馬步青は、十二月二十七日督辦公署職員及び技術者百餘名を引率してツアイダム地區へ乗込み、督辦公署開設準備をなすとともに愈よ各種の調査を開始した。馬は去る七月ツアイダム屯墾督辦に任命されるや一應麾下部隊だけは同地區に移動せしめ、馬自身は蘭州に留つてツアイダム行を躊躇してゐたが、西北中央化工作に躍起となつてゐる重慶側の壓力を支へ切れず、遂に六ヶ月振りに赴任するに至つたものである。

佛 印

印度支那總督府會議

印度支那總督府會議はサイゴンに於て十二月十五日より開かれたが、ドクレー總督は開會劈頭佛本國ベタン主席に對する絶對忠誠を表明するとともに、過去一ケ年の佛印情勢に關する報告演説を行ひ、國境方面の情勢、對日友好關係の強化及び對タイ關係の常態化を指摘した。

日佛印經濟交渉進捗

十二月十三日サイゴンに到着した芳澤佛印特派大使は、十二月十四日午後七時(日本時間)ドクレー總督と會見、一般情勢に關し懇談すると共に佛印側對日積極的協力促進方を要望、また昭和十八年度經濟實行協定について日本側要求の全般的な説明を行つたが、右第一次會談に引續き二十四日午前九時ドクレー總督を官邸に訪問、二時間半に亘つて同總督と會談した。

佛印側もこの二回に亘る芳澤ドクレー會談に於て原則的にはわが方に積極的協力態度を示してゐるので、今後經

濟交渉はしめ日佛印間諸交渉の飛躍的な促進が齎らされるものとみられる。

タ イ

大東亞戰爭一周年ヒン首相祝辭

十二月八日午前十時三十分、ヒン首相はヴィチット外相並に陸海空三軍幕僚を帯同、我が大使館に坪上大使を訪問、大東亞戰爭一ケ年の赫々たる我が戦捷に對し祝辭を述べ、大戦第二年日も日泰友交條約の精神に則り益々兩國提携の緊密化を圖り以つて米英撃滅に邁進するとの決意を表明した。タイ國首相が我が大使館を訪問したことは今回が最初であり、しかも開戦一周年の今日これが行はれたことはタイ國の協力決意の強固さを示すものとして注目される。ヒン首相の祝辭は左の如くである。
「大東亞戰爭一周年記念日にあたり、余はタイ國政府

並びに陸海空三軍を代表して、日本の戦果並びに日本軍の忠勇武烈に對し萬腔の敬意を拂ふと共に、タイ國軍が日本軍に若干の協力をなせる名譽を深く喜ぶものである。今や日本は東亞からアングロサクソンの勢力を驅逐し、大東亞共榮圈建設のため戦ひつゝあるが、タイ國民は日本の目的達成を祈ると共に、日本に對して全幅的協力をなさんことを誓ふものである。最後に今回のタイ國の水害に對する日本の同情に對しては誠に感謝にたへぬが、タイ國民の士氣は水害によつて毫も衰へず、新アジア建設に協力しつゝある。」

議員任期延長公布

國民議會は、さきに議員の任期を二ケ年延長するため憲法修正案を可決したが、政府は十二月九日附の官報を以て右任期延長を正式に公布、同時にこの二ケ年間の任期延長期間後に非常事態が解消すれば何時でも改選を行ふ用意ある旨聲明した。

憲法發布十周年

十二月十日はタイ國憲法發布十周年に當るので、タイ國では全國一齊に國旗を掲揚、この日を祝つたが、坪上駐泰大使は大要左の如きメッセージを送つた。

「タイ國の憲法制定は内政改革であつたが、この間英、國は舊政權を支持して陰險極まる策謀を弄し、立憲タイ國の興隆を阻まんとした。日泰兩國は大東亞戰爭を契機として同盟條約を結び、今やタイ國は米英に向つて敢然挑戰し、東亞諸民族のために萬丈の氣を吐いてゐる。タイ國立憲政治十周年の歴史は、失地回復の數の業績によつて多彩に色どられてゐるが、なかなづくタイ國の大東亞戰爭參戰は燦として光彩を放つものである。この意味において、本日の憲法十周年記念日は一層意義深いものであると共に、大東亞戰爭勝利の進軍がタイ國の立憲史をいよゝ光輝あらしめんことを祈つてやまない。」

タイ國中央銀行開業

タイ國中央銀行は十二月十日の憲法記念祭を期し、坪上首相以下各閣僚出席の下に華々しく開業した。午前九時、坪上首相は開業の辭に次いで、ビブン首相は激動の辭を與へた後、舊香港上海銀行跡の同銀行内を隈なく視察、午前十時、開業式を終了した。なほ中央銀行初代總裁ウイワタナチャイ殿下は左の如く抱負を語つた。

「いよいよ明日より正式に銀行業務を開始する。新紙幣發行業務はこの銀行の最大喫緊事であるから一日も早く實施する豫定である。現在の資本金は二千萬バーツだが業務の擴張に従ひ増資したい意向である。」

ビブン首相日泰同盟一周年を慶祝

ビブン首相は、十二月二十一日午後三時、我が大使館

官邸に坪上大使を訪問、日泰攻守同盟一周年記念に對する慶祝の辭を述べた。

日泰同盟成立一周年記念行事

日泰兩國が攻守同盟の堅き盟約に結ばれてより早くも一周年、その記念日の十二月二十一日バンコックをはじめタイ國各地では戸毎に日泰兩國旗を掲げて祝意を表し各種記念行事が舉行された。首都バンコックでは午前十時からワットプラケオのエメラルド佛陀像前で一周年記念式典が行はれ、泰側ビブン首相以下各閣僚、文武諸官、日本側坪上大使、守屋陸軍、左近允海軍兩武官をはじめ大使館員出席、ビブン首相の祝辭に對し坪上大使の答辭あり、益々盟邦の誓を固くして大東亞建設に努力することを誓ひ、續いて眞言不滅勝利の經文がタイの高僧によつて朗々と讀まれるうちに同十一時すぎ嚴肅な式を閉じた。

更にビブン首相は同日午後四時から首相官邸に日泰官

民多數を招いて園遊會を催し、その他ウイッチット外相主催の祝賀晚餐會、日泰協會主催の奉祝園遊會等が行はれ、同盟締結の感激を新にするとともに、大東亞戰爭完遂の決意をさらに堅めたのであつた。

日泰文化協定批准書交換

日泰文化協定批准書交換式は意義深い日泰攻守同盟締結一周年記念日の十二月二十一日午前十一時から泰國外務省で開催され、坪上駐泰大使とウイッチット外相との間に批准書交換、署名が滞りなく終了した。(日泰文化協定内容は全文前掲)

尙、政府は日泰文化協定批准交換に關し、十二月二十一日夕刻、ラジオをもつて左の如きコミュニケを發表した。

「さきにタイ國政府は日本政府と文化協定を締結し、同協定は佛曆二千四百八十五年十月二十八日駐日タイ國大使並に日本外務大臣間において調印せられたる

更にビブン首相は同日午後四時から首相官邸に日泰官

が、右については同月同日これを發表せり、今回駐タイ日本大使並にタイ國外務大臣間に佛曆二千四百八十五年十二月二十一日タイ國外務省において同文化協定批准書交換を了せり、本協定は批准書交換の日より效力を發生す。」

があると思ひますから、今後大いに文化交流に努め、兩國文化の進歩發展を圖りたいと念願してをります。」

女子士官學校開校

タイ國最初の女子士官學校が、十二月二十八日、ピブン首相夫妻以下陸軍首脳部列席のもとにバンコック市内の陸軍技術學校で華々しく開校式を舉行、十二月二十九日より訓練を開始した。第一回の學生は三十名であるが、ピブン首相、ヴィヂット外相の令嬢もこの中に加つてをり、これら女子士官候補生は一年半の訓練を受けたのち、陸軍少尉に任官され、ユワナリ(女子青年團)より選抜された女子軍隊の若き指導者として活躍するはずである。

駐日大使歸國

ディレック・チャイヤナム駐日大使は要務打合せのため、十二月三十日午前八時五十五分福岡發、空路バンコックへ歸國の途についた。

又、プラユーン文相は右協定締結を慶祝、左の如く抱負を語つた。
「本日、日泰文化協定批准書が記念すべき攻守同盟條約締結一周年を期して交換されたことは、眞に慶賀に堪へません。協定の精神は申すまでもなく、共に戦ふ日本と泰國とが、文化を通じて相互に理解提携して行くといふことに基いたのでありますから、泰國としてもその精神を生かし、先づチュラルロン大學に日本學の講座を設置し、日本文化の理解に努力し、協定を實行に移して行きたいと思ひます。これによる相互の理解は、兩國文化の興隆に貢獻するところが大なるもの

比 島

大東亞戰爭一周年

——ヴァルガス行政長官布告——
ヴァルガス比島行政長官は、大東亞戰勃發一周年記念日を前に、十二月三日、全比島民に布告を發し、左の如く要望した。

「大東亞戰爭は實に比島を米國の支配より解放し、大東亞共榮圈の有力な一環となるべき新生比島樹立の基礎を固めたもので、比島にとつてはその恩恵特に大なるものがあり、大東亞戰爭一周年を意義あらしめるため、全比島民は今後益々勤勞犠牲の精神を振起し、かつ日本を盟主として諸民族の完全なる勝利を贏ちうるため、あくまでこの戰爭を戦ひ抜く決心を新たにしなければならぬ。」

長官級人事異動

比島派遣軍では、アキノ内務部長官退官に伴ふ行政機關長官級の異動を、十二月四日午後一時三十分、左の如く發表した。

- 内務部長官 ベニグノ・エス・アキノ
- 免 本 官
- 司法部長官 ホセ・ビーラワレル
- 任内務部長官
- 主計局長 テオフィロ・シーソン
- 任司法部長官

政黨の實質的解消

比島における政黨は、皇軍入城と同時に、一切の政黨結社の存続を認めない方針により表面上解消されたのであるが、なほ内部的には政黨意識の徹底的拂拭をみるまでは至らなかつた。しかるに、今回政黨自ら覺醒して自主的解消を行ひ、今後は全比島民一丸となつて比島再建

に總力を結集、新たな方向に發足することとなつた。
なほ今回解消した従来の政黨に黨主は左の通りであ
る。

ナシヨナリスタ黨(ホセ・ユーロー)
デモクラタ・ナシヨナル黨(アルフォンソ・メンドサ)
ガナブ黨(ベニグノ・ラモス)
ヤング・ヒリツピン黨(アルツロ・トレンチノ)

國祭リサル記念式典

新に比島の國祭日として制定されたりサル記念日の
十二月三十日には、午前九時半からバゴン、ヒリツピ
ナス公園(舊名ルネタ公園)廣場に於て盛大な記念式典が
舉行され、ヴァルガス行政長官初め各官廳、會社、學校
等の參列者は三萬に及んだが、全員敬虔な黙禱を行つ
た後、新比島奉仕團カリバビ團員ベニグノ・ラモスによ
り、リサルが刑死直前によんだ「訣別の歌」が朗讀され
た。

カリバビ第一回大會宣誓式

—ヴァルガス、アキノ兩氏演説—

リサル記念日の十二月三十日を期して開催されたカ
リバビ(新比島奉仕團)の第一回大會宣誓式において、ヴ
アルガス長官及びアキノ事務總長はそれ／＼左の如き講
演を行ひ、リサールの精神をカリバビ運動の實踐に移す
べきことを強調した。

ヴァルガス總裁—

「四十六年前のこの日の廣場で、比島の生存を信じ
つつ従容として死んだホセ・リサルその人の徳を讀
へることは、比島民の愛國的表現としての年中行事で
ある。我々はリサルによつて代表された比島民の理
想實現のため、前例のない自己犠牲、團結及び超人的
努力の要求に應へるべく、今日ここに集會した次第で
ある。米國の羈絆から解放されて以來、初めて舉行す
るリサル記念日に際し、比島民はリサールの熱烈な

理想であつた西洋支配よりの永久の救済を與へられよ
うとしてゐる。

この日に當り比島民は更に勇猛心を振起し、大同團
結、あらゆる犠牲に堪へて東洋諸國の解放者であり保
護者である大日本帝國指導のもとに、比島民の福祉を
して恒久的ならしめるべき建國不拔の決意をなすべき
であり、この精神を以て私はこの日を新比島奉仕團の
第一回大會舉行日として指定した。カリバビは比島人
の福祉増進を企圖せられる軍政監部において、その設
立に當り激動せられたるところの團體であるが、比島
民は、リサールの唱導した眞理を實踐すべく、今日こ
こに宣誓式を舉行したのであるからホセ・リサールの
靈に對しては最善の饒けである。リサルは西歐諸國
の暴政と誅求とに抗し、比島をして世界にそのところ
を得させるため、如何なる犠牲を拂つてもその目的
を達成しようと鐵石の決意を固め、この理想のために

その全生涯を費し、遂にその生命を捧げたのである。

彼は當初から比島における西歐搾取を攻撃し、その
偽善振りを摘發し、同時に彼は比島民の合同團結、經
濟的復興及び社會的再生を計らうとしたのである。リ
サルは政廳の壓迫を完膚なきまでに非難攻撃すると
共に、一面比島民の國民的缺點の是正を説いた。彼は
比島民の輕佻浮薄と怠惰とを非難し、比島民の分裂的
傾向及び小黨派的抗争を悲しみ、西洋文明を模倣する
餘り比島本來の文化を棄却する比島人を輕蔑したので
ある。彼は比島人であり東洋人であることを誇にして
ゐた。また彼は自分の確信を實行に移すことを少しも
恐れず、名譽と富、家庭及びその生命をも、比島のた
めに捧げたのである。カリバビの團員として新比島の
ため奉仕すべく誓つた私共は、このリサル精神を體
得し、比島建設の聖業達成に獻身奉仕すべきである。
かくてこそ大日本帝國の賢明なる指導のもとに、大

東亞共榮圏内において重要な役割を演じ得る比島の建設が實現されるであらう。」

アキノ事務總長——

「カリバビが創設されて、その最初の大会が比島の大英雄リサールの記念日にあつて開催されたことは誠に意義深いことである。そして又我々が、身命を捧げて戦つた先輩の後をうけ継ぎ共榮圏諸民族の一員となべく努力し、そのためには私心を捨てて義務の遂行に邁進するの急務であることを想起するのにも最も相応しい日である。リサールの生涯は愛國の情そのものであり、同胞のためには身命をも賭して盡さうとする熱烈な奉仕の誠そのものである。この精神は彼が祖國の難に赴くため意を決して歸還する際、両親に當てて送つた書信の内容にも窺はれるのであつて「およそ男子たる者は自己の信念義務の遂行のためには命を賭すべきであり、己れが正しいと信ずることのためには如何

なる危険にも身を曝すべきであると思ふ。」旨の強い決意を披瀝してゐる。實にこの逞しく美しい精神こそカリバビ運動の基礎をなすものであつて、この運動の目的とするところは新比島民にリサールの精神を植ゑつけると共に、東亞諸國の救済者日本帝國の勝利のため比島民も全力を盡す義務のあることを自覺させようとするものである。カリバビは現在日本軍當局から絶大な支援を受けてゐるが、これを通じて我々は、日本の東亞再建の根柢をなす仁慈の精神を窺ひ知り、且つ日本の比島に對する方針が英米諸國の老獪極まる術策とは異なることを諒解する。そして比島民の幸福を目的とするその眞意に我々は衷心から感謝するのである。」

鐵道收入回復

比島の鐵道網は、十二月二十五日、サンパプロ、ルセナ間が再開した結果、ルソン島のみならず、鐵道が復舊し一般營業を開始するに伴ひ、その運賃収入も増加

の一途を辿り殆ど戦前の水準を回復するに至つた。即ち陸運管理局の營業收入調査によると、十二月に入つてから鐵道運賃収入は毎日平均二萬ベソに達し、月末に向つて更に増加、遂に二萬ベソを突破するに至つてゐる。一日平均収入が二萬ベソとして年間収入を算出すれば七百三十萬ベソとなるが、戦前におけるマニラ鐵道會社の年間収入は約八百萬ベソであつたから、殆どこの戦前の數字に近い収入をあげてゐるといふことになり、而も運賃収入は毎日の如く急速度の上昇を示してゐるので戦前の數字を突破するのにも間もないと見られる。かゝる運賃収入の増加原因としては、

- 一、運賃が戦前に比べ若干引上げとなつてゐること
- 一、停車場の数が十二月に入つて増加したこと
- 一、時刻改正により十二月十日から列車回数が増加したこと

などがあげられる。然し列車回数並に營業中の軒数が戦

前に比し尙少い事實を考慮すれば、比島民衆の鐵道利用が増加したことは疑ひなく、特に運賃収入の内譯をみるに乗客運賃は五十五パーセント、貨物運賃は四十五パーセントの割合となつてをり、戦前と全く逆の傾向を示してゐることは、自動車輸送の減少によつて、比島民衆の鐵道利用が明かに増加に向つてゐる事實の證左とされよう。

ビルマ

大東亞戰爭一周年バ・モ長官演説

十二月八日夜ラングーン市公會堂で行はれた大東亞開戦一周年記念ビルマ民衆大會に於て、バ・モ行政長官は左の如く演説し、戰爭完遂の決意を表明した。

「本日はアジア及びビルマの歴史に於て記念すべき日である。ビルマの民衆が他のアジア人と共に解放のため征戰一周年を迎へたのである。我々ビルマ民衆は

最後の勝利が得られるまで断乎して戦はなければならぬ。我々は如何なる手段によっても最後の勝利を得得すべく、また如何なる困難にも打克つとの決意を表明したい。」

なほ八日夜全ビルマ放送局では、畏くも開戦に際して賜はつた 大詔のビルマ語譯を放送、全民衆に 聖旨を傳へた。

印度民衆の決意を要望

——バ・モ長官印度向放送——

バ・モ行政長官は、開戦記念の十二月八日夜、ラングーン放送局より最初の印度向け放送演説を行ひ、大東亞戦争に對するビルマの確固たる決意を述べるとともに、印度とビルマとは結束して米英撃滅に邁進すべきであると強調した。演説要旨は左の通りである。

「余はさきに十二月八日を「アジアの日」と呼ぶことを聲明した。それは歴史上未だかつてなかつたほどアジア

ア諸民族を一致結束せしめつつある大東亞戦争が實にこの日に勃發したからである。今次の戦争は實際的には日本の米英に對する戦ひであるが、またその重大な成行よりみれば根本的にはこの戦争こそ我々の戦ひであり、アジア人の價値と權利及び生存のためのアジア諸民族全體の戦ひである。ビルマの民衆は嘗つて印度及びアジア諸國と同様に米英に侵略され、この屈服の結果によるあらゆる苦しみを嘗めたのみか、この不法侵略のため數世紀に亘つて武装を解除され、貧窮のどん底に突き落され、奴隸となつて酷使されたが、われわれは民族的精神と誇りを維持して、來るべき解放の日を鶴首しつゝ待望し続けた。その日が遂に到來した。その日こそ實に昨年十二月八日であり、全ビルマ民衆は騒起し、仇敵に對抗して日本軍と共に進軍したのであるが、それもいまは歴史となつた。數千のビルマ青年は素足のままで進軍し、日本軍に協力して戦ひ、そ

の背後には全ビルマ民衆が英國驅逐のために結束し、生命の犠牲と、敗退英軍の破壊とを物とせせず戦つた。

これこそビルマ人が大東亞戦争を如何に解決してゐるかを如實に物語るものであるが、もし必要とあれば更に犠牲を拂ふ用意がある。我々ビルマ人は單に我々自身の知性のみならず、我々の血潮と本能とよりかく考へかつ行動したのである。ビルマ人はいまこの戦争に勝ち得るか、しからざれば全てを失ふことを知つてをり、解放の目を齎した日本に感謝するとともに、ビルマの將來が新秩序の下にあることを理解してゐる。印度とビルマが現在の闘争において鞏固なる紐帯をもつて相聯繫してゐることはいふまでもない。歴史は印度とビルマとを聯繫させ、印度とビルマとは共通の敵、英國の支配に對抗して共に闘つてきた。そしてビルマ民衆が印度人の政治思想と指導とによつて向上させられたところ大であつたことは斷言し得る。いまや印度にも絶

好の好機が到來した。全印度民衆にとつては今こそ傳統の仇敵に對抗し、大東亞の進軍に参加すべき秋である。余は一ビルマ人として親愛なる印度民衆が我々に加はり、この偉大な解放の進軍に加はることを勧告する。前途はなほ多難且遑遠、我々の犠牲は更に大きいであらう。しかし我々が絶対に確信してゐることは、最後の勝利が我々のものである、我々全民衆の待望は實現するといふことである。日本、印度、新生支那、ビルマを始め東亞の諸國は相結束してアジア人の解放と勝利の偉大な日を迎へるまで共に邁進するであらう。」

ビルマ庶民銀行開業

我が軍政監部では、さきに農民及び一般民衆の金融機關である印度人金貸業者の取締令を公布してその指導育成に努めてきたが、今回更にビルマ庶民銀行設立を決定、十二月八日の大東亞戦争開戦一周年記念日を期してラングーンの本店を開業した。このビルマ庶民銀行の前身は

さきに我が軍政當局の接收した印度人銀行バンク・オブ・チエチナードで、同銀行は公稱資本金三千萬ルーピー、拂込資本金一千萬ルーピーを有し、接收銀行中では資産内容が堅實で、重役連も残留して開業を希望してゐたため、ビルマの經濟復興に對する印度人資本の参加を容認する見地より、資本金一千萬ルーピーをもつて改めて新銀行設立に決定したもので、チエチナード銀行は從來融資専門であつたのを、今回は融資と一般預金吸收の両面に均等に力を注がせ、經營者には印度人四名を代表重役として選び、軍政監部と正金がこれを監督することとなつた。

タキン・ミヤ内務長官新任

バー・モ行政長官は八月一日就任以來内務長官を兼攝してゐたが、今回タキン・ミヤ無任所長官を専任内務長官として起用することとなり、十二月十七日飯田最高指揮官より正式に任命された。なほ専任長官はこれで九名となつた。尙、タキン・ミヤ新内務長官は十二月十八日

政務を開始するに當り、内務行政當面の目標について左の如く語つた。

「當面の事業として第一に力を注がなければならぬのは治安の確保と民心の安定である。最近の報告を綜合すると、特殊の地方を除いては一般に刑事事件が著減の傾向にあるが、警察官の再訓練及び増員によつて更に徹底させるべくその準備は既に進めてゐる。現下の内政の重要問題は耕農及び農村經濟の改善で、これがためには、特に勞働力の不足を補はねばならない。戦前におけるビルマの耕農勞働力は主として印度人苦力であつて、植付期と收穫期とに印度から大量の勞働力を輸入したが、現在これが杜絶してゐる。そのため當局としては輸送力の改善擴充に力を入れると、同時に各地方の民衆に對し、耕農の重要性を説いて勞働力の補充に協力させるやうにしたい。」

印 度

印度總督任期延長決定

英國政府は皇帝ジョージ六世の勅許を得て印度總督リンスゴアの任期を一九四三年十月迄延長するに決定した旨十二月七日公表した。同總督の任期延長は今度で三回目であり、結局人選難に陥つた結果とみられてゐる。

ボンベイ州知事任命

來る三月十七日任期満了すべきボンベイ州知事ロージヤ・ラムレーの後任に就いては、十二月四日、保守黨議員元スコットランド事務次官デイヴィッド・ジョン・コルヴィル大佐の任命が公表された。

セイロン空軍司令官任命

セイロン島方面空軍司令官タルビアク中將の後任として、十二月二日、リース中將が任命された旨發表された

が、ウエーヴェル印度軍總司令官は、同十四日、セイロン島防衛軍幹部との協議を終へニューデリーに歸還した。

スチルウェル着印

在支米軍司令官スチルウェルは、同日、重慶より空路ニューデリーに到着した。

ビルマ國境警戒布告

ウエーヴェル印度軍司令官はビルマ國境方面警戒のため最近左の如き布告を發した旨十二月十五日印度政廳より發表された。

- 一、ビルマ國境方面において日本人及び日本のためにスパイをなす者を發見した場合は直ちに當局に届出ること
- 二、日本軍の落下傘部隊降下或は地上よりする國境侵入の場合もまた同じ
- 三、右訓令に反するか或は怠慢な者は嚴重に處罰する

カルカッタ空襲に當局狼狽

印度軍當局は、十二月二十日夜以來數次の日本陸軍航空部隊のカルカッタ竝にチッタゴン空襲に關し、その都度損害輕微と發表し、印度政廳側と共に人心の動搖防止に大重となつてゐるが、カルカッタの印度市民は續々離散し始めた模様で、二十八日UP電は、嗟芥蒐集人夫が逃避した結果傳染病發生の危険が生じ、勞働奉仕隊が出勤した旨報じた。

政局停滯は印度各派不一致に起因

——リンリスゴ―總督諒辯を弄す——

リンリスゴ―總督は、十二月十七日、戦時下印度の情勢に就き、

「事態は今や有利となり、侵略に對する準備も整つたが、印度政局の行詰りは印度各派が和協せず、英國政府に代り何人が政權を執るべきかに就き印度人の意見が一致しない事に由來してゐる。」と諒辯を弄した。

總督演説に回教徒激昂

十二月十七日カルカッタにおける印度商業會議所聯合會年次總會席上のリンリスゴ―總督の演説は、各方面に大きな波紋を投げてゐるが、特に同演説中に回教徒の要求に對し一言の發言もなかつたことに關し、回教徒の不満は大きく、二十五日のニューデリー放送によれば、ボンベイ地區回教徒聯盟運用委員會は、二十五日、總督の演説は英國政府が回教徒に與へた約束を裏切るものであると左の如き決議を採用した。

「總督の演説は、回教徒の自治要求を承認しようとする一部の同情ある印度教徒によつて作られたわれわれの小さな希望すら破壊しようとするものである。單一印度政府の設立は回教徒に對する裏切であり、且英國が彼等に與へた固い約束を破棄することを意味するものである。」
一方、回教徒聯盟總裁ジンナーは、

「われ／＼には大西洋憲章も太平洋憲章も全く不必要であり、我々は我々自身のパキスタン憲章を持つのみである。英國も印度政府も我々のこの憲章の信條に對し一指も染めることは出来ない。」と述べ、パキスタンに對する堅い信念を披瀝するとともに、暗にリンリスゴ―演説に反對の意を表明した。

濠洲

大東亞戰爭一周年

——カーチン首相全國放送——

大東亞戰爭一周年を前に、カーチン首相は、十二月六日夜、全國に向け放送を行ひ、チャーチル英首相の對濠洲メッセージを読み上げた後、西南太平洋に於ける米軍の努力を感謝稱揚し、併せて全國民に對して倍舊の奮闘を要望した。

首相等重慶の抗戦を激勵

大東亞戰爭一周年に當つて、カーチン首相は蔣介石に對し、又エヴァアット外相は宋子文に對し、夫々メッセージを送つて、重慶の抗戦を激勵した。

ニューギニア方面濠軍死傷者數

カーチン首相十二月十日の公表に依れば、ニューギニア作戦に於て、十二月一日迄の濠洲陸軍の死傷者は總計二、一九〇名で内戦死者は六四〇名である。

作戦方針再考論擡頭

ニューギニア方面日本軍將士の勇戦敢闘は、敵側に深刻なる印象を與へた模様で、十二月十四日附デーリーメール紙によれば、メルボルンサン紙軍事記者ダグロブ少佐等は、ニューギニアより島傳ひの進撃を続けることは、人命の浪費であるとして、支那大陸及びアリューシヤンよりの空軍反攻を主張し、漸く作戦方針を再考せんとする論調が現れ始めた。

戦後再建省及び農商務省新設

憲法改正審議委員会は、十二月二日、各州特別権限を戦争終了後も七箇年は一先づ聯邦政府に移譲せんとするコスグロープ案を採擇したが、カーチン首相は、右に基いて、戦後再建計畫の大綱立案並に指導のため、戦後再建省及農商務省を新設、初代戦後再建相にはチーフリー蔵相を、農商務相にはスカリー商相を夫々任命した旨十二月二十二日發表した。

共産黨禁壓令解除

エヴァット検事總長は、十二月十八日、共産黨禁壓令を解除する旨を聲明した。

一九四二年度小麦收穫高

一九四二年度小麦の收穫高は、植付面積一割五分の減反にも拘らず、一億四千五百萬ブッシェルに達する見込で、前年よりの繰越を合すれば、國內需要及對外輸出に不足はないと云はれる。

砂糖割當制實施

濠洲政府は來る一月四日より砂糖の割當制を實施する旨十二月三十日發表した。

ニュージーランド

物價賃銀安定策發表

フレザーア首相は、十二月十六日、全國にわたる物價に賃銀の安定策を發表した。その内容左の通りである。

一、酪農品、肉類、果實、野菜、燃料、家具等日用品百

十品目の價格統制

一、一般俸給、賃銀、時間外労働賃銀、各種手数料等の

統制

尙、統制された賃銀の引上げには特別の調停裁判所の許可を必要とすることとなつたが、フレザー首相は右統制策實施に當りニュージーランドの國民購買力は一九三

九年以來五千萬磅方増加したのに對し、消費財の供給は同期間約四千萬磅方の減少を示したと述べ、統制實施の必要なる所以を強調した。

南阿聯邦

ケープタウン燈火管制實施

ケープタウン市並に其の郊外では、従來街燈乃至自動車へのヘッドライトにのみ燈火管制が行はれてゐたが、同市軍當局は十二月七日以降全市家屋の燈火に警戒管制を實施する旨を布告した。

英本國よりの借入資本返済

十二月二十三日倫敦發UP電に依れば、英國各自治領は經濟的に益々英本國の拘束を脱しつつあるが、南阿聯邦政府も近く英本國よりの借入資本四千二百萬磅を全部返済する旨を發表した由である。

カナダ

キング首相歸國

十二月四日ワシントンにルーズヴェルト米大統領を訪問協議中であつたカナダ首相マッケンジー・キングは十二月七日オッタワに歸還した。

新設飛行場二百有餘

政府當局は過去一年間に國內に二百有餘の飛行場を新設した旨十二月七日發表した。右飛行場は空軍基地として重要役割を果す以外に商業航空基地として米國との空の連絡に當るものである。

二十五歳以下全男子軍籍編入

ミチエル労働相は既婚未婚を問はず十九歳以上二十五歳迄の男子は全て一九四三年一月以降軍籍に編入されることとなつた旨十二月十六日言明した。因にカナダ陸

軍の現有兵力は三十三萬五千名である。

軍需労働者八百萬

ロルストン国防相は十二月十八日カナダの軍需生産の現状につき左の如くに語つた。

「カナダは英國防衛の一翼として軍需品の増産に邁進してゐるが、現在各種軍需工場で勞務中の男女勞働者は約八百萬に達してゐる。一九四二年中にカナダよりは本國に送られる軍需品は總額二億五十萬磅に上る見込である。」

全生産力の五割五分は軍需關係

十二月上旬開催されたカナダ商業銀行株主總會においてローガン頭取は現在カナダの生産力の五割五分は軍需生産に充てられてゐると發表した。なほローガンの語る所によると國民所得も増大し、現在國民所得總額は八十億弗に達してゐるが、その内譯は次の通りである。

賃金所得 五〇%。

農業所得 一五%。

投資利潤その他 三五%。

なほローガンは購買力の増大化に對し消費財供給は大幅に減少し、カナダは現在危局に直面してゐる旨附言して、これが對策として餘剰収入公債並に貯蓄債券を大々的に發行、過剩購買力の吸収に努める必要があると強調した。

バター配給實施

政府は既にガソリン、砂糖、紅茶、コーヒーの割當制を實施してきたが、十二月二十日から更にバター配給割當を實施した。一週間の割當量は一人當り半ポンドである。

小麥收穫豫想

統計局は、十二月上旬、一九四二年度小麥收穫豫想を六億三千八百萬ブツシユルと發表したが、これはカナダ有史以來の最高記録で、前年の實收高に比し二倍餘の激

増である。

尙過去におけるカナダ小麥收穫高は次の通りである。

一九三六年	二一九、二二八
一九三七年	一八〇、二一〇
一九三八年	三六〇、〇一〇
一九三九年	五二〇、六三三
一九四〇年	五五一、三九〇
一九四一年	三一一、八二五
一九四二年(豫想)	六三八、〇〇〇

(單位千ブツシユル)

アルゼンチン

戒嚴令延長布告

アルゼンチン政府は、一九四一年十二月十五日一ヶ年の期限を附して全國內に戒嚴状態を宣布し、言論機關その他を統制して來たが、現下國際情勢の機微に鑑み、政府は十二月十四日緊急閣議の結果右戒嚴状態の無期限延長を決定、十二月十四日その旨正式に發表した。

小麥、亞麻仁事情

一、政府は、十二月中旬、一九四二年度小麥及び亞麻仁輸出可能量を次の如く發表した。(單位千トン)

小麥	八、四〇〇	四、六一〇
亞麻仁	三、二二〇	一、七二〇

右の如く、一九四一年度に比し、いづれも輸出可能量は激増を來してゐるが、これは同品農産物輸出の杜絶状態を示すものとされてゐる。

二、政府は、十二月中旬、第一回小麥收穫豫想を六百六

國外通信制限實施

國外通信制限に關する大統領令は十二月二日附公布され、同日附郵政局決定と共に同十一日より實施された。

十萬トンと發表した。これは一九四一年度第一回公報の六百十萬トンに比し五十萬トンの増加にあたる、一方亞麻仁收穫豫想は百六十萬トンで前年度最終豫想と變らない。

三、農務省發表による十一月二十八日現在の小麦、亞麻仁の在荷額は次の通りである。

小麦 一、七四二、八六八噸
亞麻仁 四、六二四、五五五噸

對石油供給を中止

アルゼンチン國營石油會社は、從來アングロ・エクアドル石油會社との契約により年二十萬噸の原油を同社に供給してゐたが、今回右契約を解除し、國內で精製することになつた旨十二月十日發表した。

十一月間の亞國貿易

十二月下旬の政府發表によれば、本年一月より十一月に至る十一月間の同國對外貿易は、輸出十六億二千

四百七十億二千ペソ、輸入十二億八千七百十三萬三千ペソで、輸出超過額四億三千七百五十六萬九千ペソであつた。右を前年同期に比すれば次の通りである。

輸 出	輸 入
一九四二年 十一月	一、六二四、七〇二
前年同期	一、一八七、一三三
前年 比	一、三三八、五四二
前年 比	一、一三三、六八九
前年 比	二二・三%増
前年 比	四・八%増

又、數量の點から見れば次の通りである。

輸 出	輸 入
一九四二年 十一月	四、九一五、五七〇
前年同期	四、一四一、一〇〇
前年 比	五、七七〇
前年 比	三、八七〇

更に輸出を國別に見れば、英米兩國よりの輸入が減少し、これに對し一般に南米諸國よりの輸入増加が目立つてゐる。對外貿易額を國別にパーセンテージで示せば左の通りである。

一、輸 入

輸 出	一九四二年十一月	前年同期
米 國	三三・一%	三四・九%
英 國	一八・四	二一・七
ブラジル	一七・四	一〇・七
瑞 典	七・〇	一・四
印 度	四・九	四・五
チリ	二・九	二・一
瑞 士	二・六	二・〇
グエネズエラ	二・四	一・六
中米關領植民地	二・三	四・〇
カナダ	二・〇	三・三

輸 入	一九四二年十一月	前年同期
英 國	三三・四%	三二・五%
米 國	三八・三	三六・八
ブラジル	六・〇	六・〇
瑞 典	四・二	〇・九
南 阿	三・七	〇・九
チリ	三・三	二・〇
スウェーデン	二・七	四・七
スペイン	二・四	一・三
ポリアリア	二・一	一・六

なほ主要輸出品目について前年同期に比しての増減をみると次の如くである。(單位%は減+は増)

品 類	額	數 量
肉 類	卅四・三	卅 七
皮 革	卅一・七	(-) 七
羊 毛	(-) 二・三	(-) 四〇・六
穀物及亞麻仁	(-) 九・六	(-) 二七・四

チリ

モラーレス内相訪米

モラーレス内相は病氣療養を名として十二月二日サンチャゴ出發、同十一日華府到着、十六日、ハル國務長官及びウエルズ國務次官と會談、翌十七日にはルーズヴェルト大統領(ウエルズ次官同席)、十八日にはウオーレス副大統領と夫々會見し、種々協議する所あつたが、同内相がウエルズとの第二次會談を終へ、二十五日紐育を出發する頃には、チリーの對樞軸斷交必至説が各方面より流布されるに至つた。

上院秘密會外交政策を檢討

上院は、十二月十五日以來、十六、二十二、二十三、二十九、三十日等の數日に互り秘密會を開催、樞軸國との關係その他に關するフェルナンデス外相の説明を聴取し、外交政策に就き檢討を加へた。

米大使リオス大統領と會見

駐智米國大使クロード・パワースは十二月二十二日、リオス大統領、フェルナンデス外相と會見したが、會談内容については何ら發表されなかつた。

智・ウ通商協定

政府は、十二月中旬、ヴェネズエラ政府との間に通商協定を締結、チリーより農産物を供給し、ヴェネズエラより石油、コーヒー、ココア及び砂糖を輸入することになつた。

ボリヴィア

戒嚴令布告
カタヴィ錫鑛山坑夫の賃銀十割値上げ要求に端を發したボリヴィア國內の鑛山罷業は全國に波及し、十二月十六日に至り罷業者總數は一萬八千に達した。情勢の重大化にベニアランダ大統領は、十二月十四日、ラパス、オルロ、ポトン、コチャ・パンバ、スクレその他の錫鑛山地帯に戒嚴令を布き、一切の政治的集會並に勞働組合の集會を禁止すると共に、鑛山業、製造工業、輸運輸業その他これらと關係ある一切の經濟活動を軍の保護下に置いた。尙、軍當局は現下の重大時局に際し治安攪亂を企圖するのは叛逆行爲に均しいとの建前から「治安回復には如何なる手段をも辭しない」との強硬聲明を發表した。

左翼領袖を逮捕

政府當局は、十二月二十日に至り、錫鑛業の中心地コトシーにおいて、極左派領袖エンリケ・アルコーバ並にワルド・アルヴァレスを逮捕した。

エクアドル

大統領歸國
豫て訪米中であつた大統領アロヨ・デル・リオは十二月四日歸國した。

パラグアイ

樞軸資金移動禁止令
政府は、對樞軸斷交の實狀に鑑み、十二月七日、日獨伊三國並に三國占領地域との間の資金移動を禁止する法令を發した。これにより樞軸國との一般商取引は勿論、樞軸國の凍結資金を基礎とする商業活動も禁止され、三國向け商品に對する輸出許可證の發給は中止された。

ウルグアイ

次期大統領にアメサガ當選
次期大統領選舉最終開票結果は十二月一月左の通り判明し、政府黨たるコロラド黨の立候補者アメサガが當選した。

アメサガ (政府黨)	二八八、〇〇〇票
エレラ (國家黨)	一一〇、〇〇〇票
マルティネス (獨立國家黨)	五五、〇〇〇票
共產黨候補	一三、〇〇〇票

外相留任

次期大統領選舉の結果、副大統領に當選したアルベルト・グアニー外相は、新内閣においても引續き外相を兼攝するとみられてゐるが、ウルグアイ憲法では副大統領が當然上院議長を兼任することになつてゐるので、同外

相は來年五月一日から自動的に上院議長をも兼任することとならう。

大統領華府訪問

現大統領アルフレッド・バルドミルは、ルーズヴェルト米大統領の招請に應じワシントンを訪問する旨十二月二十七日發表した。

メキシコ

ド・ゴール政権承認

政府は、佛國ヴィシー政府と斷交の結果、去る十二月一日附をもつてド・ゴール政権を承認するに決定し、二日外務省から左の通り發表した。

「メキシコ政府は去る十一月ヴィシーのフランス政府と外交關係を斷絶した結果、パデイヤ外相はド・ゴールに對し同派委員會とメキシコ政府との關係を協議す

るため代表をメキシコに派遣するやう要請する通牒を發した。」

初代駐蘇公使任命

政府は、十二月四日、在ワシントン、メキシコ大使館參事官ルイス・クインタニラ博士を初代駐蘇公使に任命した旨發表した。

キューバと軍事協定締結

最近入手したメキシコ新聞によれば、去る十月二日、メキシコ、キューバ間に、要旨左の如き軍事協定が締結された模様である。

- 一、兩國の航空機及艦艇は夫々兩國の一定地域内で無制限の行動の自由を有する。
- 二、右に必要な燃料及糧食の相互補給を行ふ。
- 三、兩國政府は自國內の諜報その他利敵行動について、相互に情報交換をなし、之が抑壓に協力する。

スペイン

「自由主義的思考を清算せよ」

——フランコ統領演説——

統領フランコ將軍は、十二月八日開催されたフアンヘ黨全國委員會席上、要旨左の如く演説した。

「スペイン國民は三ヶ年間の内亂時代とそれに引續く三ヶ年間に國家的統一を強化すべく奮闘して來たが、今後更に祖國の永久的な價値を保全するためには、一層前進しなければならぬ。この際余はスペイン國民に對し古い自由主義的な考へ方を清算するやう要請する。スペイン國民は何ら歐洲と共通するところのない世界に屬してゐるのではない。現在世界は舊體制崩壞の眞只中にあり、新たな時代は正に到來しやうとしてゐるのである。自由主義は自らの過失によつて敗退

したが、資本主義も亦増大された富を分配しなかつたために崩壊し去らうとしてゐる。資本主義に基く人類の困窮を救済するためと稱し、マルクス主義並に共產主義はロシアに暴虐な獨裁政治を樹立し、イタリア國民も同様の危機に當面したが、ムッソリーニ首相は天才的な手法を以てファシスト的解決方法を確立し、ドイツ國民も亦國家社會主義によつて國內の不安を克服した。スペイン國民が赤色委員會と人民戦線のために共產主義の渦中に投ぜられたときに祖國を救つたのは同じく國家主義的運動である。スペイン革命はスペイン國民のカトリック信條と相俟つて國內における社會的國家的な一切を統合した。世界の歴史的運命はボルシエヴィズムの慘虐な鐵鎖によるか乃至スペイン國民の愛國的な精神主義によつて決定されよう。ロシアの共產主義と併行して自由主義的な歐洲が存在出來ると考へるのは全くの夢物語である。國家の元首が何人であ

るかは重要な問題ではない。必要とあればスペイン國民は傳統的國家組織即ち王政に復歸することも敢て辭するところでないが、飽くまで革命の精神に合致することが必要である。フアランへ黨の全委員會はスペイン國民の大業達成を促進させるために召集された。前途には幾多の困難が横はつてゐるであらうが、國民は鐵の精神を以て飽くまで理想の實現に向つて邁進せねばならない。」

ホルダナ外相訪葡

政府は十二月十四、十五兩日に互り緊急閣議を開催し、國際情勢について検討を加へたが、十六日夜、外務省より次の通り發表した。

「スペイン外相ホルダナ伯は、さる二月のポルトガル首相サラザール博士マドリッド訪問に對する答禮として、閣議の承認を受けリスボンを訪問するに決定した。」

ホルダナ外相は、十二月十八日、參謀次長、外務省政務、經濟兩局長、フアランへ黨幹部等を帶同、リスボンに到着、ポルトガル政府首脳部との重要會談を終へ十二月二十二日午後一時マドリッドに歸還した。

政府は、同日、今次會議に於て西葡友好不可侵條約並にその附屬議定書に關する意見交換を了し、兩國間の見解が完全な一致を見るに至つた旨のコミュニケを發表した。

造船界活況

造船界は、豫算三億一千八百萬ペソ、大小商船十八隻の政府造船計畫をめぐつて活況を呈してゐるが、十二月中旬ビルバオ造船所において九千グロス噸の貨物船四隻が起工された。なほ近く同噸數の貨物船二隻及びセルヴァンテス級驅逐艦一隻の起工を見るはずであるが、右はアルゼンチンの注文によるものであると傳へられる。

スペイン銀行總會

スペインの中央銀行であるスペイン銀行は、十二月二十九日、過去六箇年間内亂その他により中止してゐた株主總會を開催、一九三六年來の同行業績を發表し、各方面の興味を惹いた。總會席上における同行總裁の報告要旨は次の通りである。

一、一九四一年末におけるスペイン銀行券流通高及び金準備高は

流通高 一三、五三五、八〇〇千ペセタ
金準備高 四六一、七〇〇

と云ふ數字を示したが、この他政府の銀保有高は六億一千六百萬ペセタに上り、更に代理店銀行は二千五百萬ペセタの金乃至は外國爲替を有し、マドリッド市中銀行は五千四百萬ペセタに上る貴金屬類を保有してゐる。

一、一九三六年の内亂勃發以來一九三九年九月までにスペイン銀行がフランコ政府に對して行つた貸付額は總

計百一億ペセタに上つてゐる。

一、佛西國境のモンド・マルサンにあるフランス銀行支店からスペイン銀行に持ち込んだ金は一億三千九百萬ペセタに上つた。

一、スペイン銀行は二億四千二百萬ペセタ（弗貨換算千四百萬弗）に上る銀を米國政府に賣却したがこれは買戻すまでには至つてゐない。

一、民間銀行のスペイン銀行預入金は現在自由勘定六億五千三百萬ペセタ、封鎖勘定四億九千七百萬ペセタに上つてゐる。

一、スペイン銀行の資本金は依然一億一千七百萬ペセタで、準備金は三千三百萬ペセタ、緊急積立金は千八百萬ペセタである。

ポルトガル

緊急閣議

スペイン外相ホルダナ伯の到着に先立ち、ポルトガル政府は、十二月十七日夜首相サラザール博士司會の下に閣議を開催、國際情勢につき重ねて検討を加へた。

イベリア・ブロックの結成

サラザール首相以下の政府首脳は、十二月十八日リスボンに到着したスペイン外相ホルダナ伯と中立維持に關する共同政策につき協議を重ねてゐたが、十二月二十日、兩國間にイベリア・ブロックが結成された旨サラザール首相主催ホルダナ外相歓迎午餐會における兩相挨拶の形式を以て發表した。その要旨は左の通りである。

サラザール首相挨拶

「隣邦スペインの外交政策は常にポルトガルとの恒久

的友好關係を維持しポルトガル政府との間にイベリア・ブロックを形成するにあつた。兩國間には相互に獨立と特殊の立場とを尊重しつゝ協力する諒解が成立したが、この結果兩國に多大の利益が齎らされるばかりでなく、文明に對する兩國の義務遂行にも寄與するところがあらう。」

ホルダナ外相答辭

「西葡兩國の政策は戦火の波及をあくまで回避せんと欲する兩國民の意圖を實現するにあり、兩國の形成したイベリア・ブロックは、平和的要素として、また道徳性の象徴として、刻下の國際政局に貢獻するところ頗る大である。」

會てスペイン内亂に際しポルトガル義勇軍はイベリア文化のため血を流したが、今日西葡兩國民は當時に勝るとも劣らぬ熱意をもつて國際政局における兩國現在の地位を堅持しようとしてゐる。」

葡紙戰爭不介入方針確立を強調

ポルトガル有力紙アリオ・デ・ノチシアスは、十二月二十四日、過般スペイン、ポルトガル兩國間に成立したイベリア・ブロック協定の意義につき、次の如く論じた。

「去る二十日、西葡兩國間に締結されたイベリア・ブロック協定は、全然平和のブロックを目的とするものであり、他の如何なる第三國にも脅威を與へるものではない。即ち西葡兩國は同協定の締結をもつて戰爭不介入の根本方針を確立したのである。」

米機ポルトガルに不時着

米英空軍のポルトガル領侵犯事件が最近頻りに増加して來てゐる折柄、十二月二十七日午後またく米戦闘機二機がリスボン郊外の飛行場に不時着した。搭乗員は兩機の焼却を企てたが、飛行場の警備員に阻止され、抑留處分に附された。

首相英大使と會見

首相サラザール博士は、十二月二十九日、英國大使ロナルド・キャンベルと長時間に互つて會談を遂げた。但し會談内容については全然發表されなかつた。

スエーデン

瑞獨貿易取極成立

外務省は、十二月二十日、一九四三年度貿易に關し瑞獨間に成立した取極の内容及び一九四二年度貿易實績に付いて發表したが、その要領は左の通りである。

輸出品

	一九四二年度	一九四三年度
木材	二四万噸	三六〇〇万噸
セルローズ	二〇万噸	一〇万噸
紙	(内人需用一四万噸)	(内人需用五万五千噸)
鐵	五万噸	五万噸
鐵及鋼材	八二〇万噸	
	三万三千噸	

鉄 鐵 三万噸

尙、右の内一九四三年度分は上半期量で下半期量は次に記する石炭コークスの輸入量の實績により決定する。

輸入品

石炭・コークス	一九四三年度 三二〇万噸	一九四二年度 五〇〇万噸
(但シ協定量五七〇万噸)		
高 品 鐵	七万二千噸	三〇万噸
合 成 ゴ ム	二〇〇万噸	一、八〇〇万噸
纖維工業製品	一億千九百噸	三、八〇〇噸
機械器具	一億九百噸	一〇万噸
紙		二二万噸
食 糧		六万噸
クローベル鹽		三万噸
曹 達		三万噸
クロールカルシ		三万噸
ユーム		五千噸
珪 酸 加 里		一、二〇〇噸
人 絹		

尙、一九四二年度一月より十二月十五日迄の當ストツクホルムのクリアリング勘定は

拂 込 高 八四、七〇〇万クローネ

拂 出 高 八一、六〇〇万クローネ

又、同勘定の年度末の總額を見ると

一九四二年度拂込 一七五、〇〇〇万クローネ

一九四一年度拂込 一九一、二〇〇万クローネ

尙、一九四二年度末迄の對獨信用供與額は、

一一、五〇〇万クローネ

であり、一九四三年度上半期は供與しないで、下半期分に對しては後日に協議する趣である。

對諾貿易状況

一九四〇年七月より一九四二年末に至るスエーデンの對ノールウェー貿易總額は三億五千萬クローネで一九四二年の分は一億二千萬クローネに止つて居る、其の主要品目は次の如くである。

輸入品 肥料、硫黄、鐵礬石、金屬、魚類
輸出品 木材、鐵及鋼材、機械器具、ボールベアリン

グ、藥品、食料品

尙、右の内食料品は、

馬 肉	三〇〇噸
トナカイ肉	四〇噸
豆類(雜馬尾産)	一、四〇〇噸
精 蜜(丁抹産)	一、二〇〇噸
砂 糖	二、四〇〇噸
馬 鈴 薯	五、六〇〇噸

其の總額は六百二十萬クローネである。

尙、スエーデンは、諸威の食糧難救済の爲に中南米貿易に對して船腹提供の用意があるが、英國側は諸威への食料品再輸出を許可しない由である。

經濟使節團歸還

過般米ワシントン訪問中であつたスエーデン經濟使節團は十二月二十八日ロンドン經由ストックホルムに歸還した。同使節團はワシントンにおいて米瑞兩國間の經濟

關係促進につき協議を遂げたが、具體的内容については未だ發表されてゐない。

瑞船損失數量

政府當局の發表によれば、今次戰爭勃發以來本年十一月十七日迄に、交戦國側より安全航行の許可を得て海外貿易に従事した瑞典船舶數はゴテンブルグ入港船八十一隻、その積載輸入品價格五億五千萬クローネ、出港船九十四隻、その輸出品價格二億六千萬クローネ、現在南米貿易に使用されるものは三十一隻で、外にスエーデン赤十字社により希臘宛食糧援助の爲使用されるもの九隻、擊沈又は觸雷による喪失數百六十二隻、此の噸數總計四十二萬二千噸で、その見積價格三億クローネを超へ、船員死者も千九名に上つた。

前大戰中の喪失數は二百八十隻 合計二十九萬一千噸、其の見積價格二億二千萬クローネ、船員死者は七百九十四名である。

国防強化方策決定

政府は屢次に互る閣議を経て愈々本格的な国防強化方策を決定、十二月二十二日公報をもつて右の趣旨を明かにした。公報内容は左の通りである。

「政府は今年の冬季及び明年春季に互つて国防の擴充を實施するに決した。スエーデンは現在戰場から遠く離れてはゐるが、最近續發した諸種の事件に鑑み、戦争が必ずしも國內に波及しないとは斷定出來ないので、常に待機の姿勢を持し、国防の強化を計る必要がある。」

フィンランド

大統領選挙完遂決意披露

大統領リスト・リチ博士は、十二月十三日ラジオを通じ、最後の勝利まで戦ひ抜くフィンランド國民の決意を披露して、次の如く述べた。

「フィンランド國民は勝利を収めるまで戦ふであらう。國民は現在生死を賭しての戦争に従事してゐることを知つて居り、その前途に横たはる幾多の艱難辛苦に耐へる決意である。」

ブルガリア

共産分子一齊檢舉

ソフィア警視廳は、十二月五日、突如ソフィア市と外部との連絡を遮断するとともに、交通機關の運行を停止し、一般市民の外出を禁止して、市内に潜伏する共産分子を一齊に檢舉したが、午後六時半に至り檢舉は終了した。

ギリシヤ

内閣更迭

コロゴグル首相は健康が勝れないため十二月二日辭職し、ロゴセトプラン教授を首班とする後繼内閣が組織された。

新内閣の顔觸れは次の通りである。

- 首相・文相兼攝 ロゴセトプラス教授
- 財政經濟相 ゴドザマニス
- 運輸交通相 モートシス
- 内務保安相 タユーラリス
- 法 相 マルコウ
- 國 防 相 バコス將軍
- 農業補給相 チロニコス
- 勞 働 相 カリウス

スイス

大統領改選

聯邦議會は、十二月十七日午前大統領選挙を執行した結果、大統領には現副大統領兼選相エンリツコ・チェリオが當選、副大統領には經濟相ヴァルター・シユテンブリが當選した。

領空侵犯對英抗議

政府當局は、英空軍のスイス上空侵入に關し、十二月十二日左の通り發表した。

「十二月十一日夜外國飛行機がスイスのオバーウオリリス地方に焼夷弾を投下、停車場施設その他に損害を與へ、同地方に山火事を發生せしめた。過激來殆ど毎夜行はれてゐた外國機によるスイス領空侵犯に引續く今回の不法攻撃に鑑み、スイス政府は英國政府に對し嚴重抗議を提出した。」

更に、十二月十四日には閣議を開催、英空軍の相次ぐ上空侵犯に就き對策を協議したが、閣議後次の通り發表した。

「スイス政府は英空軍の領空侵犯に就き協議を遂げた結果、従来英國政府に對する抗議が殆んど何等の効果がなかつたにも拘らず、依然として、スイス國の中立尊重を要求するに決定した。同時に中立侵犯に對しては従来同様一切の對策を講ずる方針である。」

トルコ

米蘇兩大使暗躍

アンカラ駐米國大使スタインハートはワシントンに於てルーズヴェルト竝にハルトと數次に互り協議を遂げた結果、十二月七日アンカラに歸任し翌八日トルコ外相ヌマン・メネメンジヨグルと會見したが、右會見直後ソヴェト大使ヴィノグラドフも亦同外相を訪問し、會談を遂げた。更にサラジヨグル土首相は、九日午後六時、ヴィノグラドフ大使を官邸に訪問し、長時間に互り會談し

た。右會談の結果蘇土兩國間にある種の諒解が成立したとの風説が外交界に流布されたが、トルコ官邊筋では十二月中旬この風説を否定したと云はれる。

在外使臣相次いで歸國

政府は、地中海の情勢緊迫に鑑み、ロンドン、ベルリン、テヘラン、クイブイシエフ駐割の各大使を本國に召喚したが、アリカン駐獨大使が十二月十八日歸還したのに引続き、アシカリン駐蘇大使も同二十七日アンカラに到着した。

獨大使暗殺未遂事件公判終了

トルコ法院において審理中であつたトルコ駐割獨大使フォン・パーベン暗殺未遂事件は十二月二十三日の公判をもつて終了、加害者蘇聯人二名はそれ／＼十六年八月の禁錮に又トルコ人被告は十年の禁錮に處せられた。

アナトリア地震死傷四千名

政府は十二月二十三日現地からの報告に基き北部アナ

トリア地方の強震による被害は死者千名、傷者三千名に達した旨發表した。右發表によればエルビア村落は殆ど全滅し、煙草産地として著名なアルゲークでは地震に次いで大火災が起り、全部灰燼に歸したといはれる。

イラン

テヘランその他に食糧暴動勃發

米英蘇各國軍の國內駐屯によりイラン國內の食糧不足は益々深刻化し十二月九日遂に首都テヘラン市その他各地に相當大規模な食糧暴動が勃發した。(詳細は本號國際時報中「西亞諸國の食糧不足とイランの食糧暴動」参照)

臨時議會召集

政府は、國內各地に勃發した食糧暴動その他に關する對策を慎重協議するため十二月十五日臨時議會を召集した。

首相慰撫放送

サルタネフ首相は、十二月十五日夜、食糧暴動勃發により物情騒然たる國民を慰撫すべく要旨左の如き放送演説を行つた。

「聯合國駐屯軍隊が食糧饑饉の根源だとの宣傳は事實無根であつて、暴動の原因は食糧の配給難に基くものである。本年イラン北部の小麥其他穀類の不作は人力の如何ともし得ない所であつたが、幸ひにしてフーズスタン、ケルマン等南部諸州の收穫は比較的良好であつたから、政府は直ちに一切の運輸機關を動員して、これら諸地方からテヘラン及び北部諸地方に食糧を急送してゐる。他方英蘇も亦隣接地方よりイラン國內に食糧を移入しつゝあり、本問題は近く解決するものと信ずる。尙、當局は暴動の首謀者一五六名を檢擧し嚴重取調中であるが、國民は當國のみならず隣邦トルコ、アフガニスタン、イラク等に於ても同様の食糧難

が存在することを知るべきである。」

戒嚴令全國に擴大

新聞報によれば、政府は去る十二月九日の食糧暴動に對處してテヘラン市その他に戒嚴令を布いたが、十二月二十五日に至り遂に右戒嚴令を全國的に擴大した模様である。



昭和十八年一月二十三日印刷
昭和十八年一月二十五日發行

(非賣品)

情報局

印刷者 内閣印刷局